

2013（平成 25）年

沖縄県感染症発生動向調査事業報告書

沖縄県

保健医療部健康長寿課
沖縄県衛生環境研究所

はじめに

沖縄県の感染症発生動向調査事業の推進につきましては、一般社団法人沖縄県医師会をはじめ、定点医療機関など関係者の皆様方に多大なご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

近年、感染症を取り巻く状況は、医学・医療の進歩、公衆衛生水準の向上、国際交流の活発化等により著しく変化するとともに、新興・再興感染症が問題となっています。昨年を振り返ると、国外では、中東地域を中心に新しいコロナウイルス感染症である中東呼吸器症候群（MERS）が発生しました。また、中国では鳥インフルエンザ A（H7N9）が猛威を振るい、238 人の感染者と 58 人の死亡者が報告されました（2014 年 1 月末時点）。一方、国内では、新しいマダニ媒介性のウイルス感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が、西日本の 13 県で高齢者を中心に 48 例の感染が確認され、このうち 17 例で死亡が報告されました（2013 年 12 月末時点）。また、風しんの大規模な流行が全国でみられ、県内でも同様に 20～40 代を中心に 52 例が報告されました。幸いなことに、本県では先天性風疹症候群（CRS）の患者報告はありませんが、風しん及び CRS 患者の発生動向については今後も注意する必要があります。

本事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施しており、感染症の発生動向を継続的に把握し、その分析を行い、情報を公表することによって、感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。本県では、医療機関から届けられた患者情報及び病原体情報を基に、感染症の発生及び流行状況を解析・評価し、週報・月報として医療機関等に情報を還元するとともに、沖縄県感染症情報センターのホームページに掲載することで、広く県民に情報提供を行っております。

県としては、引き続き関係機関と連携を図りながら、本事業の一層の推進と感染症対策の強化に努めて参りたいと考えております。本報告書が、県内外の感染症の流行予測、予防接種など感染症対策の参考資料としてご活用いただければ幸甚に存じます。

平成 26 年 8 月

沖縄県保健医療部健康長寿課長

目 次

医療機関届出対象感染症一覧	1
I 事業の概要	3
(1) 保健所別定点数（県内）	4
(2) 報告週対応表（2013年）および定点種別定点数（全国）	5
(3) 感染症発生動向調査事業定点医療機関一覧（県内）	6
II 報告の概要	7
1 全数把握感染症（一～五類:79疾患）の報告状況	
(1) エキノコックス症	7
(2) レジオネラ症	7
(3) 風疹	7
(4) 侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症	8
2 五類定点把握感染症(週報19疾患、月報8疾患)の報告状況	
(1) 週報	
ア インフルエンザ／小児科定点	8
イ 眼科/基幹定点	9
(2) 月報	
ア 性感染症(STD)／基幹定点	9
3 週別患者発生状況	
(1) 報告数一覧表（沖縄県）	11
(2) 報告数一覧表（全国）	11
(3) グラフ一覧（沖縄県）	12
(4) グラフ一覧（全国）	15
4 月別患者発生状況	
(1) グラフ一覧（沖縄県）	18
(2) 報告数一覧表（沖縄県）	18
(3) グラフ一覧（全国）	19
(4) 報告数一覧表(全国)	19
III 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)	
1 週報	
(インフルエンザ/小児科定点)	
インフルエンザ	21
RSウイルス感染症	24
咽頭結膜熱(プール熱)	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28
感染性胃腸炎	30
水痘	32
手足口病	34
伝染性紅斑	36
突発性発疹	38
百日咳	40
ヘルパンギーナ	42
流行性耳下腺炎	44

(眼科定点)	
急性出血性結膜炎	46
流行性角結膜炎	48
(基幹定点)	
細菌性髄膜炎	50
無菌性髄膜炎	52
マイコプラズマ肺炎	54
クラミジア肺炎	56
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	58
2 月報	
(性感染症(STD)定点)	
性器クラミジア感染症	60
性器ヘルペスウイルス感染症	60
尖形コンジローム感染症	60
淋菌感染症	60
疾患別報告数	61
性器クラミジア感染症の性別・年齢別患者報告数	62
性器ヘルペスウイルス感染症の性別・年齢別患者報告数	62
尖形コンジロームの性別・年齢別患者報告数	63
淋菌感染症の性別・年齢別患者報告数	63
(基幹定点(薬剤耐性菌))	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(MRSA)	64
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(PRSP)	66
薬剤耐性緑膿菌感染症	68
薬剤耐性アシネトバクター感染症	70

IV 資料編

1 各表

表1 疾病分類別報告数 (沖縄県・2013年)	73
表2 疾病分類別報告数 (全国・2013年)	76
表3 疾病別、年齢別区分による比較 (週報・沖縄県・2013年)	79
表4 疾病別、年齢別区分による比較 (週報・全国・2013年)	80
表5 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・男女・2013年)	81
表6 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・男性・2013年)	82
表7 疾病別、年齢別区分による比較 (月報・女性・2013年)	83
表8 年次別、報告数 (実数、定点当たり (月平均))	84

2 全数把握感染症 (全医療機関報告・2013年1月1日～12月31日)

(1) 一類感染症	98
(2) 二類感染症	98
(3) 三類感染症	116
(4) 四類感染症	119
(5) 五類感染症	121

3 定点把握対象 五類感染症 (週報および月報)

感染症発生動向調査システム 警報・注意報の解説	129
-------------------------	-----

(1) 週報

(インフルエンザ/小児科定点)

インフルエンザ	130
RSウイルス感染症	132

咽頭結膜熱(プール熱)	134
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	136
感染性胃腸炎	138
水痘	140
手足口病	142
伝染性紅斑	144
突発性発疹	146
百日咳	148
ヘルパンギーナ	150
流行性耳下腺炎	152
(眼科定点)	
急性出血性結膜炎	154
流行性角結膜炎	156
(基幹定点)	
細菌性髄膜炎	158
無菌性髄膜炎	160
マイコプラズマ肺炎	162
クラミジア肺炎	164
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	166
(2) 月報	
(性感染症(STD)定点)	
性器クラミジア感染症	168
性器ヘルペスウイルス感染症	169
尖形コンジローム感染症	170
淋菌感染症	171
(基幹定点(薬剤耐性菌))	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(MRSA)	172
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(PRSP)	173
薬剤耐性緑膿菌感染症	174
薬剤耐性アシネトバクター感染症	175

V 参考資料

全国的な風疹の流行について	
～予防接種で先天性風疹症候群から赤ちゃんを守りましょう～	177

医療機関届出対象感染症一覧(1/2)

届出の基準は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」
(平成25年10月14日付)

診断後直ちに届出

七日以内に届

週報・月報報告

一類

- | | |
|-----------------|-------------|
| (1) エボラ出血熱 | (5) ペスト |
| (2) クリミア・コンゴ出血熱 | (6) マールブルグ病 |
| (3) 痘そう(天然痘) | (7) ラッサ熱 |
| (4) 南米出血熱 | |

二類

- | | |
|-----------------|--|
| (8) 急性灰白髄炎(ポリオ) | (11) 重症急性呼吸器症候群
(病原体が
SARSコロナウイルスであるものに限る) |
| (9) 結核 | (12) 鳥インフルエンザ(H5N1) |
| (10) ジフテリア | |

三類

- | | |
|------------------|------------|
| (13) コレラ | (16) 腸チフス |
| (14) 細菌性赤痢 | (17) パラチフス |
| (15) 腸管出血性大腸菌感染症 | |

四類

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| (18) E型肝炎 | (40) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) |
| (19) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む) | (41) ニバウイルス感染症 |
| (20) A型肝炎 | (42) 日本紅斑熱 |
| (21) エキノコックス症 | (43) 日本脳炎 |
| (22) 黄熱 | (44) ハンタウイルス肺症候群 |
| (23) オウム病 | (45) Bウイルス病 |
| (24) オムスク出血熱 | (46) 鼻疽 |
| (25) 回帰熱 | (47) ブルセラ症 |
| (26) キャサヌル森林病 | (48) ベネズエラウマ脳炎 |
| (27) Q熱 | (49) ヘンドラウイルス感染症 |
| (28) 狂犬病 | (50) 発しんチフス |
| (29) コクシジオイデス症 | (51) ボツリヌス症 |
| (30) サル痘 | (52) マラリア |
| (31) 重症熱性血小板減少症候群 | (53) 野兔病 |
| (32) 腎症候性出血熱 | (54) ライム病 |
| (33) 西部ウマ脳炎 | (55) リッサウイルス感染症 |
| (34) ダニ媒介脳炎 | (56) リフトバレー熱 |
| (35) 炭疽 | (57) 類鼻疽 |
| (36) チクングニア熱 | (58) レジオネラ症 |
| (37) つつが虫病 | (59) レプトスピラ症 |
| (38) デング熱 | (60) ロッキー山紅斑熱 |
| (39) 東部ウマ脳炎 | |

五類 全数把握対象

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| (61) アメーバ赤痢 | (70) 侵襲性髄膜炎菌感染症 |
| (62) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) | (71) 侵襲性肺炎球菌感染症 |
| (63) 急性脳炎 | (72) 先天性風しん症候群 |
| (64) クリプトスポリジウム症 | (73) 梅毒 |
| (65) クロイツフェルト・ヤコブ病 | (74) 破傷風 |
| (66) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | (75) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 |
| (67) 後天性免疫不全症候群 | (76) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 |
| (68) ジアルジア症 | (77) 風しん |
| (69) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | (78) 麻しん |

五類 定点把握対象

- | | |
|--|----------------------------|
| (79) RSウイルス感染症 | (92) 流行性角結膜炎 |
| (80) 咽頭結膜熱 | (93) 性器クラミジア感染症 |
| (81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | (94) 性器ヘルペスウイルス感染症 |
| (82) 感染性胃腸炎 | (95) 尖圭コンジローマ |
| (83) 水痘 | (96) 淋菌感染症 |
| (84) 手足口病 | (97) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る) |
| (85) 伝染性紅斑 | (98) クラミジア肺炎(オウム病を除く) |
| (86) 突発性発しん | (99) 細菌性髄膜炎 |
| (87) 百日咳 | (100) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 |
| (88) ヘルパンギーナ | (101) マイコプラズマ肺炎 |
| (89) 流行性耳下腺炎 | (102) 無菌性髄膜炎 |
| (90) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び
新型インフルエンザ等感染症を除く) | (103) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 |
| (91) 急性出血性結膜炎 | (104) 薬剤耐性アシネトバクター感染症 |
| | (105) 薬剤耐性緑膿菌感染症 |

届出は管轄保健所へ

全数発生報告

定点発生報告

医療機関届出対象感染症一覧(2/2)

届出の基準は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」
(平成25年10月14日付)

診断後直ちに届出

新型インフルエンザ等

(106) 新型インフルエンザ

(107) 再興型インフルエンザ

指定感染症

(108) 鳥インフルエンザ(H7N9)

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(109) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)

(110) 発熱及び発疹又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

感染症法に基づく獣医師が届出を行う感染症と動物

(1) エボラ出血熱(サル)

(2) 重症急性呼吸器症候群

(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る(イタチアナグマ、タヌキ及びハクビシン))

(3) ペスト(プレリードッグ)

(4) マールブルグ病(サル)

(5) 細菌性赤痢(サル)

(6) ウエストナイル熱(鳥類に属する動物)

(7) エキノコックス症(犬)

(8) 結核(サル)

(9) 鳥インフルエンザ(H5N1)(鳥類に属する動物)

全数発生報告

定点発生報告

届出は管轄保健所へ

I 事業の概要

I 事業の概要

沖縄県は 1980 年 7 月から県医師会および定点医療機関の協力のもとに全県的な感染症の報告体制を敷き、疾患の流行状況の把握に努めるべく感染症サーベイランス事業を開始した。沖縄県においては、厚生省（現厚生労働省）より 1 年早いスタートであった。

厚生省は、1981 年 7 月から感染症の実態を的確に把握するために全国的な感染症サーベイランス事業を開始した。さらに、1987 年 1 月から新たに「結核・感染症サーベイランス事業」となり、全国の保健所、都道府県（指定都市）、厚生省間がコンピュータオンラインシステムで結ばれ、結核および感染症の情報が迅速かつ的確に利用できるようになった。

感染症サーベイランス事業は、1998 年より感染症発生動向調査事業となり、さらに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」とする。）が 1999 年 4 月から施行され、感染症対策の強化が行われてきた。

2006 年 4 月には、新しい全国オンラインシステムである感染症サーベイランスシステム（NESID）が稼働している。

2013 年末までに届出対象となる感染症は、一類感染症 7 疾患、二類感染症 5 疾患、三類感染症 5 疾患、四類感染症 43 疾患、五類感染症 46 疾患（全数 19 疾患、定点把握 27 疾患）、新型インフルエンザ等が 2 疾患、法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症が 2 疾患の計 110 疾患である。これらの感染症は、患者発生状況を医療機関が所管保健所に報告し、各保健所からの報告を県健康増進課で集約して国に報告している。

感染症情報の迅速な提供を図るための施設として感染症情報センター（<http://www.idsc-okinawa.jp>）が衛生環境研究所に設置され、データ収集及び提供を行っている。県健康増進課および各保健所においては、感染症情報センターで処理された集計データおよび全国の還元データを利用し、各関係機関に情報提供をするとともに、感染症の流行状況の把握を行っている。

2013 年 4 月 1 日からは、那覇市が中核市へ移行するとともに、中央保健所が廃止され那覇市保健所が設置された。那覇市保健所の設置に伴い、これまでの定点医療機関の所管保健所に変更はあったが、感染症情報の集約および国への報告はこれまでとおり県健康増進課で行っている。

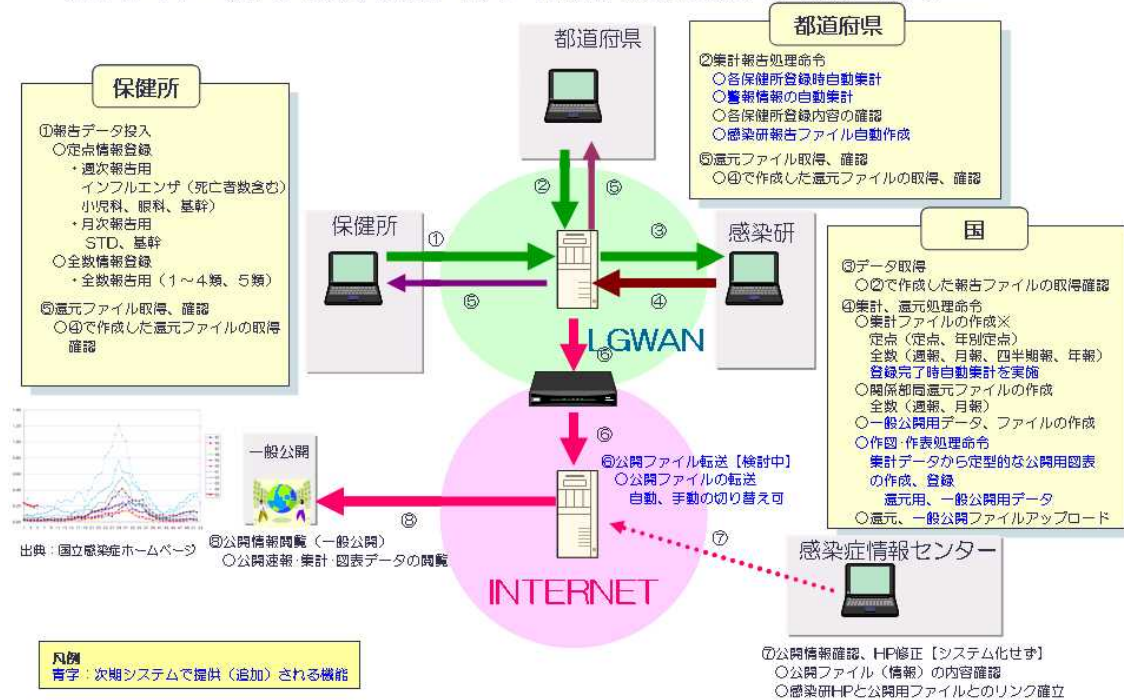
（定点医療機関）

2013 年の県内の定点医療機関は、小児科 34 定点、インフルエンザ 58 定点（同小児科定点＋内科 24 定点）、眼科 10 定点、性感染症 12 定点、基幹 7 定点の合計 87 定点である。

感染症発生動向調査システム

感染症情報をセントラルデータベースで一元管理する。

(各プレイヤーはアクセスするだけでファイル転送は行わない(下記①～⑤))



(1) 県内の保健所別定点数(2013年1月1日～2013年12月31日)

括弧内の数字は2013年4月1日以降、改訂された定点医療機関数を表している。

保健所名	小児科 定点 (ア)	内科定点 (イ)	インフル エンザ定点 (ア)+(イ)	眼科定点	性感染症 (STD) 定点	基幹定点	医療機 関数
①北部保健所	3	2	5	1	1	1	5
②中部保健所	12	8	20	3	4	2	24
③中央保健所 (那覇市保健所)	10 (7)	7 (5)	17 (12)	2 (1)	4 (3)	1 (1)	16 (10)
④南部保健所	5 (8)	4 (6)	9 (14)	2 (3)	3 (4)	1 (1)	9 (15)
⑤宮古保健所	2	2	4	1	0	1	5
⑥八重山保健所	2	1	3	1	0	1	3
合 計	34	24	58	10	12	7	62

(2) 報告週対応表 (2013年) および定点種別定点数(全国)

			週 報				月 報	
			インフルエ ンザ定点	小児科定 点	眼科定点	基幹定点	STD定点	基幹定点
月	週	平 均 期 間	4907	3135	679	467	972	471
1月	1	12/31 ～ 1/6	4767	3014	656	465	969	470
	2	1/7 ～ 1/13	4903	3134	675	461		
	3	1/14 ～ 1/20	4937	3148	684	466		
	4	1/21 ～ 1/27	4942	3151	683	467		
	5	1/28 ～ 2/3	4949	3157	684	466		
2月	6	2/4 ～ 2/10	4926	3142	674	465	970	471
	7	2/11 ～ 2/17	4945	3152	683	467		
	8	2/18 ～ 2/24	4941	3151	681	465		
	9	2/25 ～ 3/3	4943	3156	679	468		
3月	10	3/4 ～ 3/10	4936	3151	680	464	969	470
	11	3/11 ～ 3/17	4929	3144	678	464		
	12	3/18 ～ 3/24	4927	3145	682	466		
	13	3/25 ～ 3/31	4920	3142	681	462		
4月	14	4/1 ～ 4/7	4926	3146	681	468	973	474
	15	4/8 ～ 4/14	4924	3143	683	467		
	16	4/15 ～ 4/21	4920	3153	680	467		
	17	4/22 ～ 4/28	4883	3129	670	468		
	18	4/29 ～ 5/5	4840	3092	665	468		
5月	19	5/6 ～ 5/12	4924	3152	682	467	968	468
	20	5/13 ～ 5/19	4938	3156	683	468		
	21	5/20 ～ 5/26	4929	3150	681	468		
	22	5/27 ～ 6/2	4930	3151	682	470		
6月	23	6/3 ～ 6/9	4929	3151	683	469	976	474
	24	6/10 ～ 6/16	4928	3155	683	469		
	25	6/17 ～ 6/23	4925	3150	680	467		
	26	6/24 ～ 6/30	4927	3150	682	466		
7月	27	7/1 ～ 7/7	4920	3146	681	468	974	470
	28	7/8 ～ 7/14	4886	3128	676	466		
	29	7/15 ～ 7/21	4922	3148	677	468		
	30	7/22 ～ 7/28	4917	3145	680	468		
	31	7/29 ～ 8/4	4911	3141	681	467		
8月	32	8/5 ～ 8/11	4763	3053	655	466	976	472
	33	8/12 ～ 8/18	4694	2977	656	467		
	34	8/19 ～ 8/25	4878	3107	680	468		
	35	8/26 ～ 9/1	4901	3127	681	469		
9月	36	9/2 ～ 9/8	4913	3142	683	468	974	474
	37	9/9 ～ 9/15	4883	3120	678	467		
	38	9/16 ～ 9/22	4869	3114	674	466		
	39	9/23 ～ 9/29	4916	3147	682	467		
	40	9/30 ～ 10/6	4917	3143	682	467		
10月	41	10/7 ～ 10/13	4891	3134	677	467	972	470
	42	10/14 ～ 10/20	4921	3151	681	469		
	43	10/21 ～ 10/27	4924	3151	682	469		
	44	10/28 ～ 11/3	4885	3128	676	468		
11月	45	11/4 ～ 11/10	4917	3145	679	468	972	472
	46	11/11 ～ 11/17	4925	3152	680	469		
	47	11/18 ～ 11/24	4907	3137	681	468		
	48	11/25 ～ 12/1	4930	3150	683	469		
12月	49	12/2 ～ 12/8	4934	3154	684	468	973	470
	50	12/9 ～ 12/15	4935	3153	684	469		
	51	12/16 ～ 12/22	4905	3133	678	468		
	52	12/23 ～ 12/29	4909	3134	677	469		

平成25年度 感染症発生動向調査事業 定点医療機関一覧

平成25年12月31日現在

			全 87 定点	24	34	10	7	12
保健所名	医療機関名	住 所	(定点名)	内科	小児科	眼科	基幹	STD
1 2 3 4 5 北部 保健 所	県立北部病院	名護市大中2-12-3	小児科、内科、基幹	●	●		●	
	儀保小児科内科医院	名護市大西2-4-32	小児科		●			
	今帰仁診療所	今帰仁村字謝名139	小児科、内科	●	●			
	辻眼科	名護市宮里1-26-11	眼科			●		
	なかち泌尿器科クリニック	名護市大中5-4-50	STD(泌)					●
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 中部 保健 所	ほくと会北部病院	宜野座村字漢那469	内科	●				
	石川医院	うるま市石川2-21-5	内科	●				
	金武診療所	金武町字金武94	内科	●				
	岸本内科クリニック	沖縄市登川1-1-24	内科	●				
	愛聖クリニック	沖縄市高原5-15-11	内科	●				
	よなみね内科	宜野湾市普天間2-4-5	内科	●				
	ライフケアクリニック長浜	読谷村字長浜1530-1	内科	●				
	ちばなクリニック	沖縄市字知花6-25-15	小児科、内科、STD(泌)(産)	●	●			●●
	県立中部病院	うるま市宮里281	小児科、基幹		●		●	
	知念小児科医院	うるま市宮里261-16	小児科		●			
	嘉数医院	沖縄市諸見里1-26-2	小児科		●			
	大嶺医院	うるま市田場1417	小児科		●			
	山田小児科内科医院	うるま市石川東山1-19-11	小児科		●			
	町田小児科医院	北谷町字上勢頭556-3	小児科		●			
	伊元小児科医院	沖縄市字泡瀬4-39-12	小児科		●			
	そけん小児科	読谷村字波平2459	小児科		●			
	愛知クリニック	宜野湾市字愛知16-1	小児科		●			
	いとむクリニック小児科	宜野湾市伊佐1-10-9	小児科		●			
	宮里眼科	うるま市石川東山1-22-2	眼科			●		
	ひかり眼科	宜野湾市字愛知45	眼科			●		
	松永眼科	沖縄市美里2-10-2	眼科			●		
	中頭病院	沖縄市知花6-25-5	基幹				●	
	上村病院	沖縄市胡屋1-6-2	小児科、STD(産)		●			●
	名城病院	うるま市字赤道174-6	STD(産)					●
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 南部 保健 所	浦添総合病院	浦添市伊祖4-16-1	内科、STD(産)	●				●
	同仁病院	浦添市城間1-37-12	内科	●				
	ぐしけん小児科	浦添市字前田3-3-8-103号	小児科		●			
	たから小児科医院	浦添市大平1-36-5	小児科		●			
	ティーダこどもクリニック	浦添市城間4-3-10-1	小児科		●			
	比嘉眼科病院	浦添市城間4-34-20	眼科			●		
	県立南部医療センター・こども医療センター	南風原町字新川118-1	小児科、内科、基幹、STD(泌)	●	●		●	●
	南部徳洲会病院	八重瀬町字外間171-1	内科、STD(泌)	●				●
	豊見城中央病院	豊見城市字上田25	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
	わんぱくクリニック	南風原町字津嘉山1674	小児科		●			
	与那原中央病院	与那原町字与那原2905	内科	●				
	ひめゆりクリニック	糸満市字伊原107-1	小児科		●			
	あおぞら小児科	与那原町字上与那原340-1	小児科		●			
	安里眼科	糸満市字潮平722	眼科			●		
	はえばる眼科医院	南風原町字兼城725	眼科			●		
	1 2 3 4 5 宮古 保健 所	県立宮古病院	宮古島市平良字東仲宗根807	小児科、基幹		●		●
ひが小児科医院		宮古島市平良西里781-5	小児科		●			
下地内科医院		宮古島市平良下里1259-1	内科	●				
池村内科医院		宮古島市平良字東仲宗根194	内科	●				
下地眼科医院		宮古島市平良下里577-1	眼科			●		
1 2 3 保八 健重 所山	県立八重山病院	石垣市字大川732	小児科、内科、基幹	●	●		●	
	よしもとこどもクリニック	石垣市登野城1024-1	小児科		●			
	宮良眼科医院	石垣市字大川140	眼科			●		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 那覇 市保 健所	国場十字路医院	那覇市字仲井真272-1	内科	●				
	那覇市立病院	那覇市古島2-31-1	小児科、内科、基幹、STD(産)	●	●		●	●
	沖縄赤十字病院	那覇市与儀1-3-1	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
	沖縄協同病院	那覇市古波蔵4-10-55	小児科、内科	●	●			
	西町クリニック	那覇市西3-4-1	小児科、内科	●	●			
	かおる小児科	那覇市字国場724-3 メゾンセブン101	小児科		●			
	宮城小児科医院	那覇市牧志2-16-5	小児科		●			
	安謝小児クリニック	那覇市安謝215-1	小児科		●			
	石川眼科	那覇市泉崎2-3-20	眼科			●		
	大浜第一病院	那覇市天久1000	STD(産)					●

Ⅱ 報告の概要

Ⅱ 報告の概要

2013（平成 25）年、本県での報告は、一類感染症が 0 人、二類感染症が 480 人、三類感染症が 17 人、四類感染症が 27 人、五類感染症が 35,971 人（全数把握疾患：147 人、定点把握疾患：35,824 人）の報告があり、対象感染症 110 疾患の合計 36,495 人であった。

五類感染症定点把握疾患は、週単位報告（週報）と月単位報告（月報）に大別される。週報はインフルエンザ定点、小児科定点、基幹定点報告に、月報は性感染症（STD）定点と基幹定点（薬剤耐性菌）報告に細分類される。

週報は、2012（平成 24）年 12 月 31 日～2013（平成 25）年 12 月 29 日までの 52 週分である。月報は、2013（平成 25）年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 12 ヶ月分である。

1 全数把握感染症（一～五類：79 疾患）の報告状況

（Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及び 2 全数把握感染症（全医療機関報告）を参照）

2013 年県内で報告された全数把握感染症は 19 疾患で 671 件である。そのうち、注目された感染症として四類感染症のエキノコックス症、レジオネラ症、五類感染症の風疹、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症がある。

（1）エキノコックス症

南部保健所管内で 1 名の患者報告があった。県内では、2008 年に 1 名の患者が発生して以来、5 年ぶりの発生報告であった。国外からの輸入症例であり、単包条虫の感染によるものであった。

（2）レジオネラ症

2013 年は過去 5 年間で最も多い 17 人の患者数が報告された。集団発生はなく、散発的な発生であった。患者は 50 歳以上が全体の 8 割を占め、そのうち 50 代の男性が最も多かった。

（3）風疹

2012 年からの風疹流行の継続により、2013 年は患者数 14,357 人で前年の約 6 倍とさらに増加した。患者の約 8 割が男性で、そのうち 20 代～40 代が 8 割を占めていた。本県においても、2013 年は患者数 52 人と風疹が流行した前年の報告数を上回った。患者は 20 代～40 代が全体の 85%を占め、そのうち男性が 65%であった。

＊参考：「全国的な風疹の流行について～予防接種で先天性風疹症候群から赤ちゃんを守りましょう～」（所内刊行物（衛環研ニュース第 26 号））

（本書Ⅴ参考資料 P.177 に掲載）

(4) 侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症

2013 年 4 月 1 日の予防接種法の改正に伴い、小児の肺炎球菌感染症及び Hib 感染症が定期接種（A 類）の対象となった。それを踏まえ、同時期から感染症法施行規則の改正により、侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性インフルエンザ菌感染症が五類感染症の全数把握対象疾患となった。また、これまで五類全数把握対象疾患であった髄膜炎菌性髄膜炎は、髄膜炎のみならず敗血症等を含めて把握するため、侵襲性髄膜炎菌感染症とする改正も行われた。

2013 年本県では、侵襲性インフルエンザ菌感染症 7 人、侵襲性肺炎球菌感染症 23 人、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 人の報告があった。侵襲性インフルエンザ菌感染症患者 7 人のうち 5 人が 70 歳以上の高齢者であり、残り 2 人が 20 代と 30 代であった。7 人全てにおいて、ヒブワクチン接種歴は無しまたは不明であった。侵襲性肺炎球菌感染症においては、患者 23 人のうち、1 歳児と 60 歳以上の高齢者の報告が多くそれぞれ全体の約 30%を占めていた。また、ワクチン接種歴は有りが 40%、無しまたは不明が 60%であった。

2 五類定点把握感染症(週報 19 疾患、月報 8 疾患)の報告状況

(Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及びⅢ 定点把握対象 五類感染症（週報および月報）発生状況を参照）

(1) 週報

ア インフルエンザ／小児科定点

(Ⅱ 3. (1)～(4) 週別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照)

2013 年県内で報告された、インフルエンザ及び小児科定点対象の疾患を年間定点当たり患者報告数が多かった順に並べると、上位 4 疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、手足口病であった。

2013 年の本県におけるインフルエンザ患者の報告数は 18,069 人、定点あたりの報告数は 311.61 人であり、前年比 0.51 と減少した。2012/2013 シーズン（2012 年第 36 週～2013 年第 35 週）に医療機関から報告されたインフルエンザ患者 92 例の臨床検体について PCR 検査を実施した結果、84 例（91%）が PCR 陽性を示した。そのうち AH1pdm が 5 例、AH3 亜型 46 例、B 型 33 例であった。シーズンの開始当初は AH3 亜型を主流とする流行であったが、1 月から 4 月は AH3 亜型と B 型の混合流行となり、5 月以降は B 型と AH1pdm が主流となった。

感染性胃腸炎の報告数は 4,653 人、定点あたり報告数は 137.09 人で前年比 0.76 と減少した。1 歳の報告が最も多く、全体の 19.2%を占めていた。

水痘の報告数は 2,902 人、定点あたりの報告数は 85.45 人で前年比 1.24 と増加した。1 歳の報告が最も多く、全体の 25.5%を占め、続いて 2 歳が全体の 20.8%

を占めていた。

手足口病の報告数は 2,459 人、定点あたり報告数 72.36 人で前年比 1.52 と増加した。2013 年第 17 週～ 22 週にかけて、沖縄県全体で手足口病が警報レベルに達した。手足口病患者から検出された病原体は、エンテロウイルス 71 (EV71)、コクサッキーウイルス A16 (CA16)、エコーウイルス 25 型であった。

イ 眼科／基幹定点

(Ⅱ 3. (1) ～ (4) 週別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照)

県内の急性出血性結膜炎 (AHC) の報告数は 39 人、定点あたり報告数は 3.90 人であり、前年比 0.81 と減少した。患者は 20 代が最も多く、全体の 23%を占めていた。

流行性角結膜炎 (EKF) の報告数は 1,057 人、定点あたり 105.70 人であり、前年比 0.87 と減少した。患者は乳児から 70 歳以上の高齢者まで幅広く報告された。

基幹定点対象の疾患では、マイコプラズマ肺炎が最も多く報告された。本県の年間報告数は 2006 年以降急増している。しかし、2013 年は前年と比較して半減し過去 5 年で最も報告数が少なかった。全国では 2011 年夏頃から報告数が増加し、冬期の報告数のピークは 2006 年や 2010 年と比べても 2 倍以上高い大流行となったが、2012 年はさらに増加し 2011 年を上回る流行であった。しかし、2013 年は全国でも本県同様に患者数が前年と比較して半減した。

その他の基幹定点対象疾患では、無菌性髄膜炎は前年比 1.28 とわずかに増加し、細菌性髄膜炎及びクラミジア肺炎はいずれも前年と比較してほぼ横ばいであった。

(2) 月報

ア 性感染症(STD)／基幹定点

(Ⅱ 4. (1) ～ (4) 月別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照)

2013 年県内で報告された性感染症 (STD) 定点対象疾患の報告数は、性器クラミジア感染症が 203 人、尖形コンジロームが 33 人であり、それぞれ前年比 0.85、0.79 と減少した。一方、性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は 67 人、淋菌感染症は 48 人であり、それぞれ前年比 1.24、1.45 とわずかに増加した。

基幹定点対象疾患では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が報告数 569 人と最も多かったが、前年比 0.80 とわずかに減少した。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 5 人であり、前年比 0.50 と半減した。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (PRSP) の報告数は 2011 年から激減していたが、2013 年の報告数は 63 人であり、前年と比較すると約 10 倍に急増した。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は 2011 年 2 月 1 日より五類感染症に追加されたが、本県では昨年に引き続き今年も報告はなかった。

3 週別患者発生状況

(1) 報告数一覧表(沖縄県)

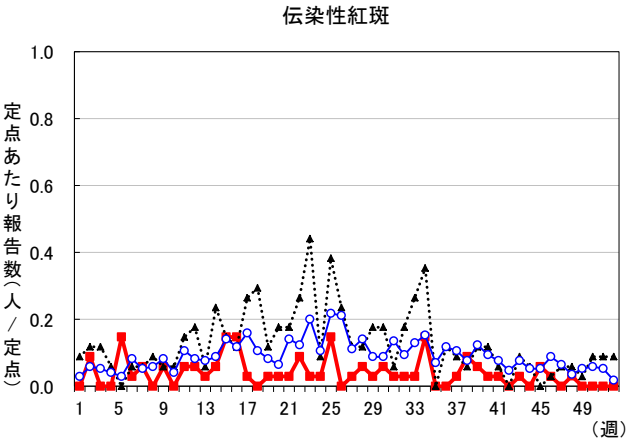
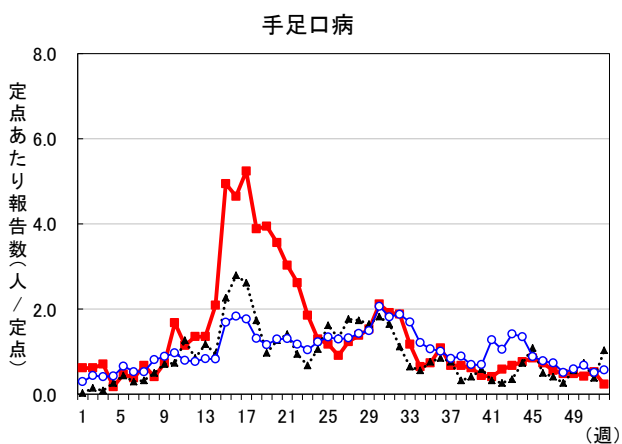
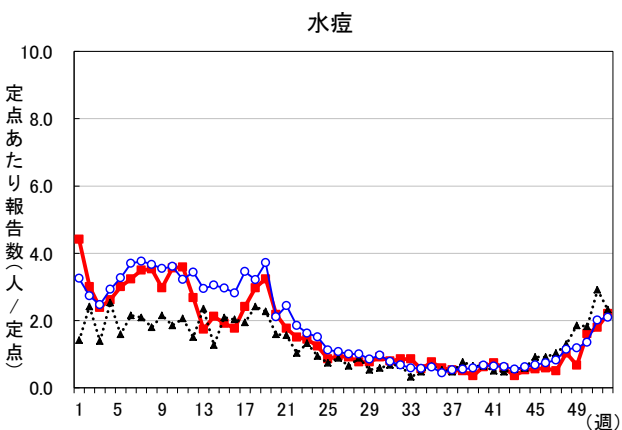
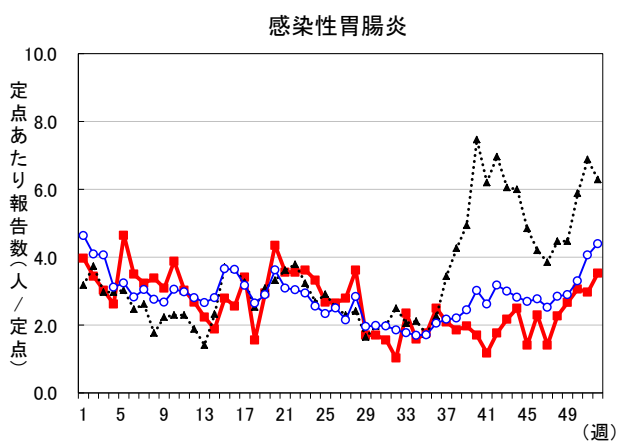
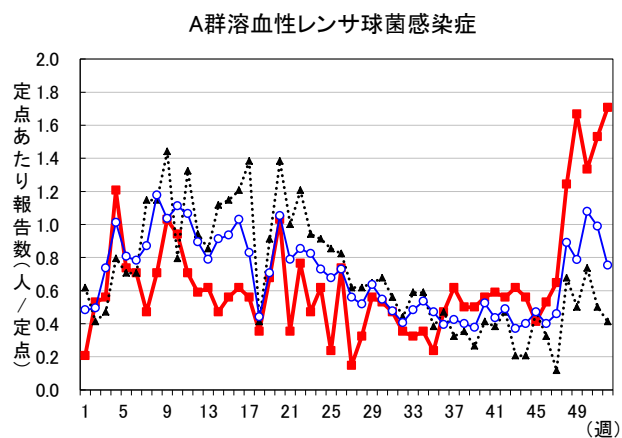
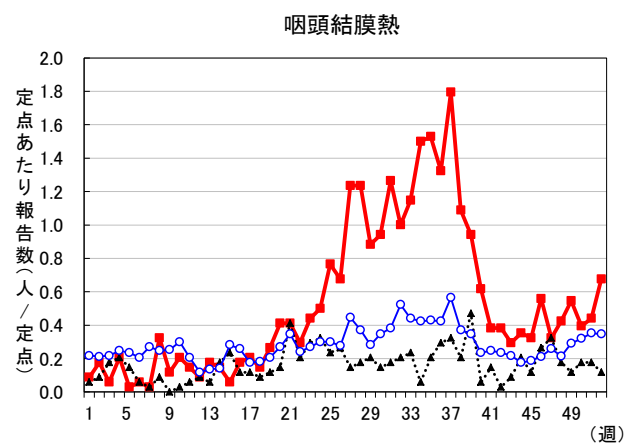
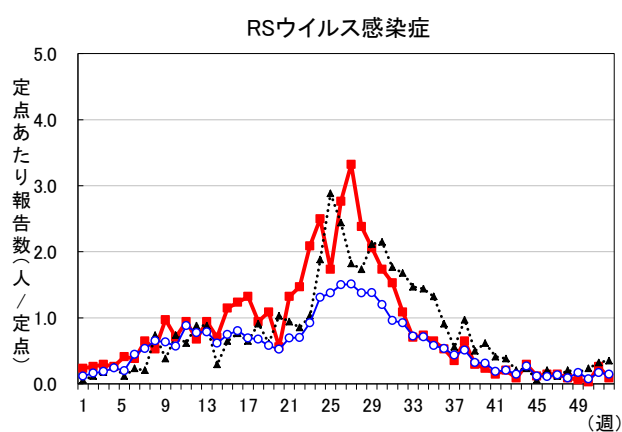
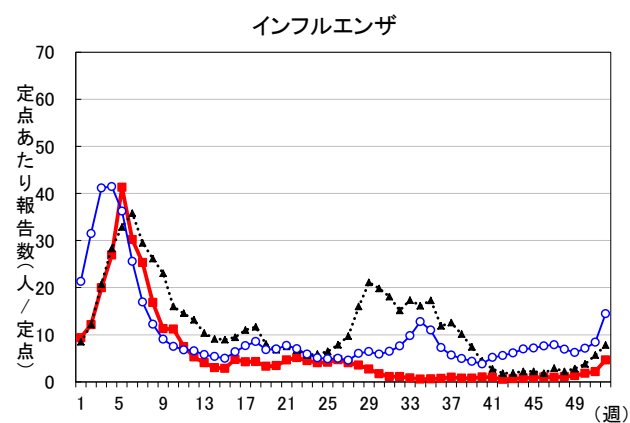
	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人／定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人／定点／週)	
		2012年	2013年	2012年	2013年	2012年	2013年
小児科 定点	インフルエンザ	35,440	18,069	611.03	311.61	11.75	5.99
	RSウイルス感染症	1,439	1,499	42.32	44.09	0.81	0.85
	咽頭結膜熱	295	944	8.68	27.80	0.17	0.53
	A群溶血性レンサ球菌感染症	1,244	1,144	36.59	33.77	0.70	0.65
	感染性胃腸炎	6,146	4,653	180.76	137.09	3.48	2.64
	水痘	2,346	2,902	69.00	85.45	1.33	1.64
	手足口病	1,623	2,459	47.74	72.36	0.92	1.39
	伝染性紅斑	225	71	6.62	2.09	0.13	0.04
	突発性発疹	732	610	21.53	17.97	0.41	0.35
	百日咳	146	99	4.29	2.92	0.08	0.06
	ヘルパンギーナ	275	399	8.09	11.74	0.16	0.23
眼科 定点	流行性耳下腺炎	472	472	13.88	13.91	0.27	0.27
	急性出血性結膜炎	48	39	4.80	3.90	0.09	0.08
基幹 定点	流行性角結膜炎	1,210	1,057	121.00	105.70	2.33	2.03
	細菌性髄膜炎	22	29	3.14	4.14	0.06	0.08
	無菌性髄膜炎	47	60	6.71	8.57	0.13	0.16
	マイコプラズマ肺炎	746	324	106.57	46.29	2.05	0.89
	クラミジア肺炎	5	4	0.71	0.57	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	2	-	0.29	-	0.01

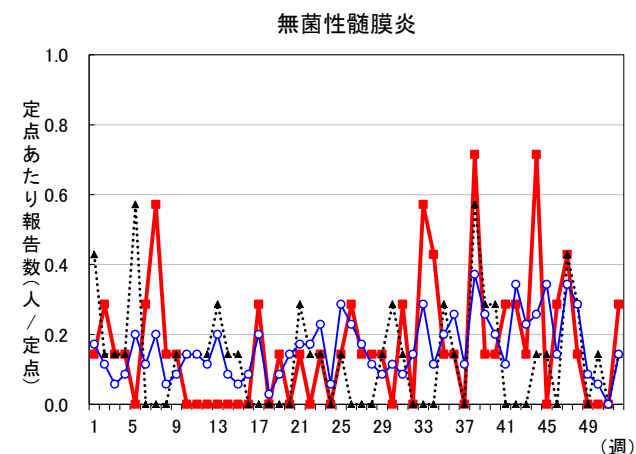
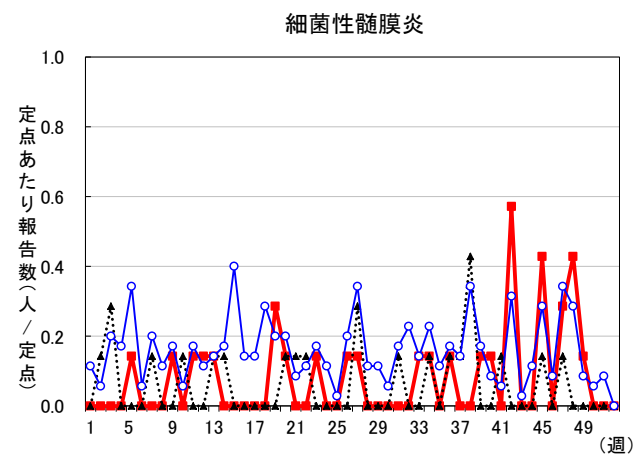
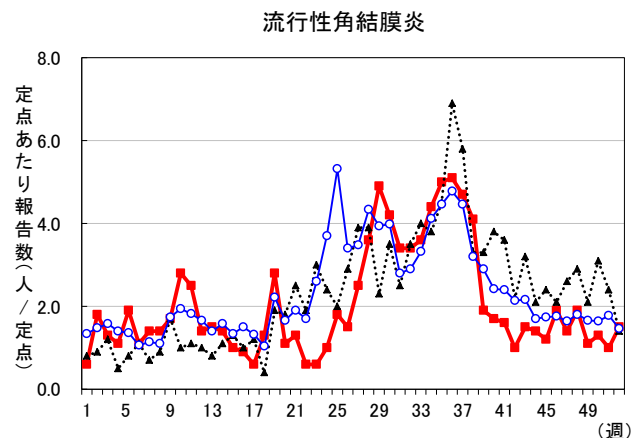
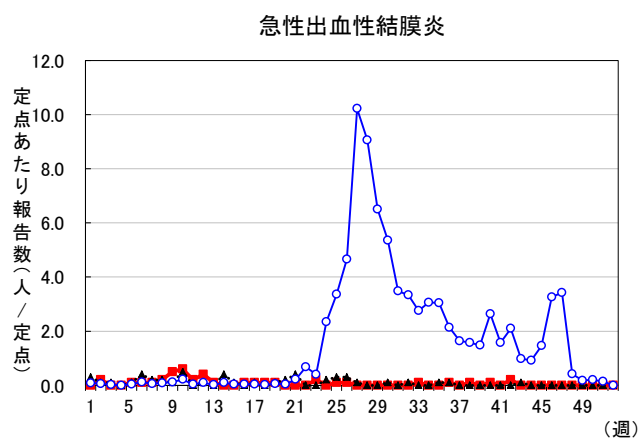
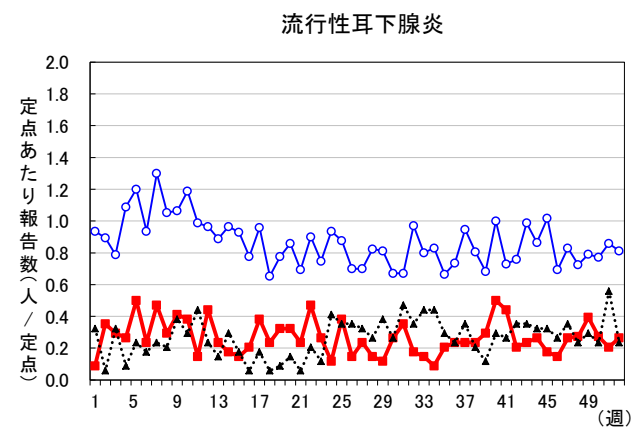
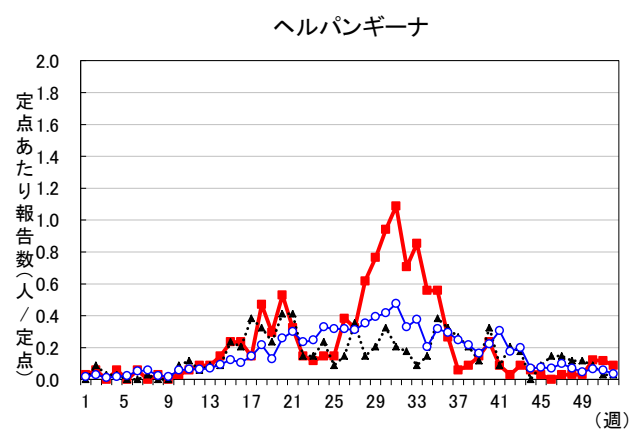
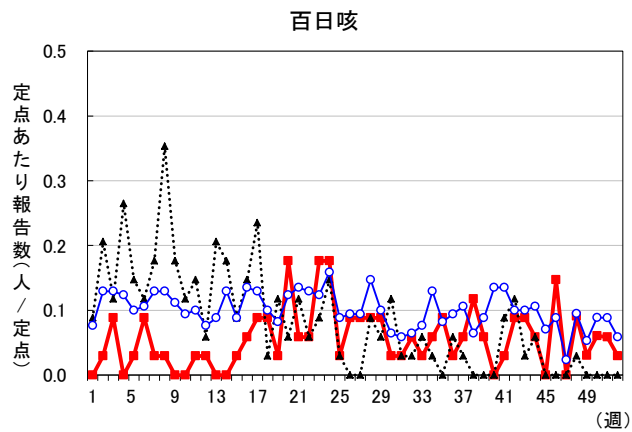
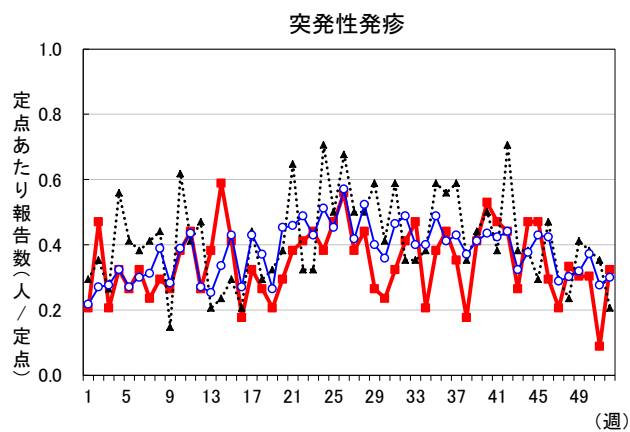
(2) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人／定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人／定点／週)	
		2012年	2013年	2012年	2013年	2012年	2013年
小児科 定点	インフルエンザ	1,672,174	1,162,847	339.42	235.80	6.53	4.53
	RSウイルス感染症	97,398	95,874	31.03	30.54	0.60	0.59
	咽頭結膜熱	53,136	72,583	16.96	23.14	0.33	0.45
	A群溶血性レンサ球菌感染症	276,090	253,089	87.95	80.56	1.69	1.55
	感染性胃腸炎	1,225,390	1,066,126	390.16	339.45	7.50	6.53
	水痘	194,683	174,342	61.99	55.56	1.19	1.07
	手足口病	72,147	301,071	23.12	96.40	0.44	1.85
	伝染性紅斑	20,873	10,122	6.64	3.22	0.13	0.06
	突発性発疹	91,533	88,956	29.17	28.32	0.56	0.54
	百日咳	4,064	1,691	1.31	0.51	0.03	0.01
	ヘルパンギーナ	113,245	93,900	36.27	30.10	0.70	0.58
眼科 定点	流行性耳下腺炎	71,082	40,830	22.72	13.01	0.44	0.25
	急性出血性結膜炎	484	675	0.67	1.01	0.01	0.02
基幹 定点	流行性角結膜炎	19,499	20,476	28.78	30.14	0.55	0.58
	細菌性髄膜炎	471	436	1.02	0.94	0.02	0.02
	無菌性髄膜炎	880	1,058	1.92	2.23	0.04	0.04
	マイコプラズマ肺炎	22,926	11,201	49.31	23.98	0.95	0.46
	クラミジア肺炎	879	740	1.91	1.58	0.03	0.03
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	158	-	0.33	-	0.03

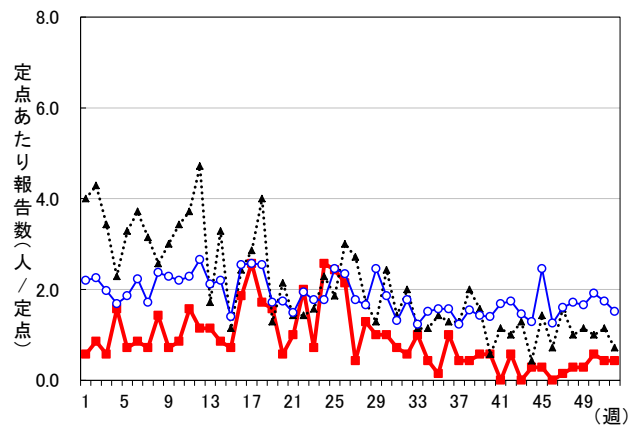
(3) グラフ一覧(沖縄県)

— 2013年 2012年 —○— 平均報告数

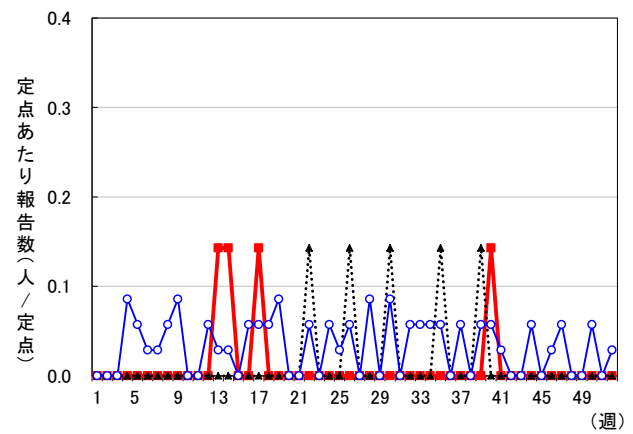




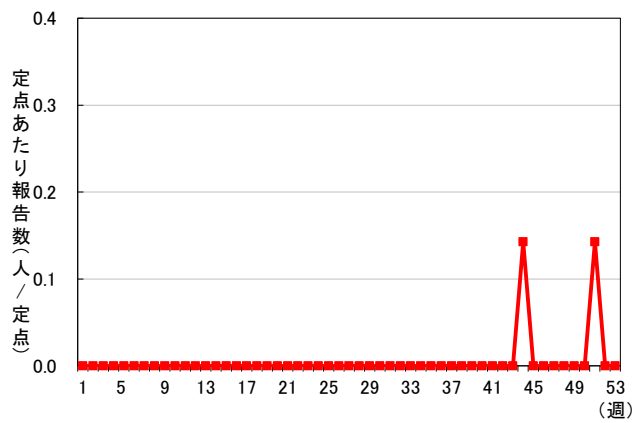
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

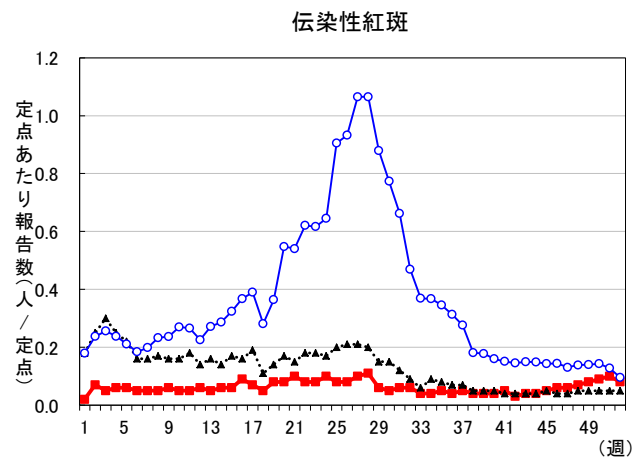
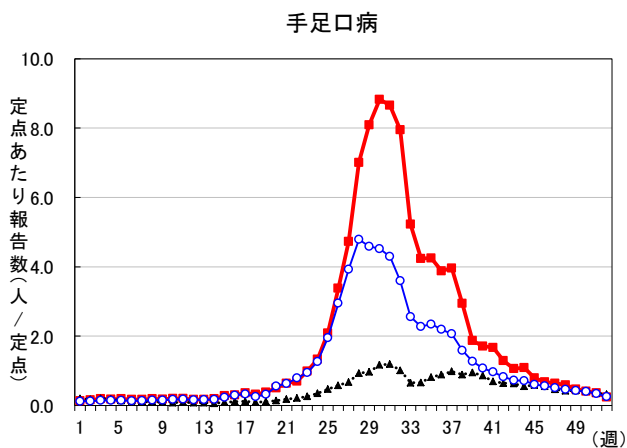
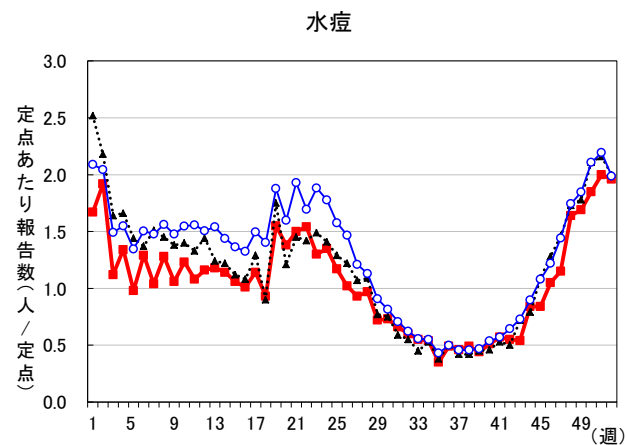
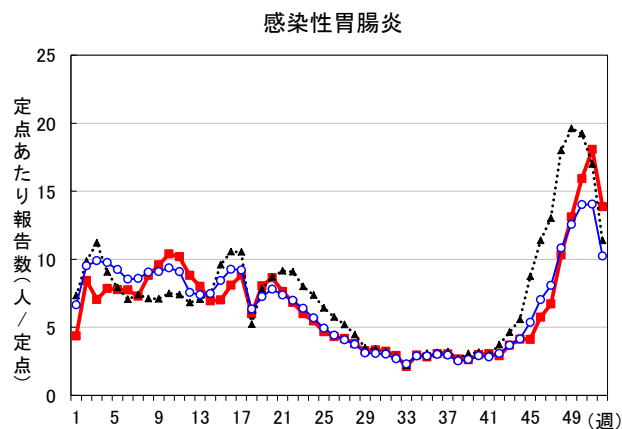
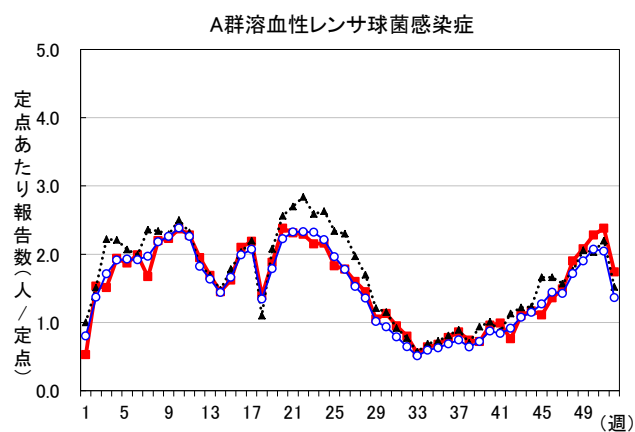
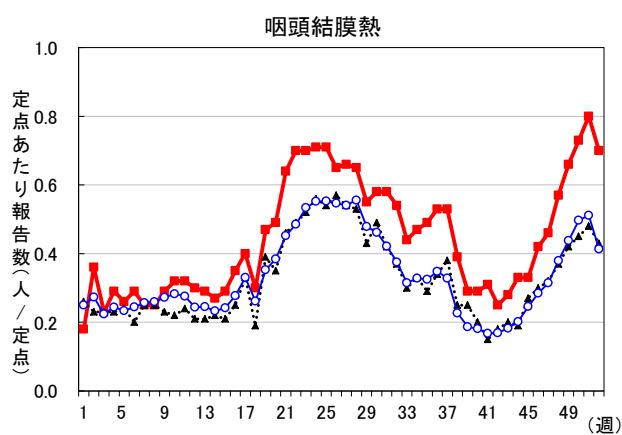
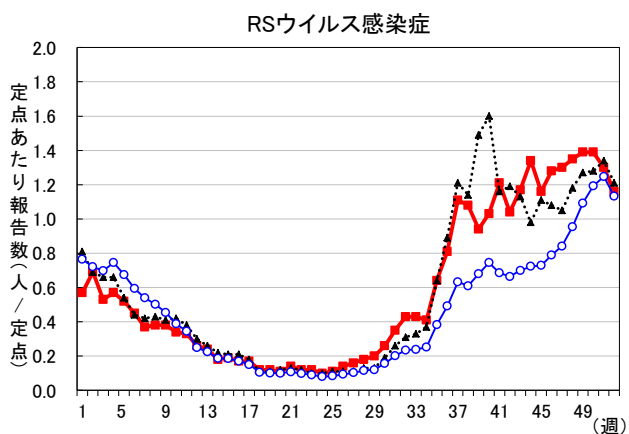
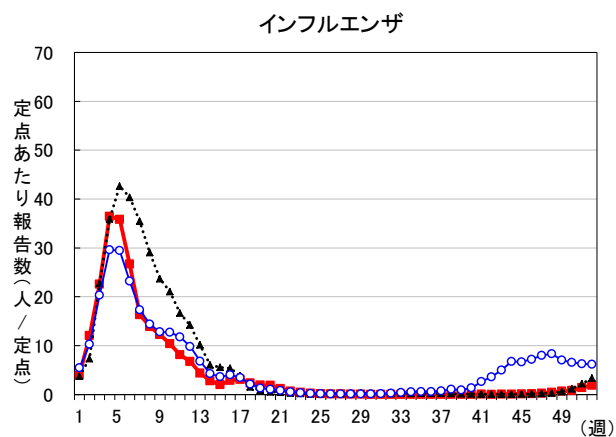


感染性胃腸炎(ロタウイルス)

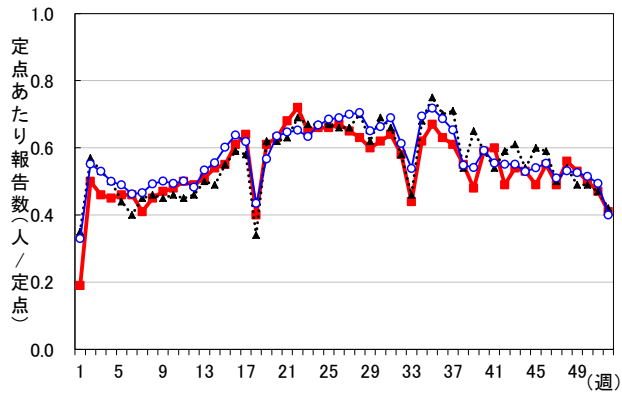


(4) グラフ一覧(全国)

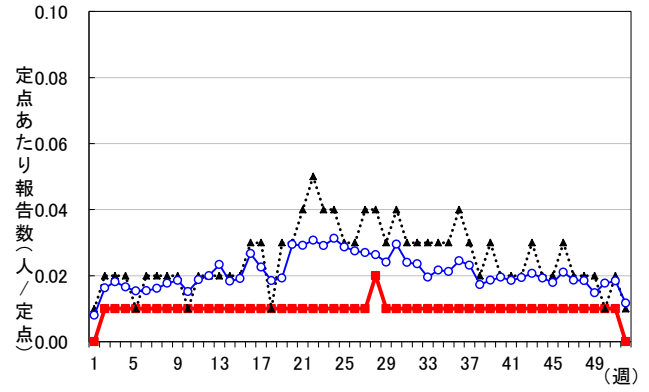
— 2013年 2012年 —○— 平均報告数



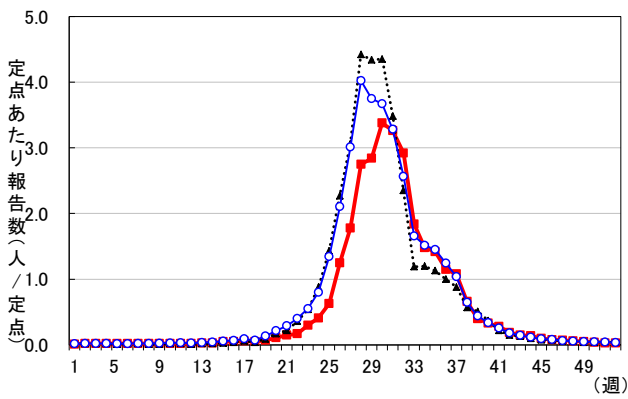
突発性発疹



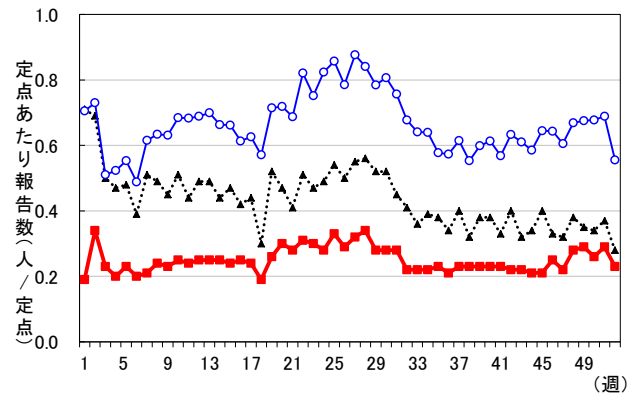
百日咳



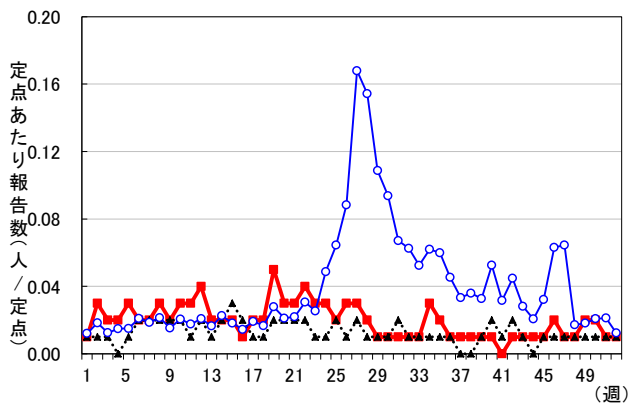
ヘルパンギーナ



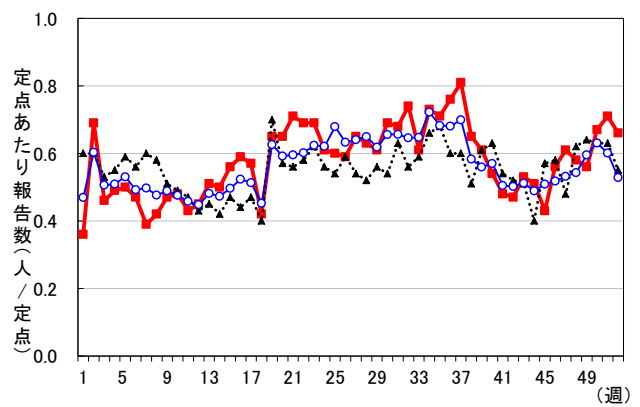
流行性耳下腺炎



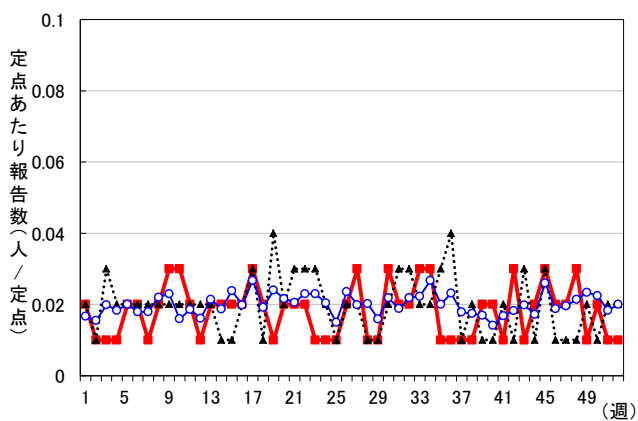
急性出血性結膜炎



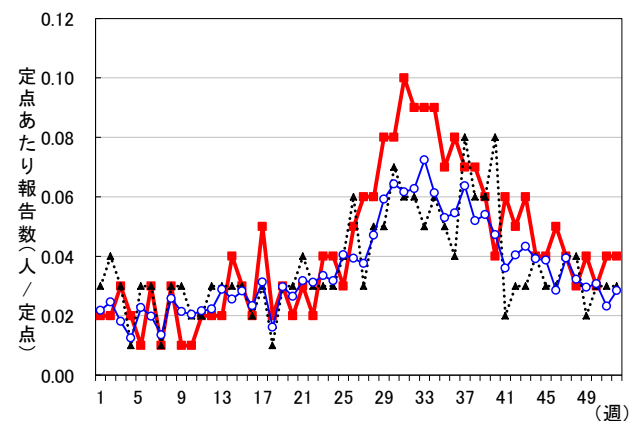
流行性角結膜炎



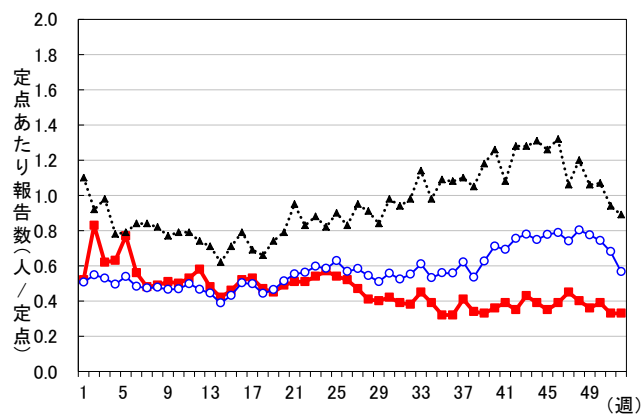
細菌性髄膜炎



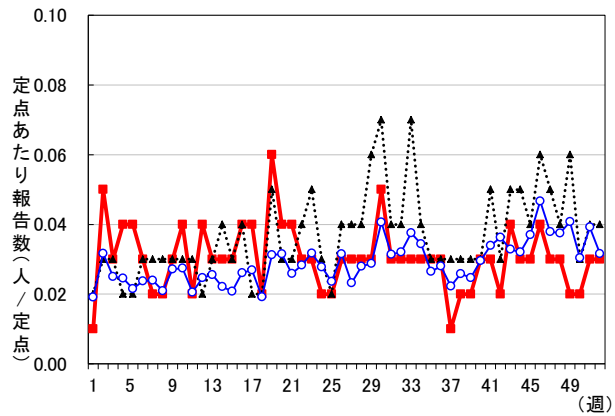
無菌性髄膜炎



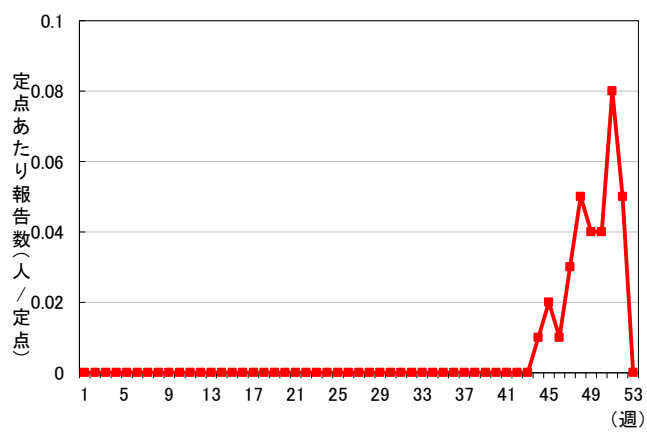
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

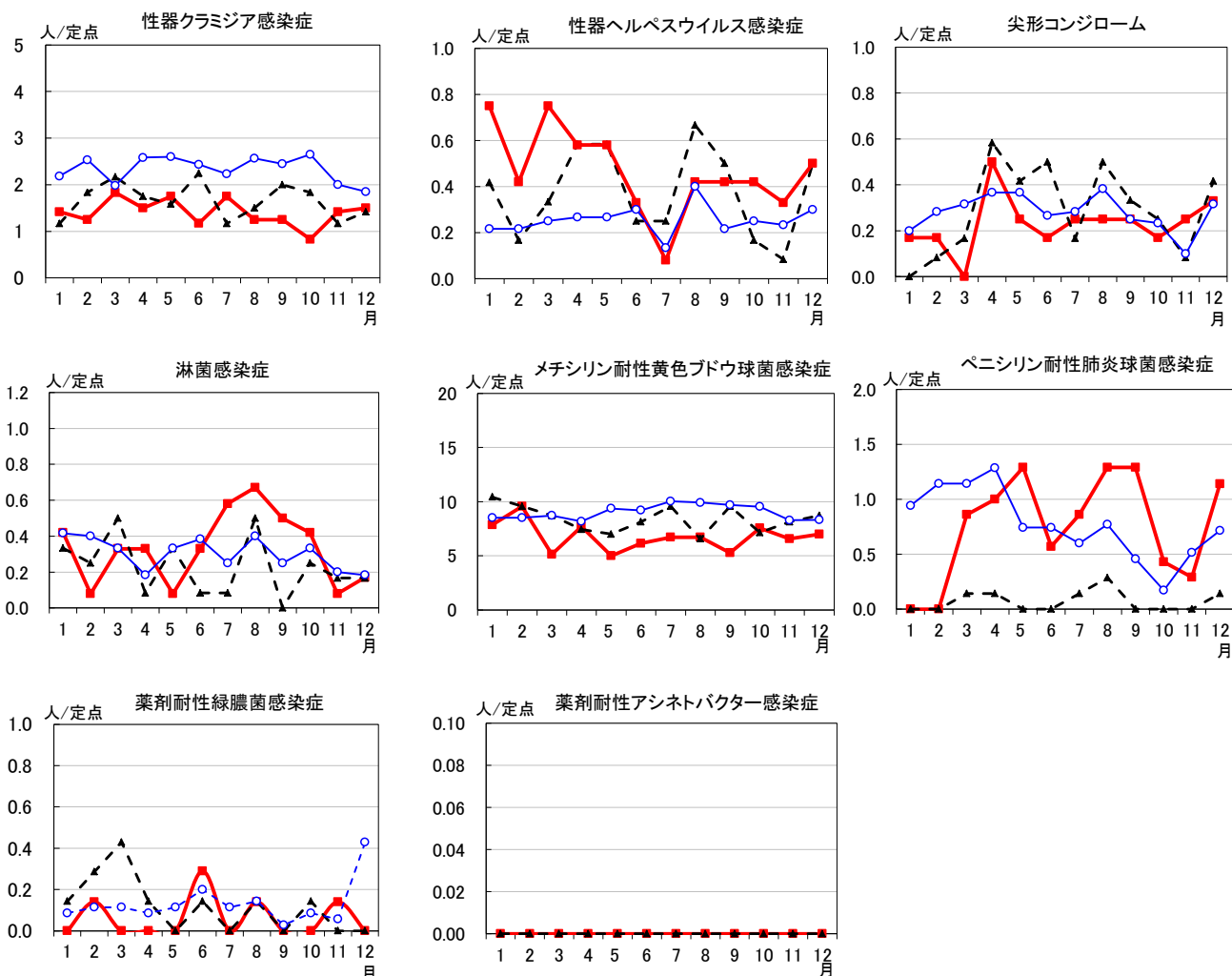


感染性胃腸炎(ロタウイルス)



4. 月別患者発生状況 (1) グラフ一覧(沖縄県)

—■— 2013年 2012年 —○— 平均報告数

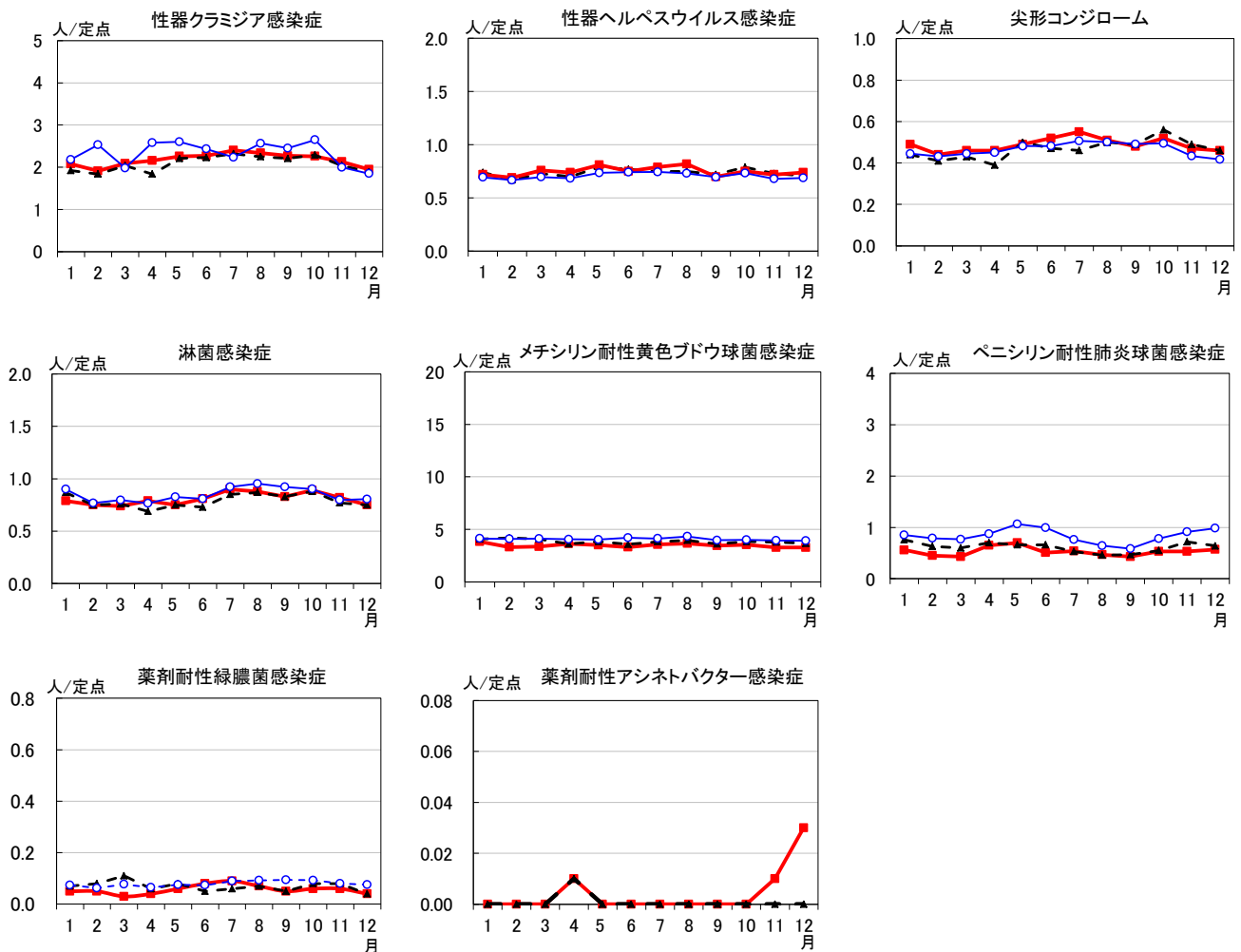


(2) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2012年	2013年	2012年	2013年	2012年	2013年
STD	性器クラミジア感染症	238	203	19.83	16.92	1.65	1.41
	性器ヘルペスウイルス感染症	54	67	4.50	5.58	0.38	0.47
	尖形コンジローム	42	33	3.5	2.75	0.29	0.23
	淋菌感染症	33	48	2.75	4.00	0.23	0.33
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	707	569	101	81.29	8.42	6.77
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	63	0.86	9.00	0.07	0.75
	薬剤耐性緑膿菌感染症	10	5	1.43	0.71	0.12	0.06
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) グラフ一覧(全国)

—■— 2013年 2012年 —○— 平均報告数



(4) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2012年	2013年	2012年	2013年	2012年	2013年
STD	性器クラミジア感染症	24,217	25,389	25.08	26.12	2.09	2.18
	性器ヘルペスウイルス感染症	8,538	8,748	8.85	9.00	0.74	0.75
	尖形コンジローム	5,406	5,698	5.6	5.86	0.47	0.49
	淋菌感染症	9,175	9,432	9.5	9.70	0.79	0.81
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21,563	19,701	46.21	41.82	3.85	3.49
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3,448	3,013	7.38	6.40	0.62	0.53
	薬剤耐性緑膿菌感染症	396	323	0.83	0.69	0.07	0.06
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	12	28	0.01	0.06	0.00	0.01

Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

(インフルエンザ／小児科定点)

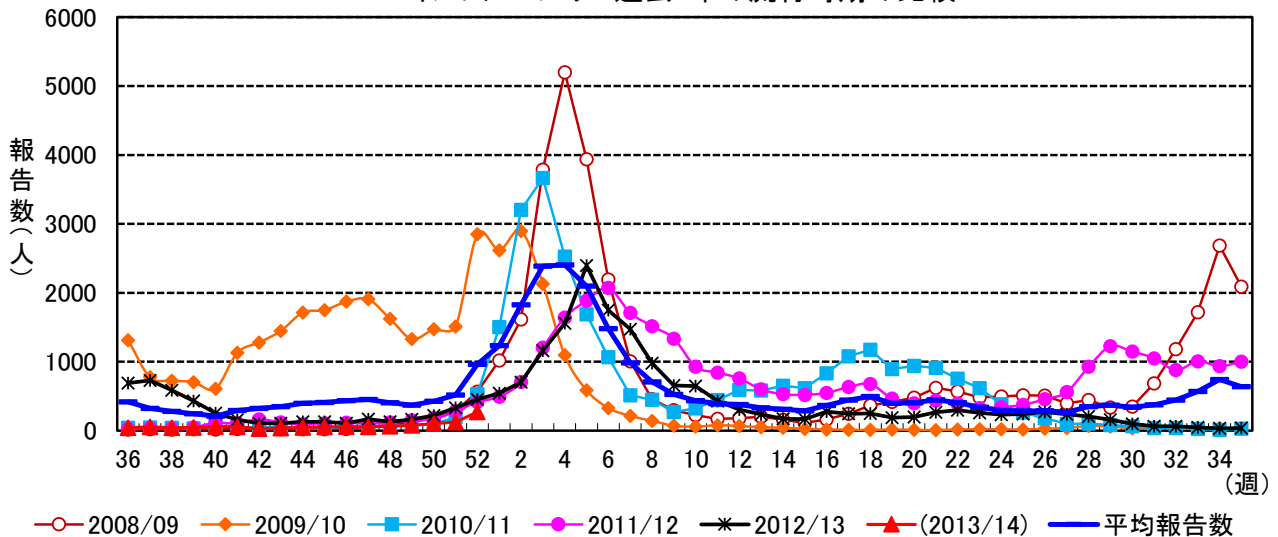
インフルエンザ

2013年沖縄県内の患者報告数は18,069人、定点あたりの報告数は311.61人であった。沖縄県は、2011/12シーズン第28週（7月）から注意報レベルが継続した状態で2012/13シーズン（2012年第36週～2013年第35週）を迎えた。2012年第40週（9月）に注意報レベルは解除されたが、流行の兆しである1.0人／定点を下回ることなく、2013年第2週（1月）には12.10人／定点と再び注意報レベルを超えた。その後、第5週（1月）には41.28人／定点と今シーズンのピークに達した。

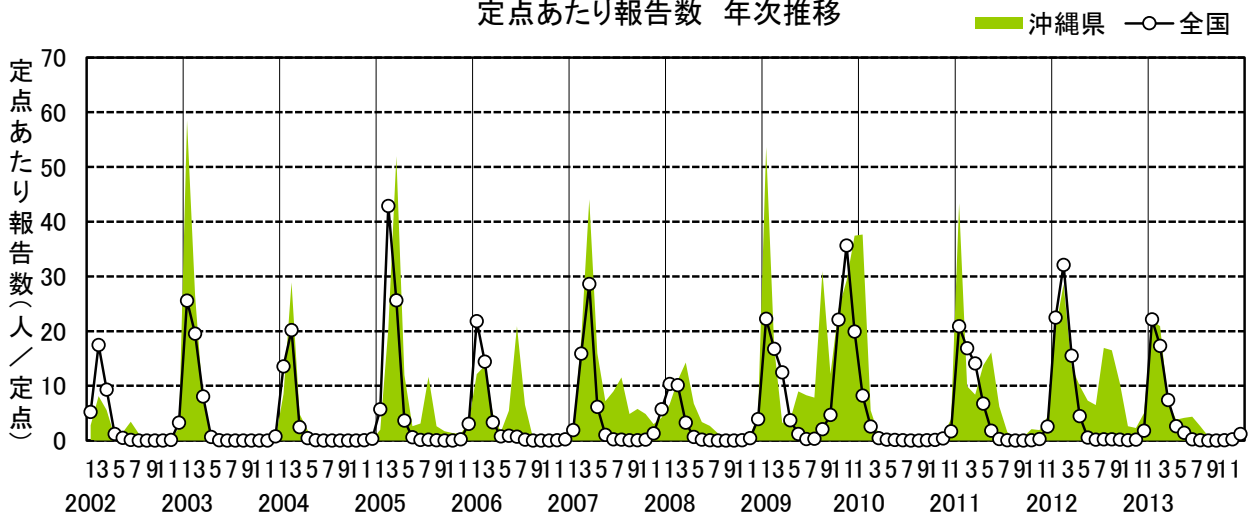
年齢階級別では、5-9歳が最も多く全体の17.9%を占め、続いて0-4歳が16.4%であった。

2012/13シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型が全体の約55%を占め最も多く、続いてB型が39%、A(H1)pdmが6%であった。

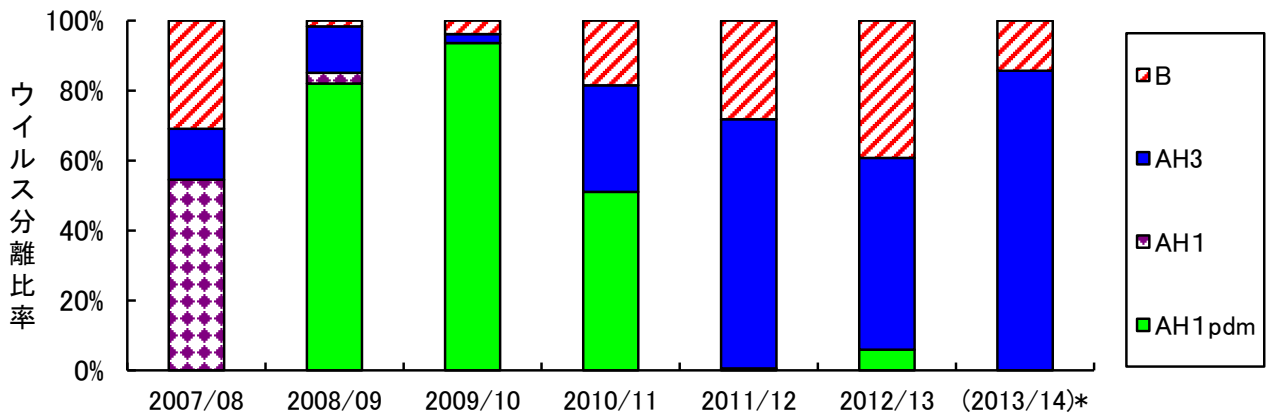
インフルエンザ 過去5年の流行時期の比較



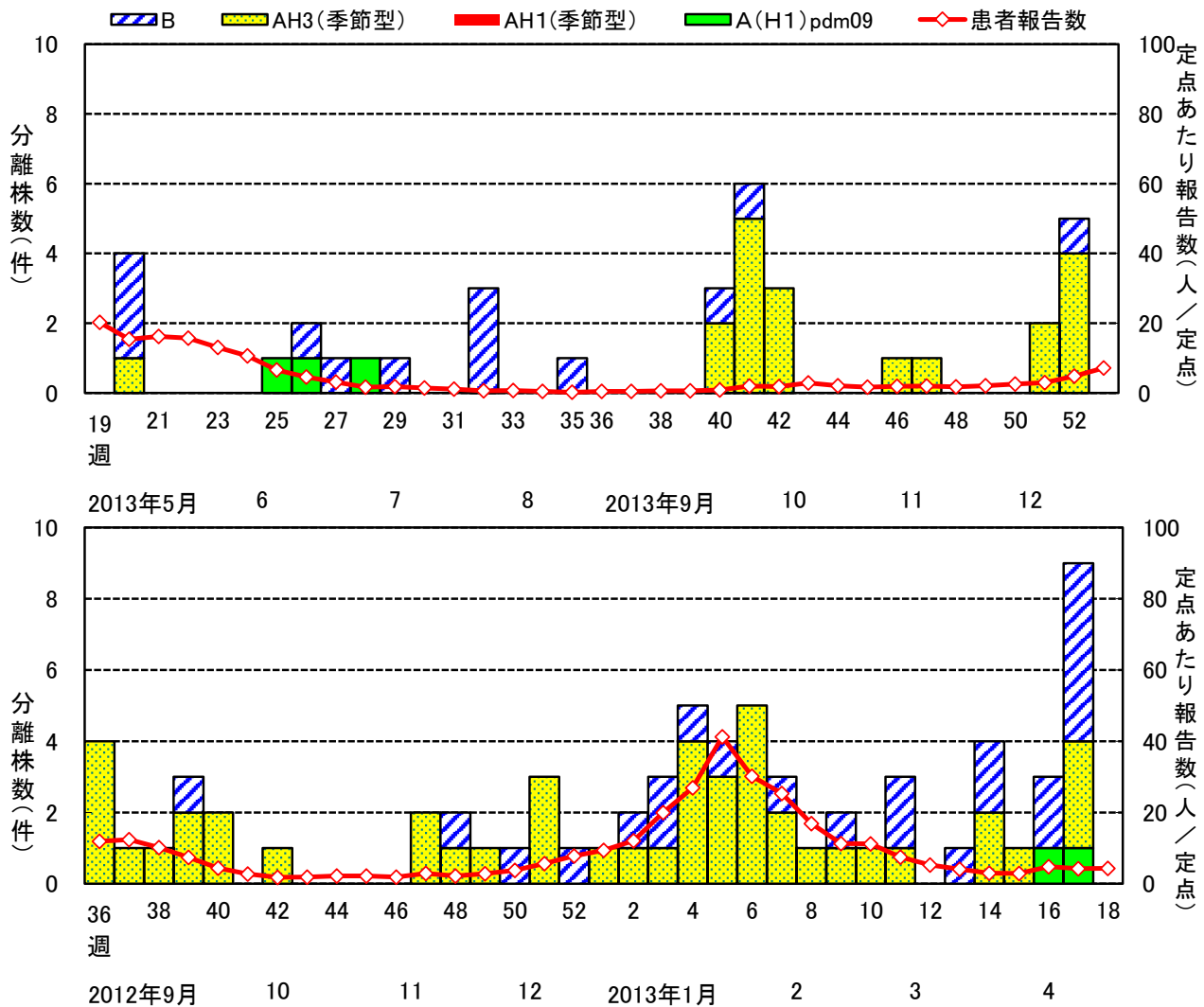
定点あたり報告数 年次推移



シーズン別インフルエンザウイルス検出状況



週別インフルエンザウイルス検出状況、定点あたり患者報告数の推移
(2012年第36週～2013年末)

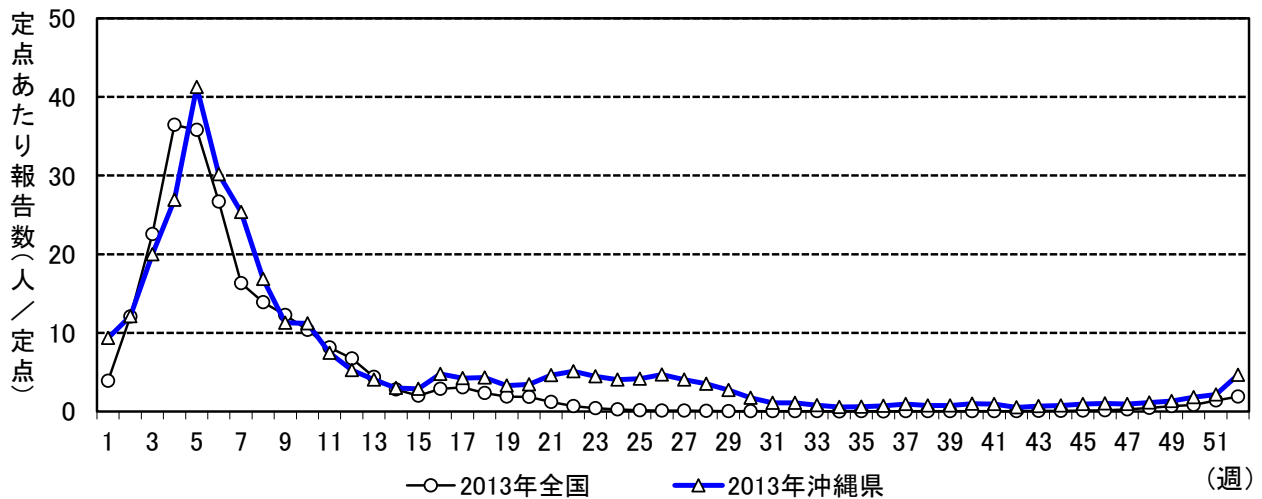


シーズン(9月～翌年8月まで)別の報告数合計: インフルエンザ

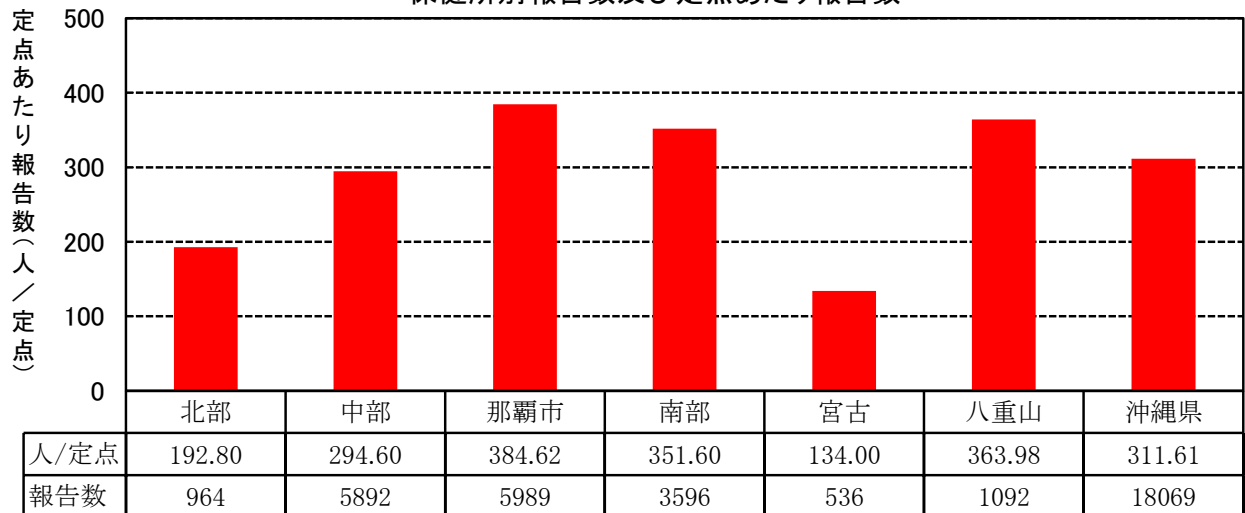
*2013年9～12月末まで

平均報告数 (2013/14)を除く	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13	(2013/14) *
31,454	36,803	37,845	28,157	32,729	21,735	1,219

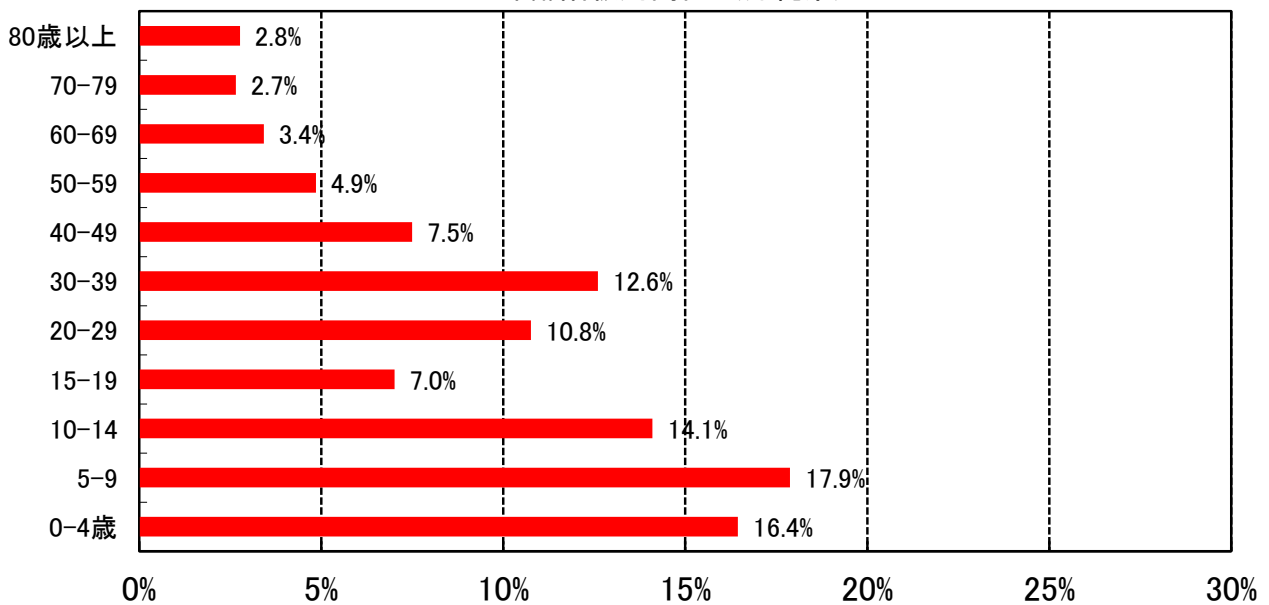
インフルエンザ 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)

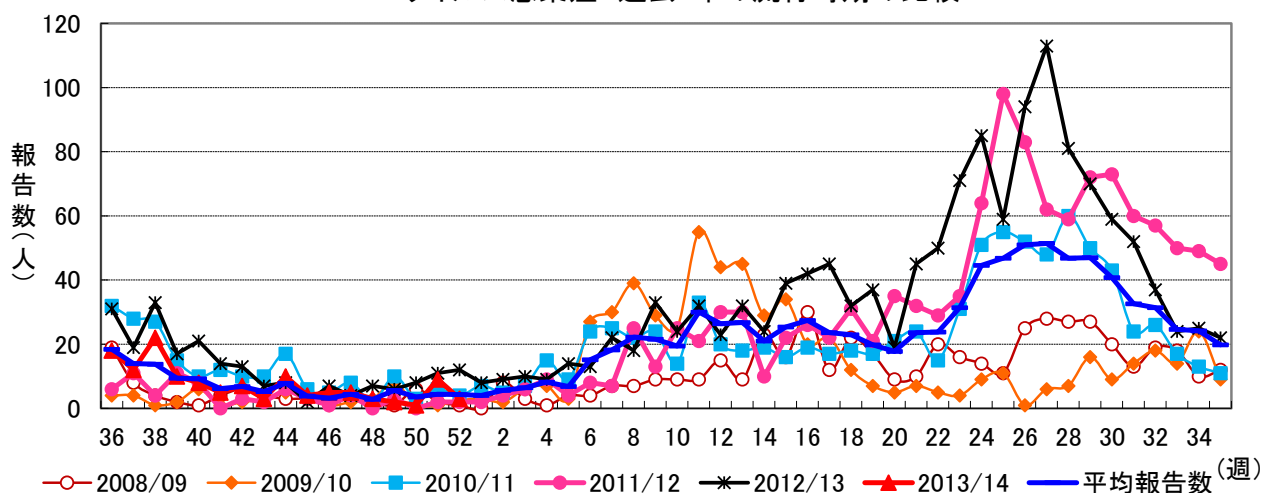


RSウイルス感染症

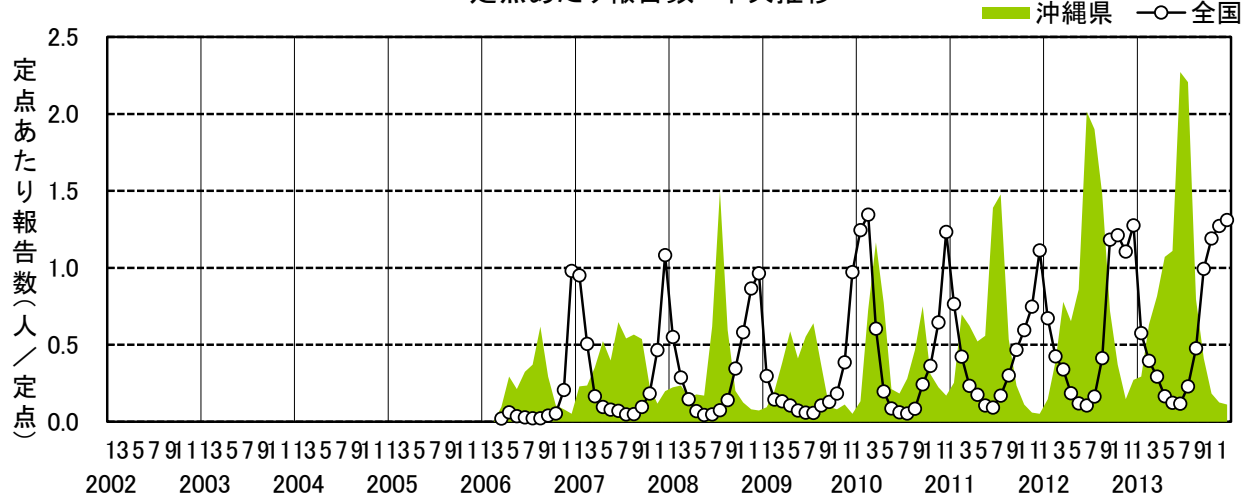
RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症である。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされている。特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は、重症化しやすいため感染しないよう注意が必要である。

2012/13シーズンの県内における患者報告数は1,592人、定点当たり46.82人であった。RSウイルス感染症の患者数は年々増加しており、今シーズンは過去5シーズンで最多であった。全国では冬季に流行のピークが認められたのに対し、本県では夏季と冬季に流行が認められた。年齢階級別では1歳児が最も多く全体の33.8%を占めていた。

RSウイルス感染症 過去5年の流行時期の比較



定点あたり報告数 年次推移

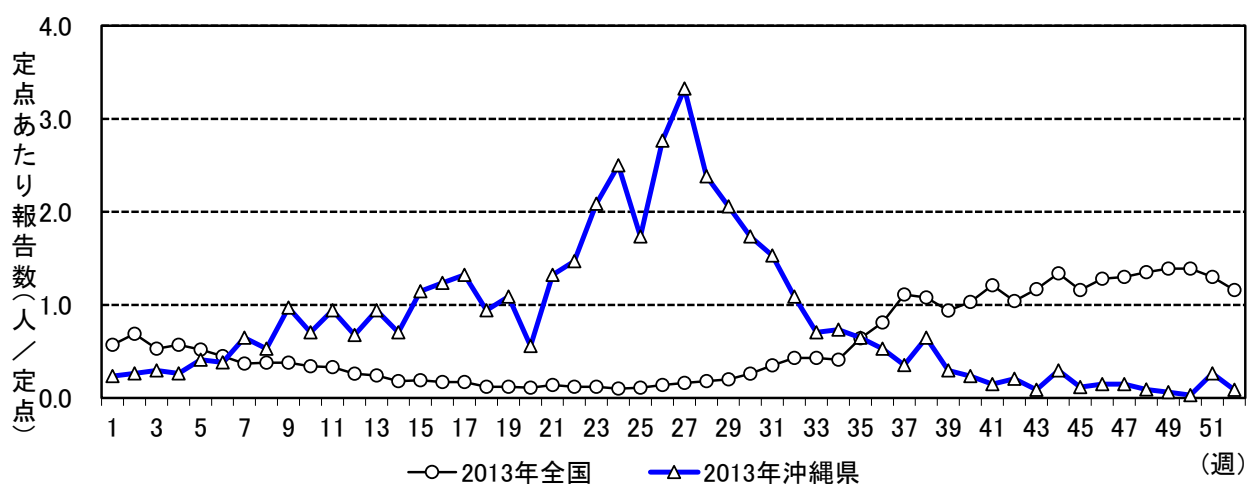


シーズン(9月～翌年8月まで)別の報告数合計: RSウイルス感染症

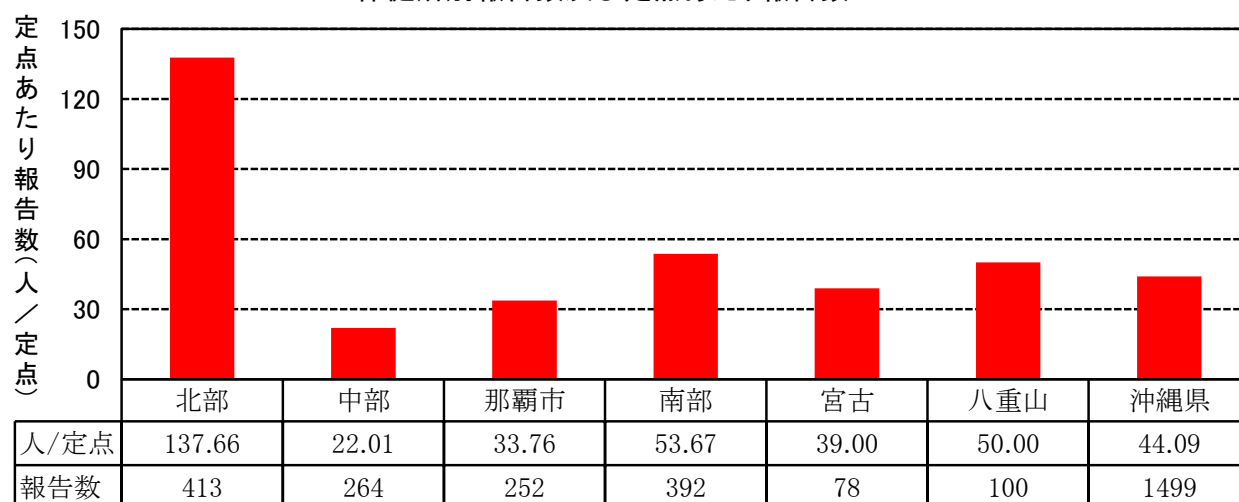
*2013年9～12月末まで

平均報告数 (2013/14)を除く	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13	(2013/14) *
1,032	556	652	1,075	1,285	1,592	127

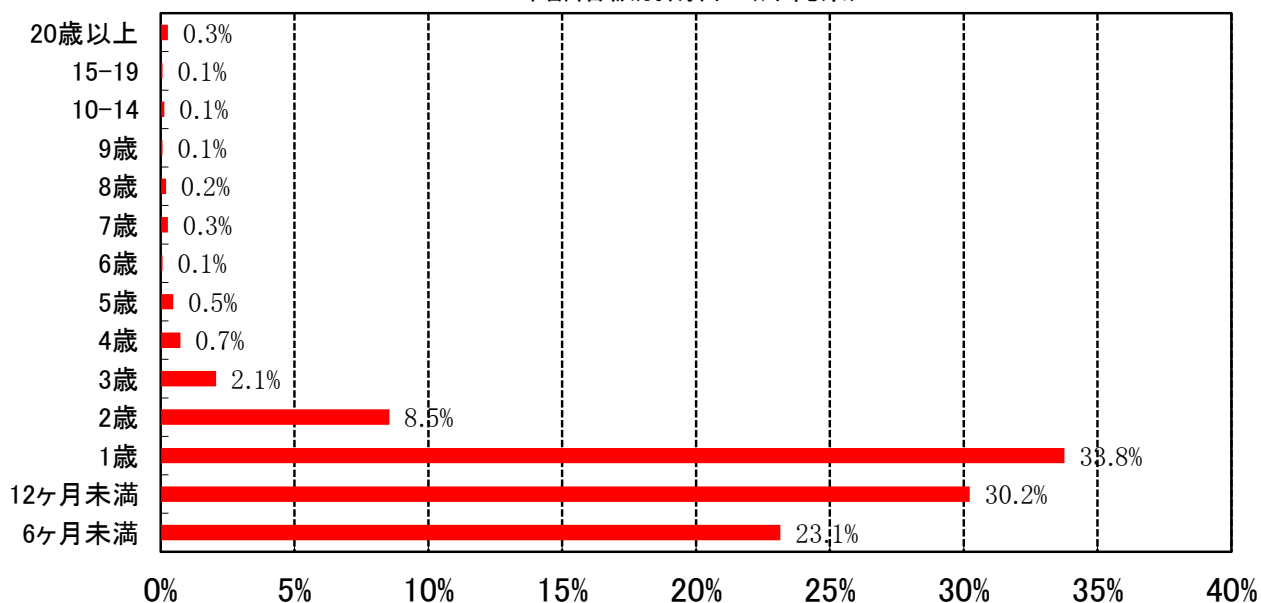
RSウイルス感染症 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合（沖縄県）



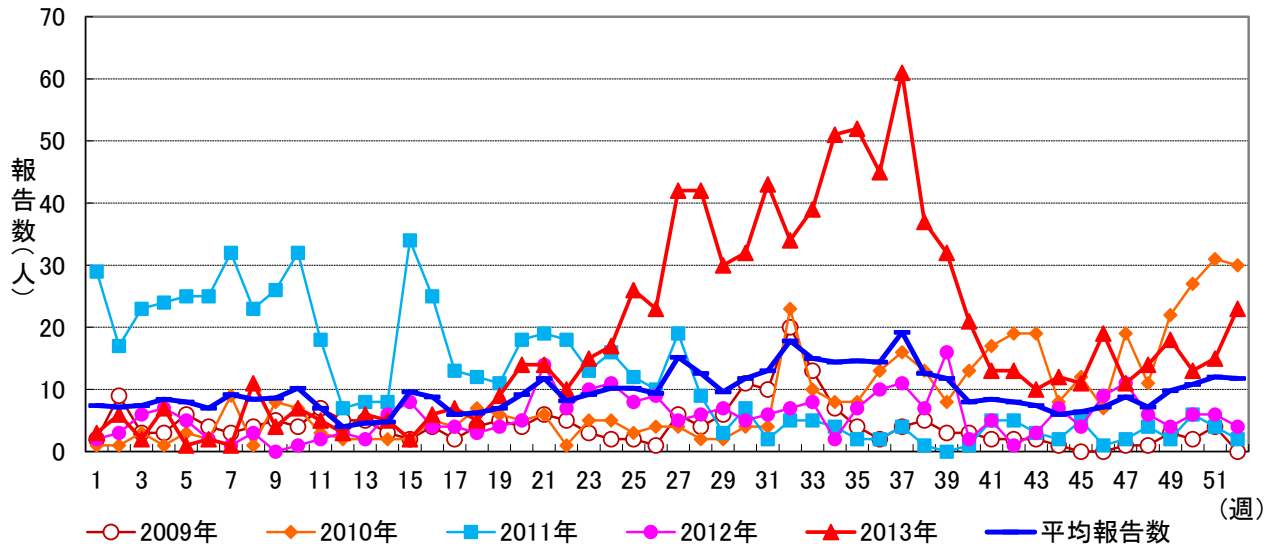
咽頭結膜熱（プール熱、PCF）

咽頭結膜熱は、アデノウイルスによる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス感染症であり、プールを介した感染も多く、プール熱とも呼ばれている。

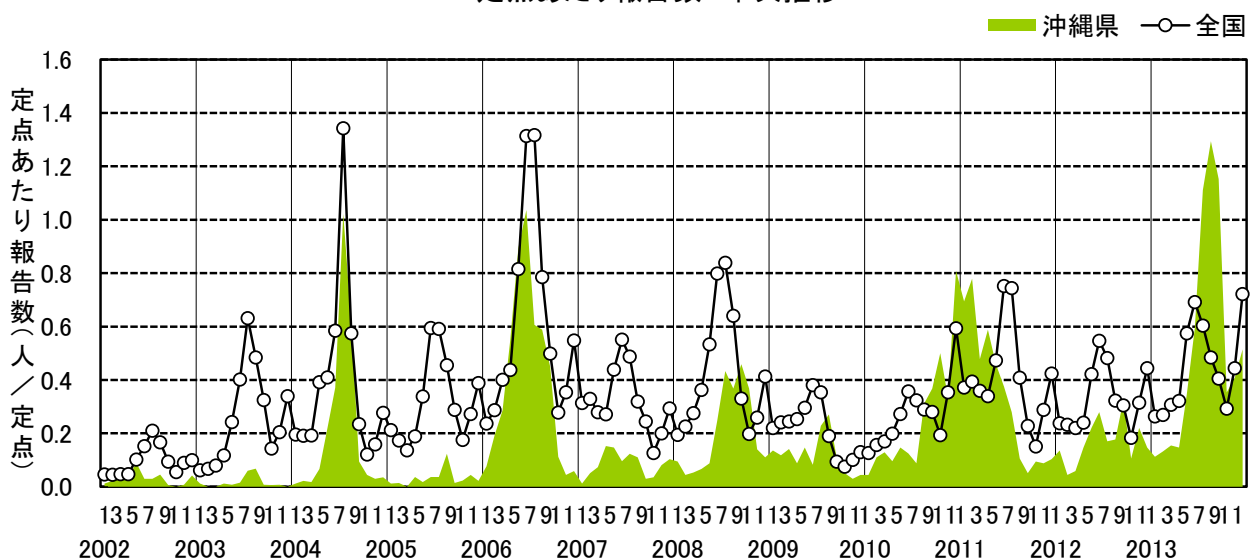
2013年県内の患者報告数は944人、定点当たり27.80人であり、過去5年間で最多の報告数であった。

保健所別では、北部保健所の患者報告数が61.64人/定点と最も多かった。年齢階級別では、1歳が最も多く全体の25.7%を占めていた。

咽頭結膜熱 過去5年の流行時期の比較



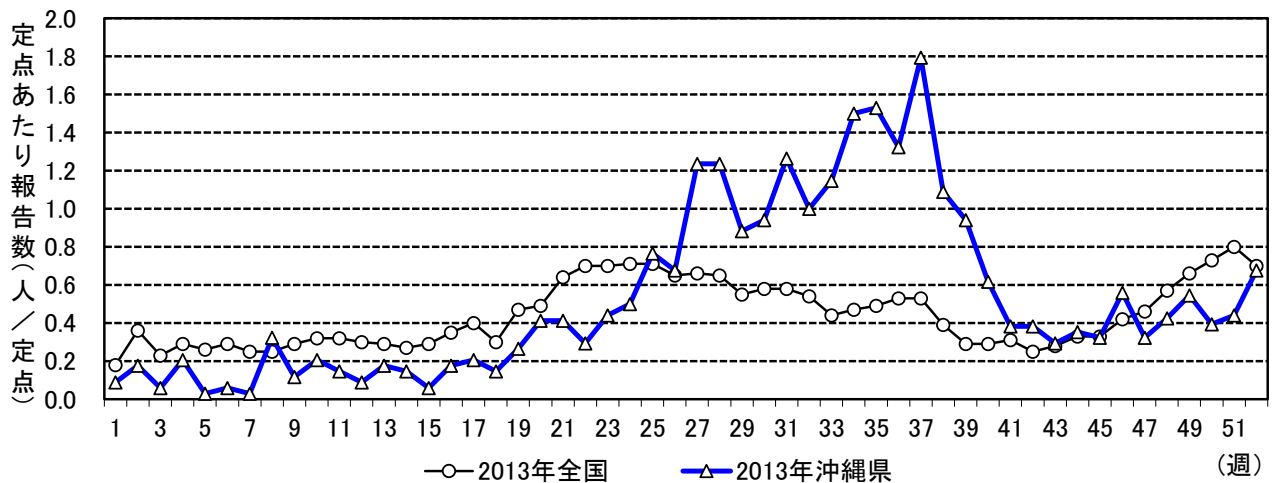
定点あたり報告数 年次推移



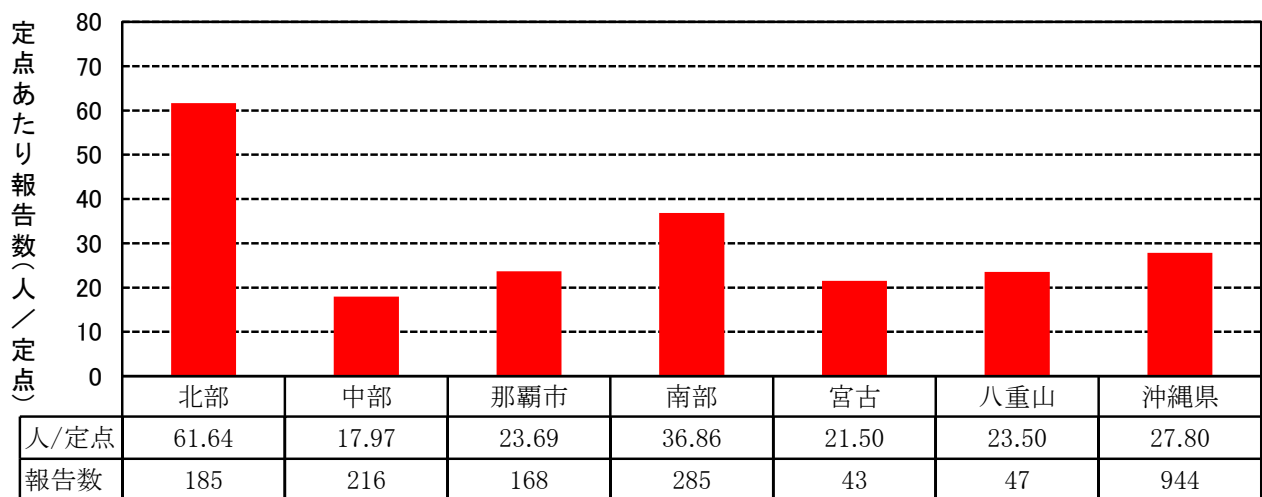
シーズン別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
502	219	448	603	295	944

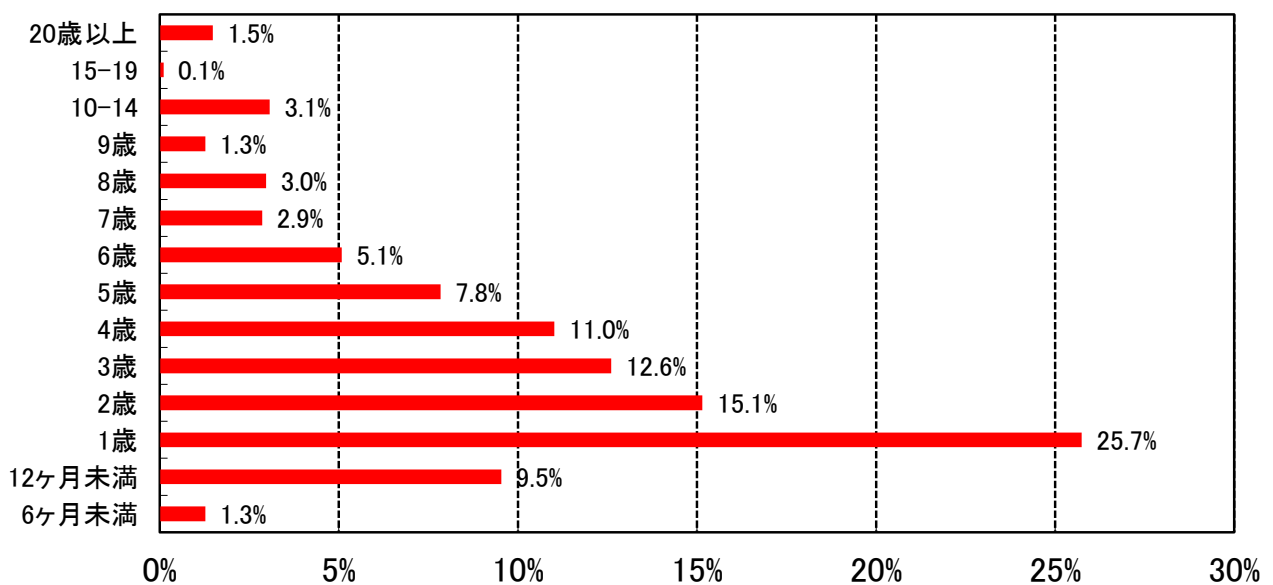
咽頭結膜熱 定点当たり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合（沖縄県）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

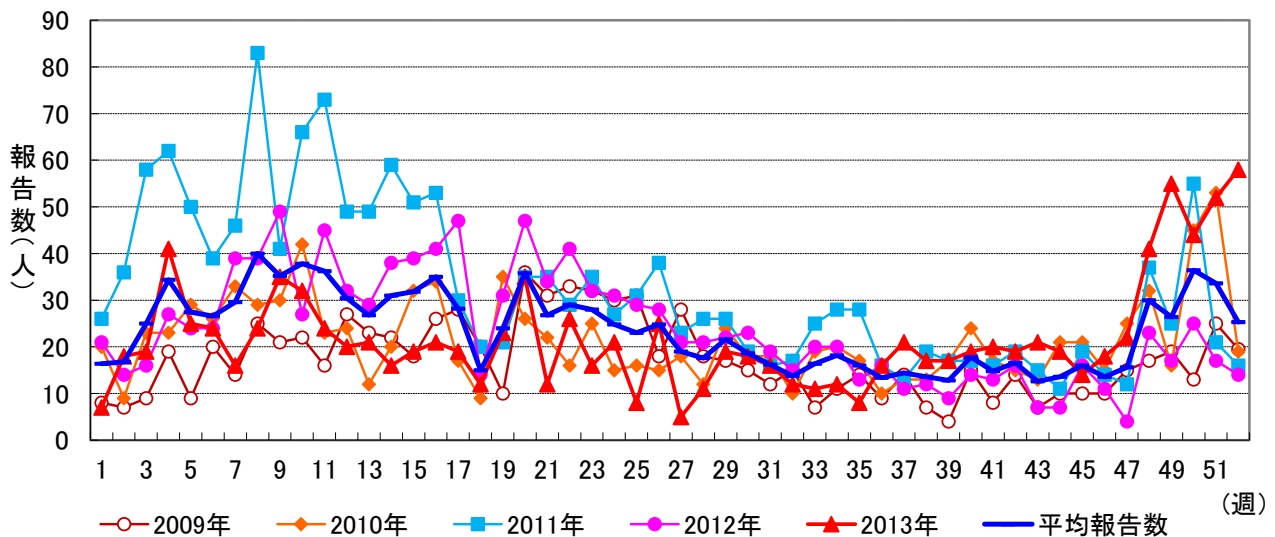
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、いずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く認められる。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱を呈する。発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

2013年県内の患者報告数は1,144人、定点あたり33.77人であり、前年比0.92と微少した。

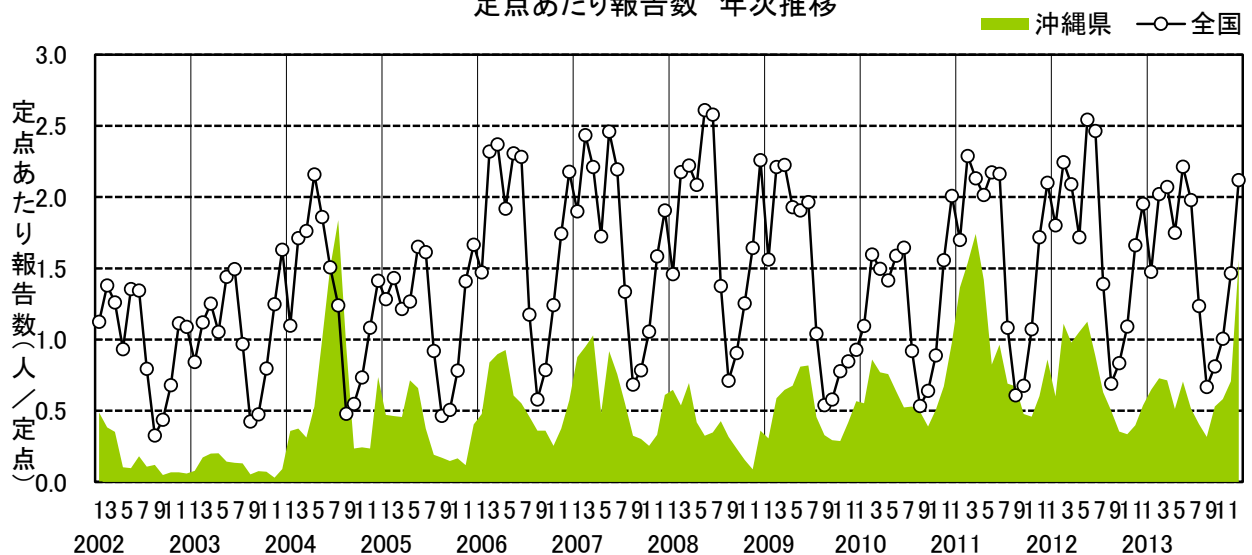
保健所別では、南部保健所管内の定点あたり報告数が87.02人と最も多かった。

年齢階級別では、小児から成人まで幅広く報告された。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 過去5年の流行時期の比較



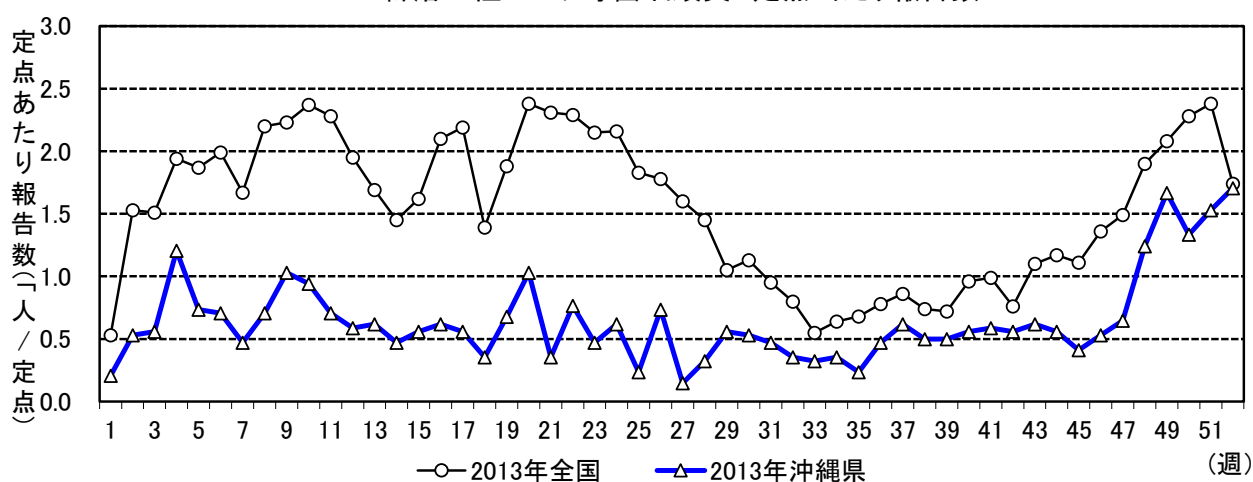
定点あたり報告数 年次推移



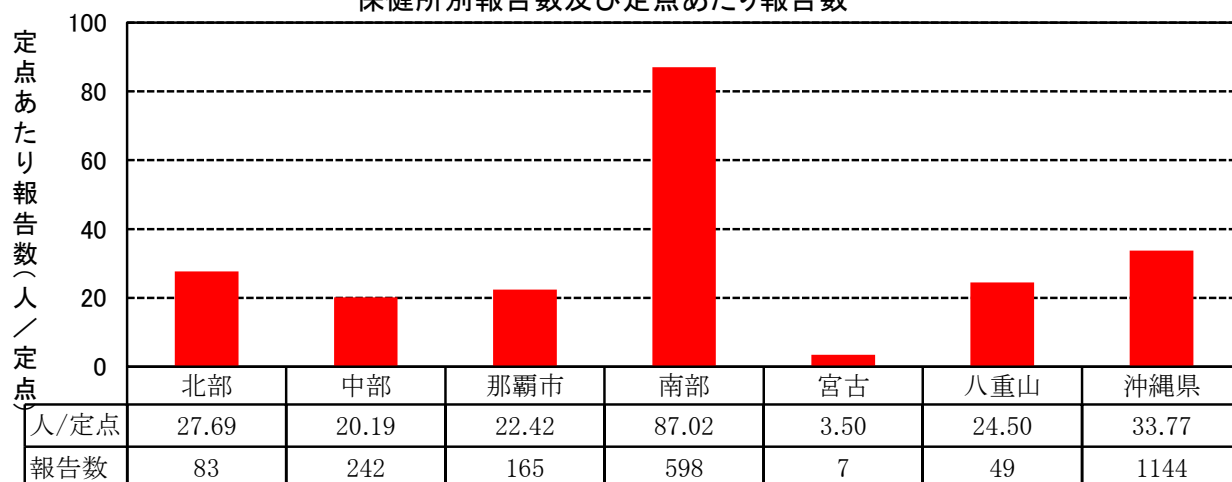
シーズン別の報告数合計: A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1,228	928	1,130	1,692	1,244	1,144

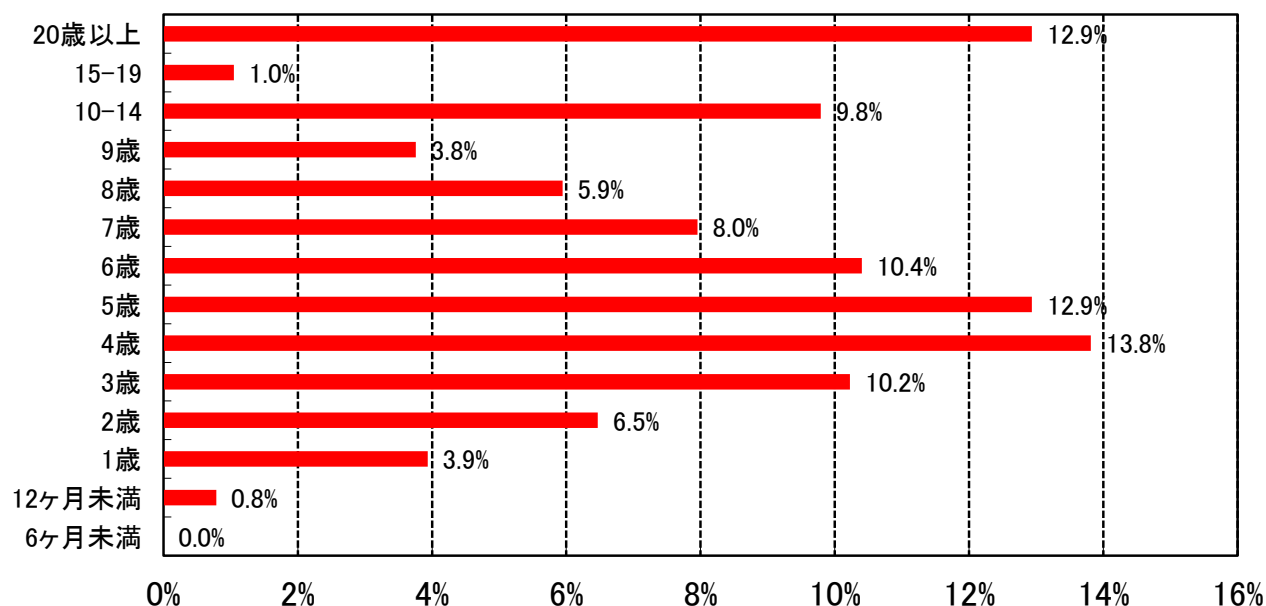
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 定点あたり報告数



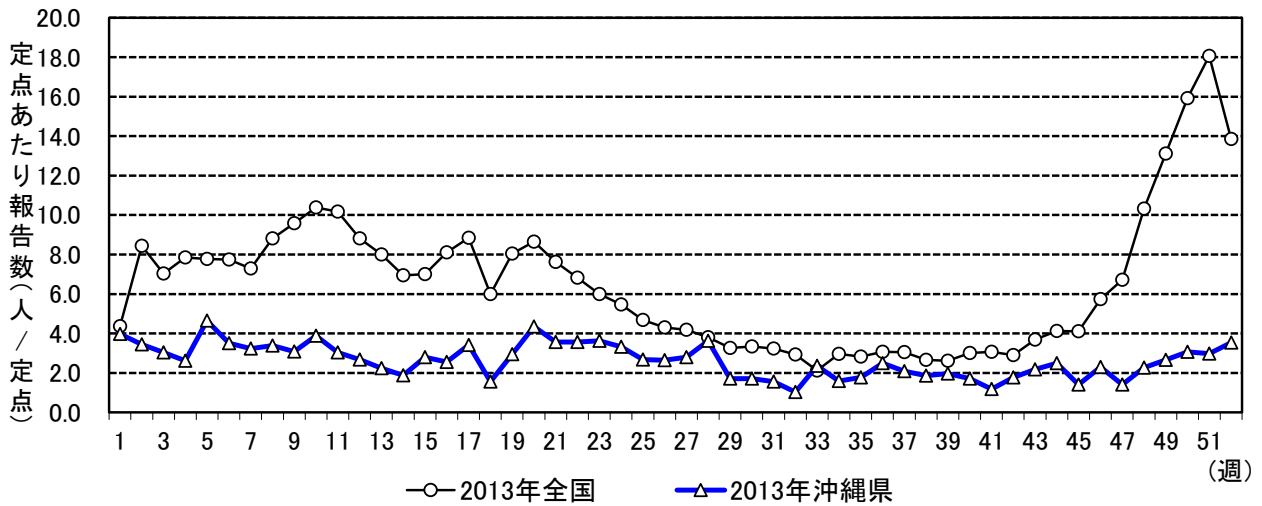
保健所別報告数及び定点あたり報告数



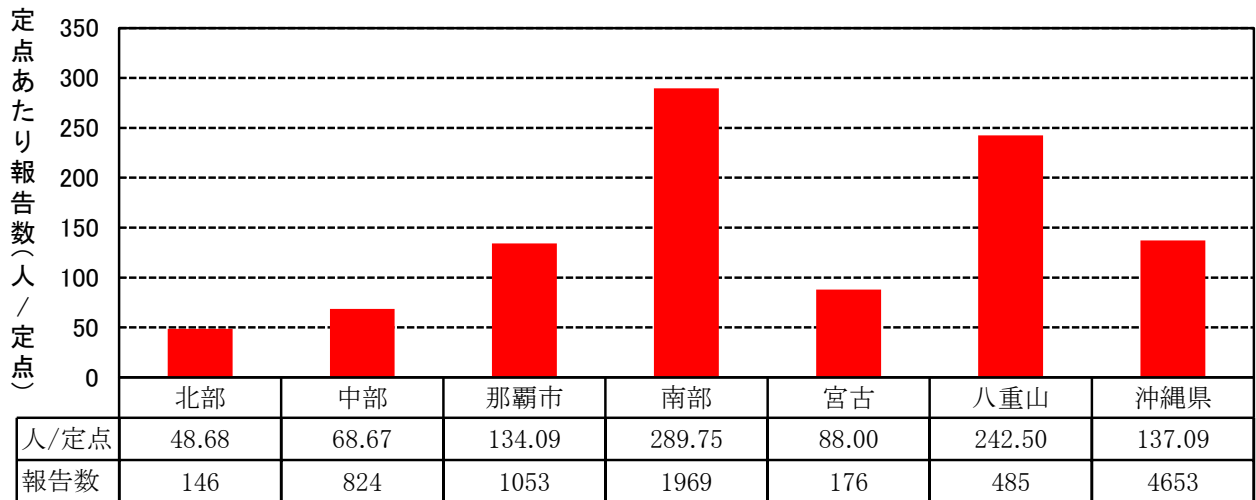
年齢階級別割合 (沖縄県)



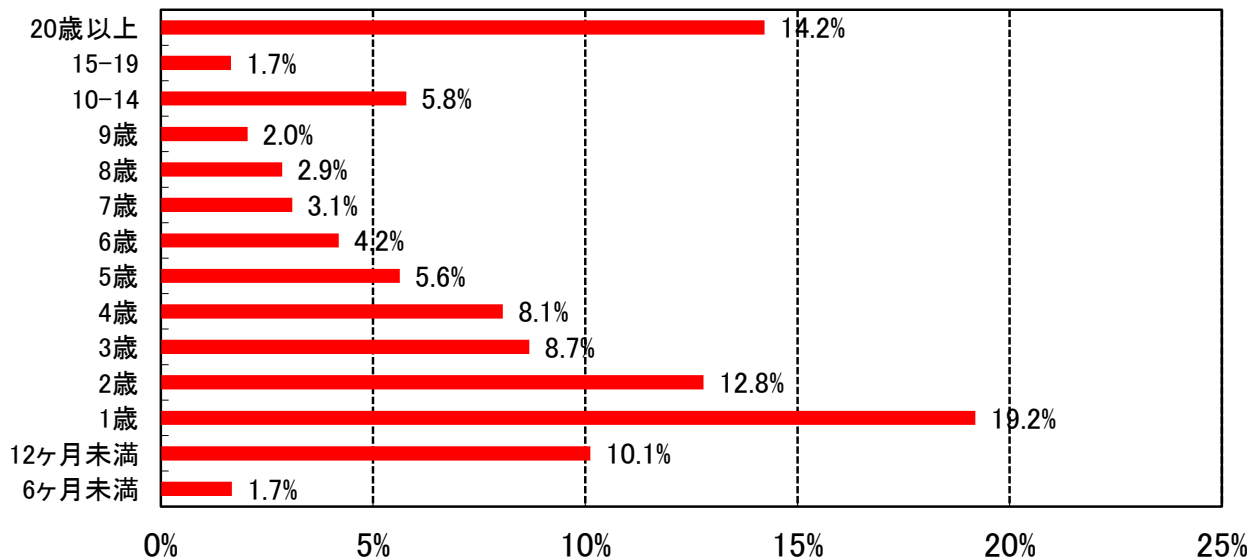
感染性胃腸炎 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)



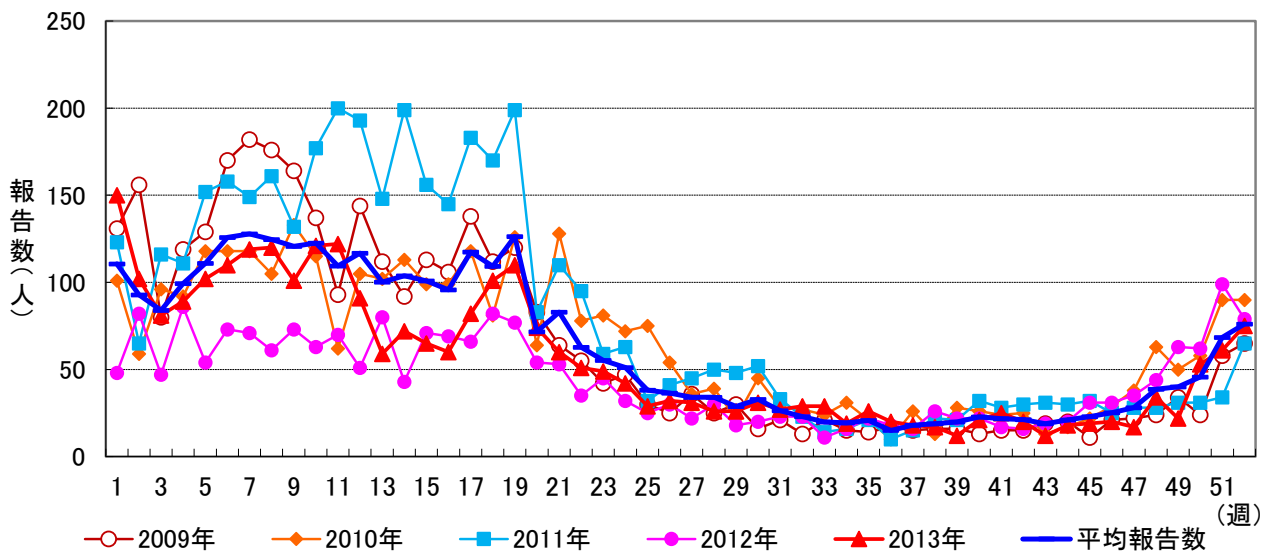
水痘

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）によって起こる急性の伝染性疾患である。例年12月～7月に患者発生報告が多く、罹患年齢はほとんどが9歳以下であることが知られている。

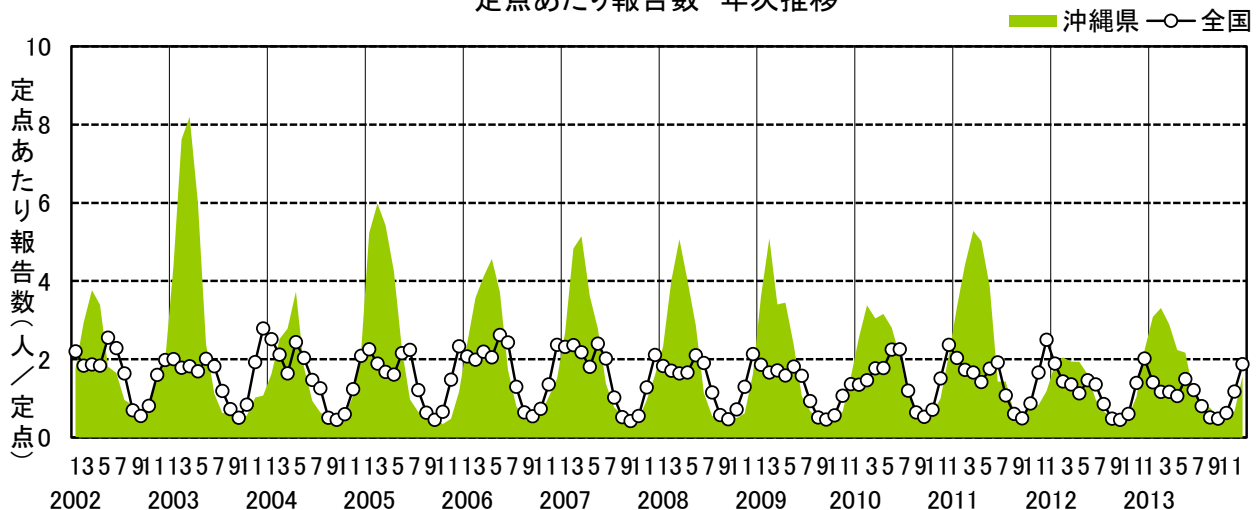
2013年県内の患者報告数は2,902人、定点当たり85.45人であり、前年比1.24と増加した。県内では、例年1月～5月にかけて流行がみられる。2013年も1月～5月にかけて患者報告数が増加し、各保健所では警報・注意報レベルに達した。

年齢階級別では、1歳が最も多く全体の25.5%、続いて2歳が全体の20.8%を占めていた。

水痘 過去5年の流行時期の比較

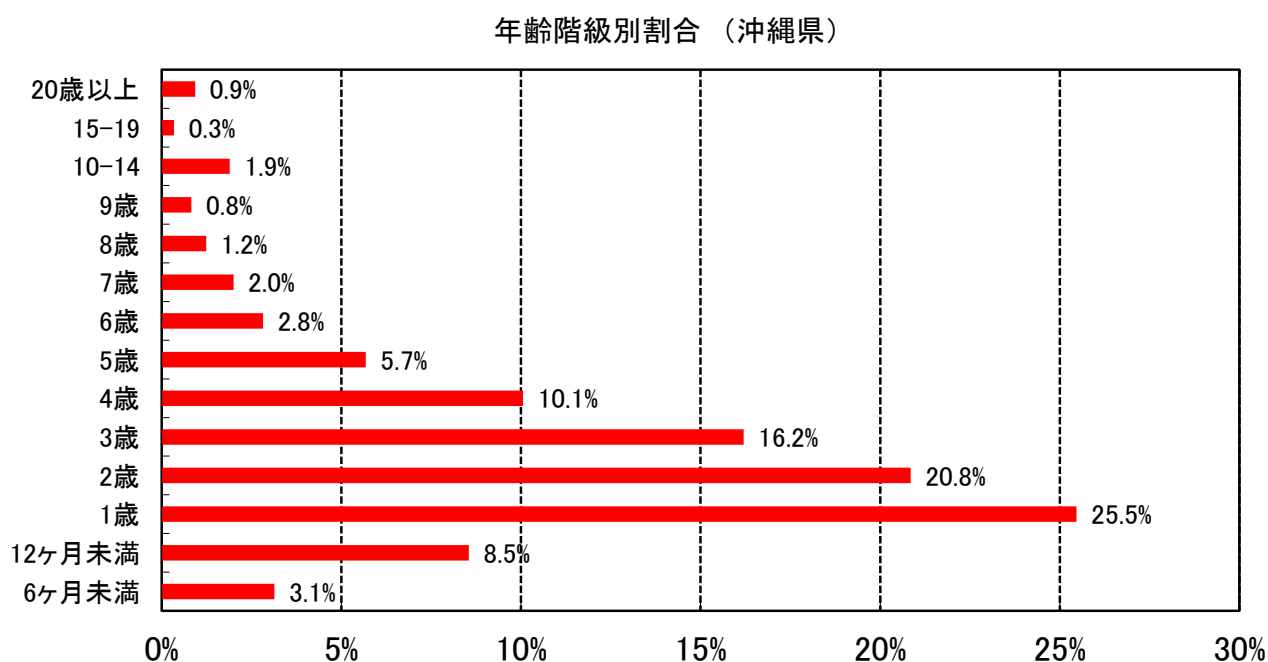
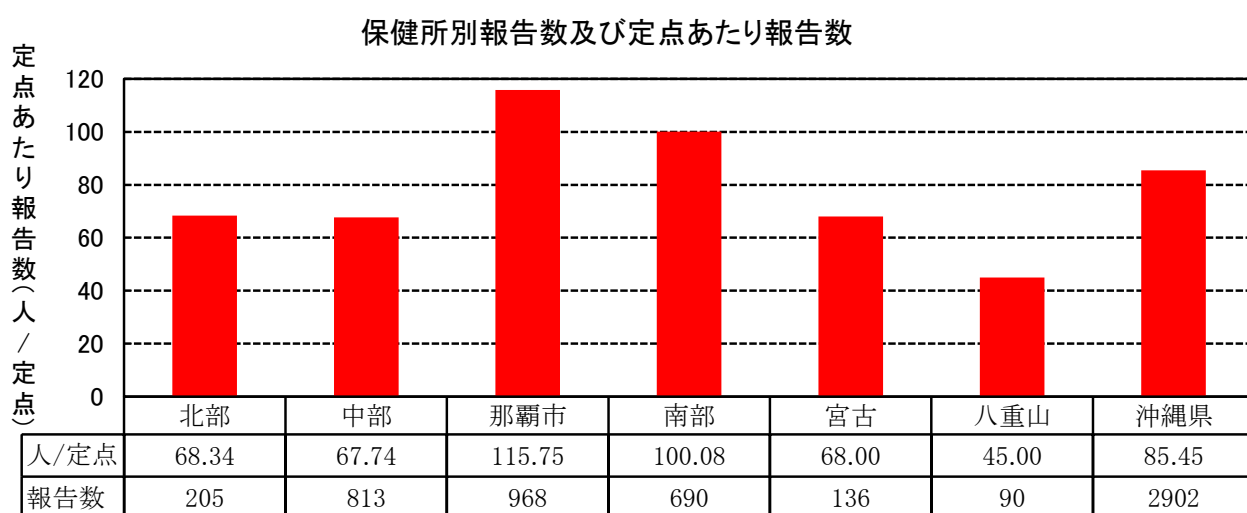
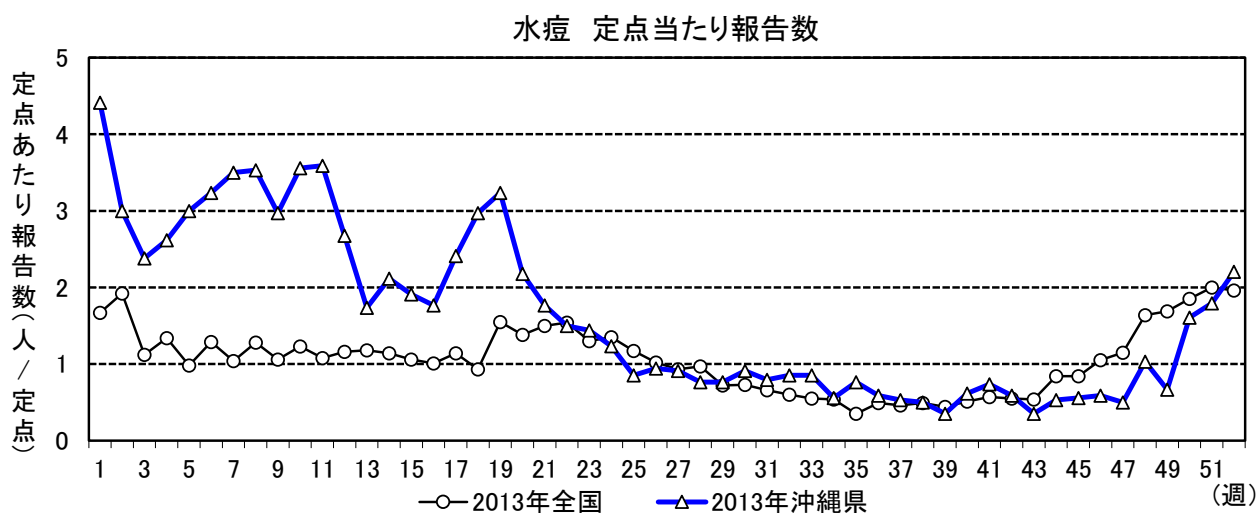


定点あたり報告数 年次推移



シーズン別の報告数合計:水痘

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
3,270	3,481	3,407	4,215	2,346	2,902



手足口病

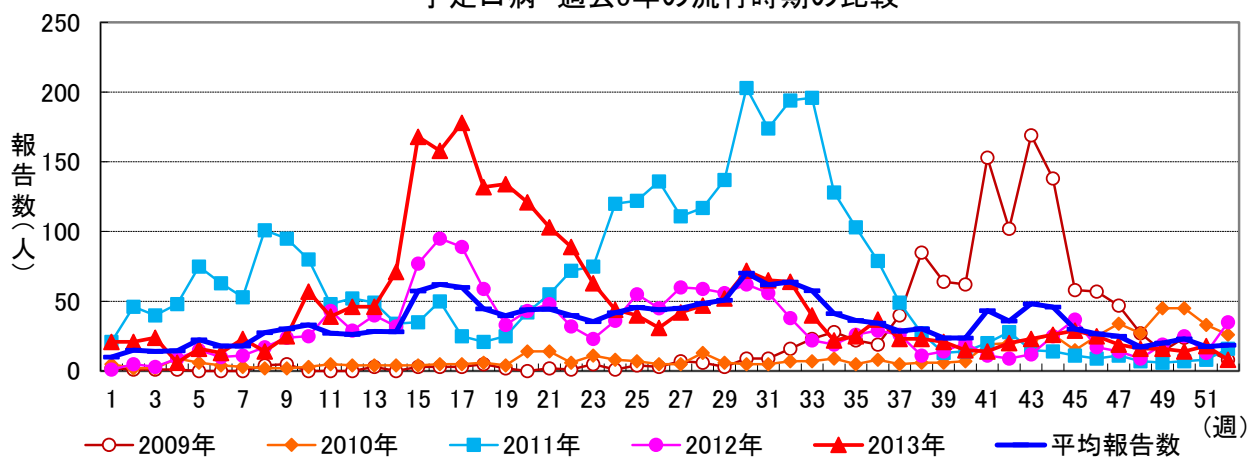
手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られる。コクサッキーA16（CA16）、CA10、CA6、エンテロウイルス71（EV71）などが起因ウイルスである。EV71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られている。

2013年県内の患者報告数は2,459人、定点当たり72.36人であり、前年比1.52と増加した。年齢階級別では、1歳が最も多く全体の50.6%を占めていた。2013年はEV71、CA6に加えてエコーウイルス25型も検出された。

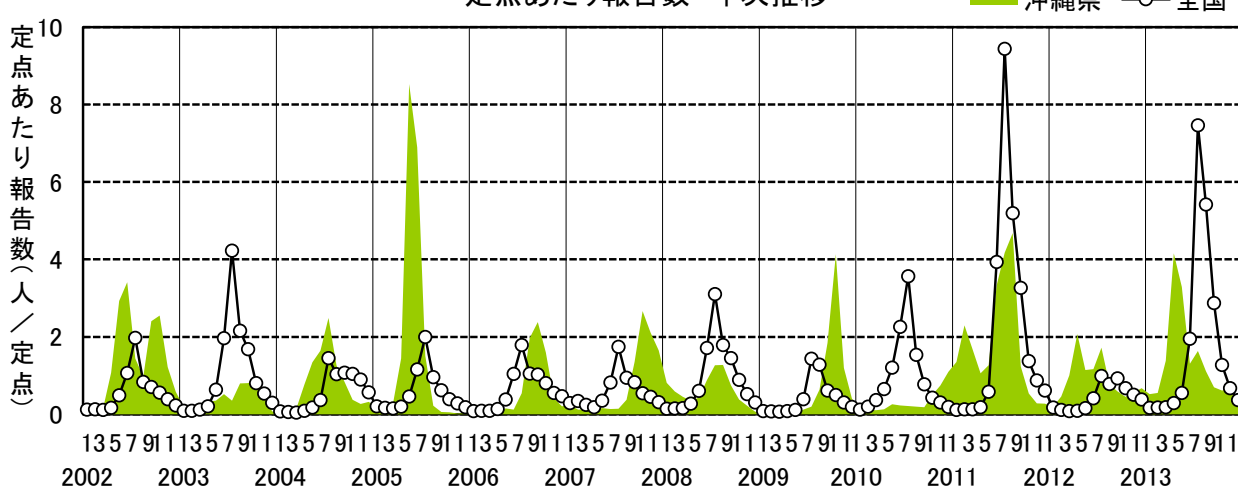
手足口病から分離されたウイルス株数の推移

ウイルス型	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
エンテロウイルス71型	-	5	-	-	7	2
コクサッキーウイルスA6型	-	-	-	3	-	3
エコーウイルス25型	-	-	-	-	-	1

手足口病 過去5年の流行時期の比較



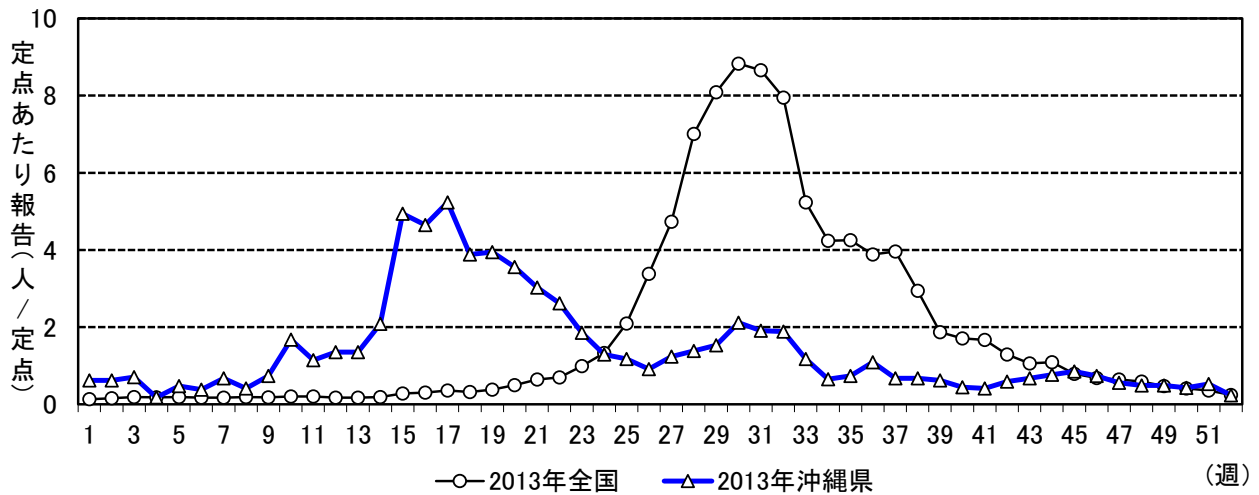
定点あたり報告数 年次推移



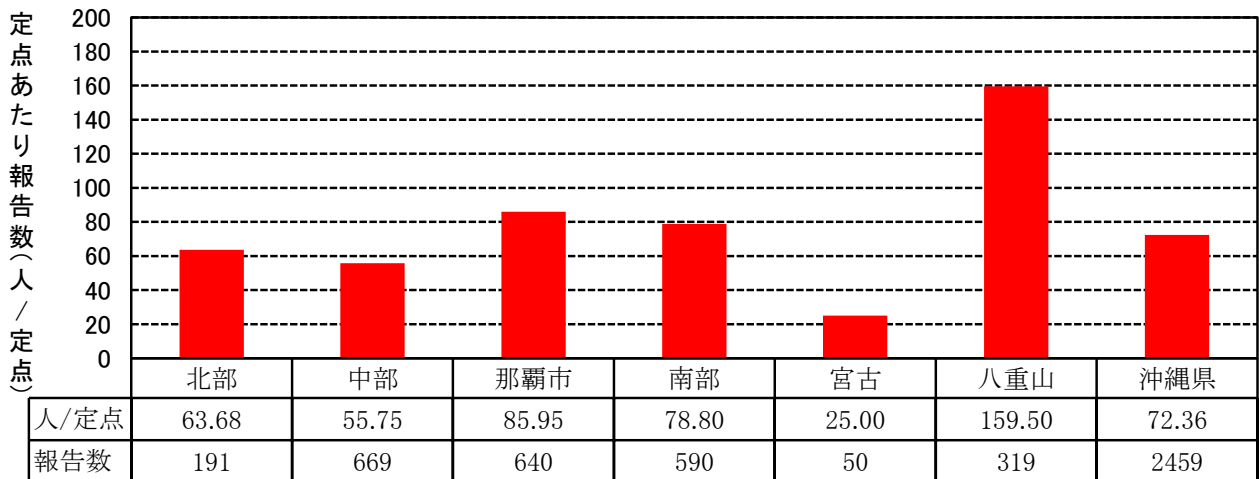
シーズン別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1,840	1,262	575	3,280	1,623	2,459

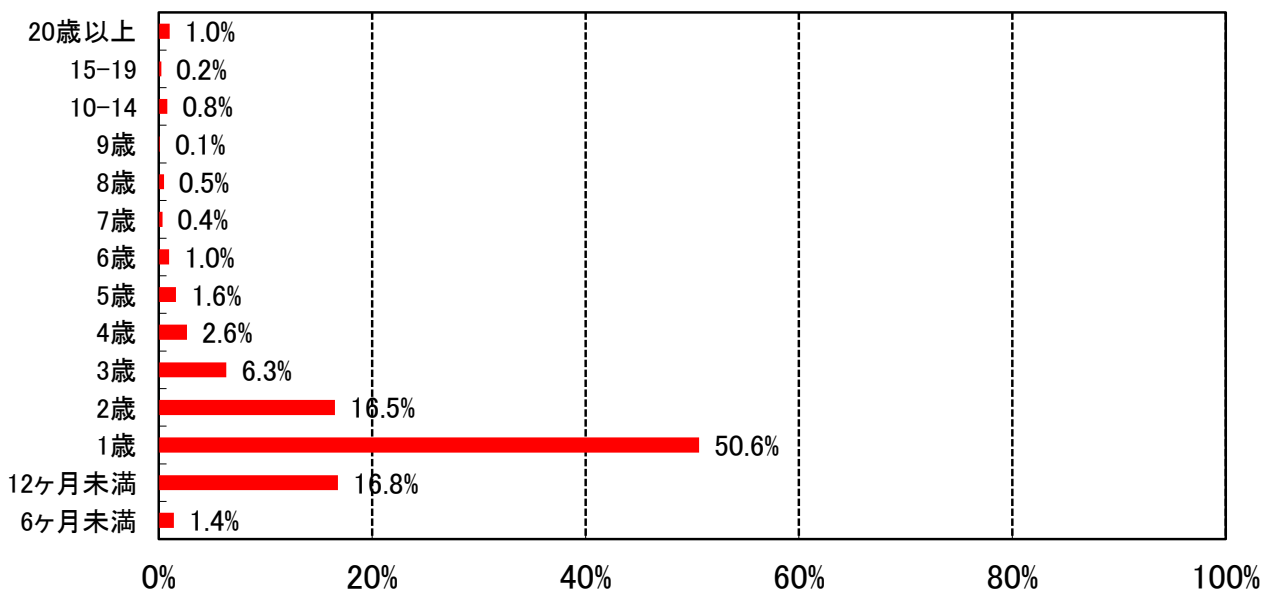
手足口病 定点あたり報告数



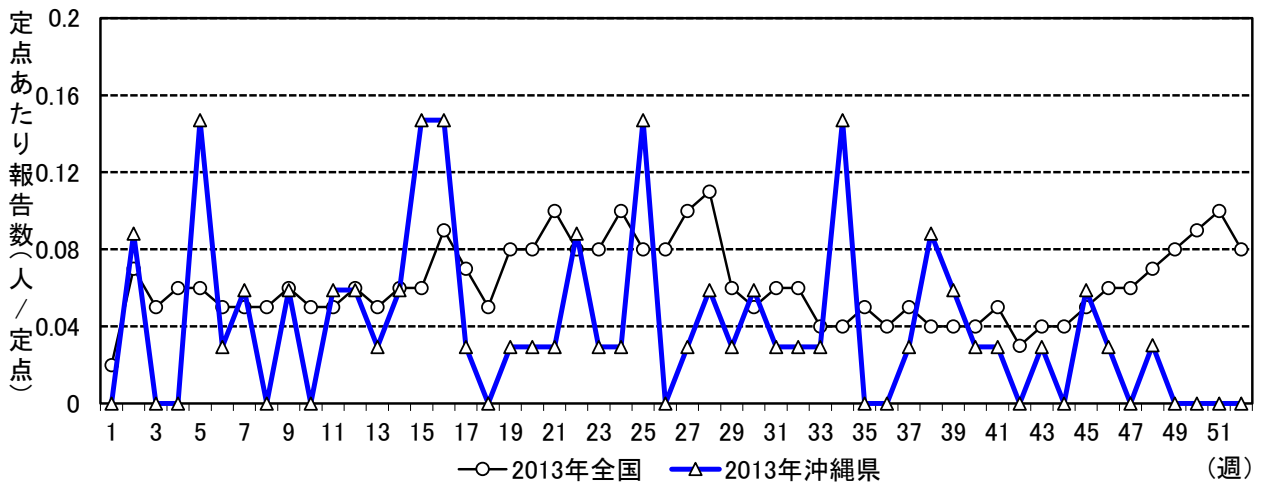
保健所別報告数及び定点あたり報告数



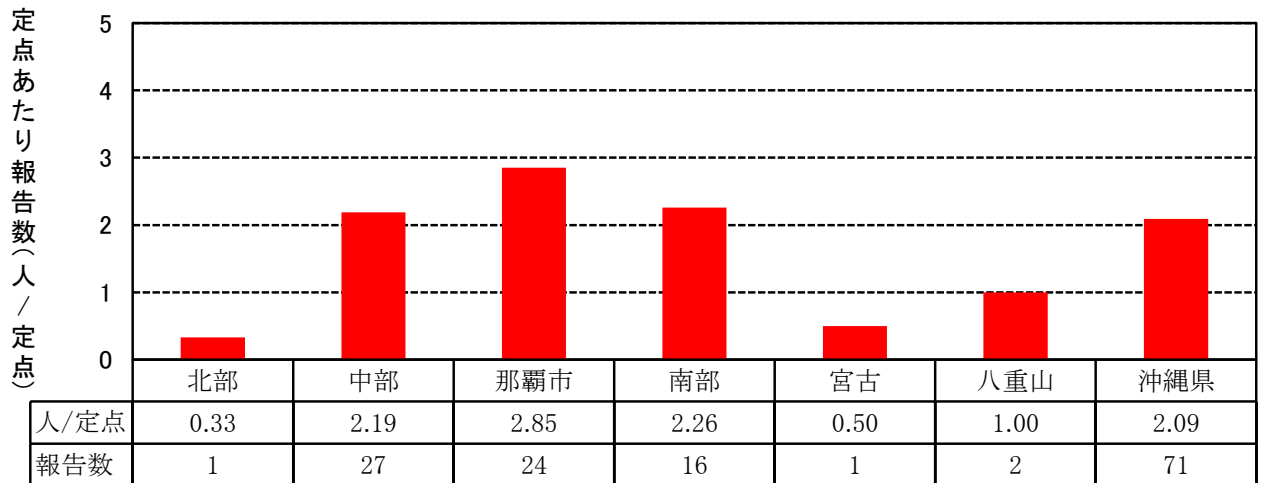
年齢階級別割合（沖縄県）



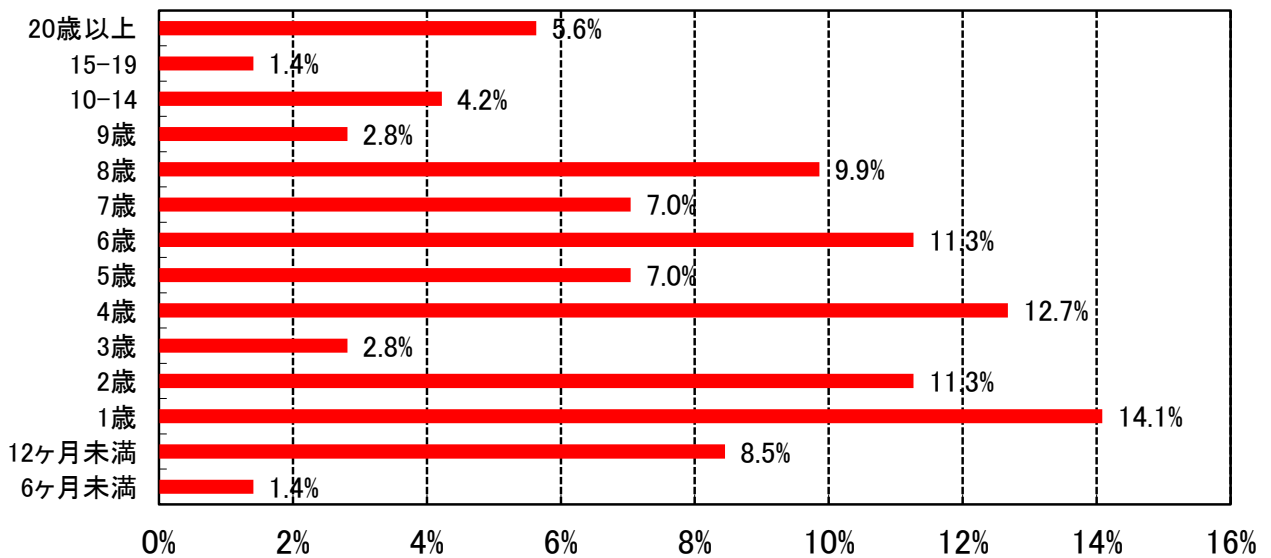
伝染性紅斑 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)

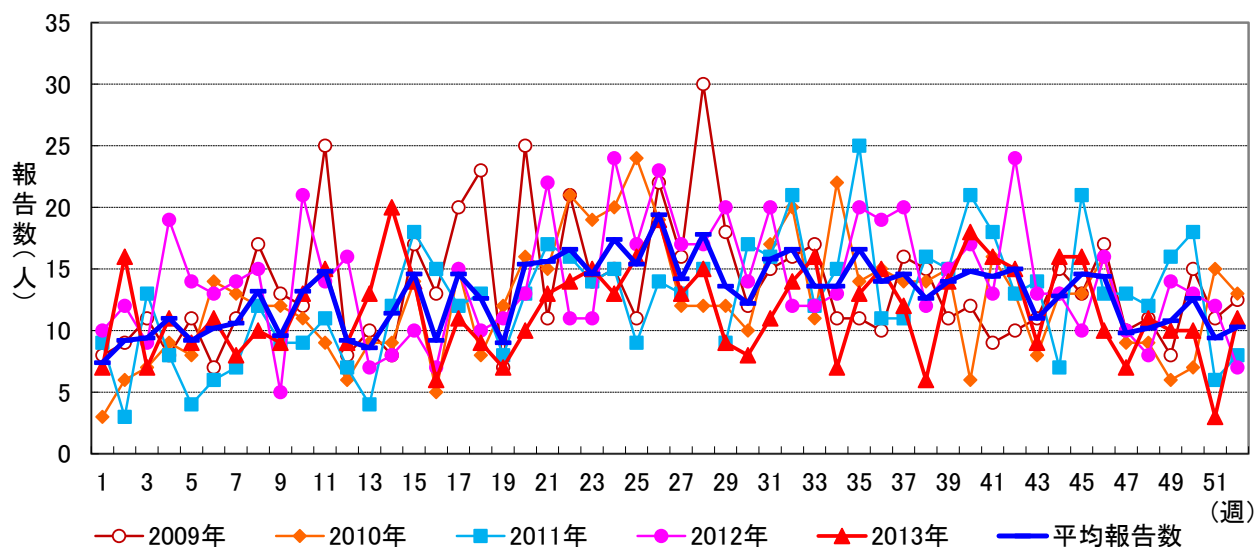


突発性発疹

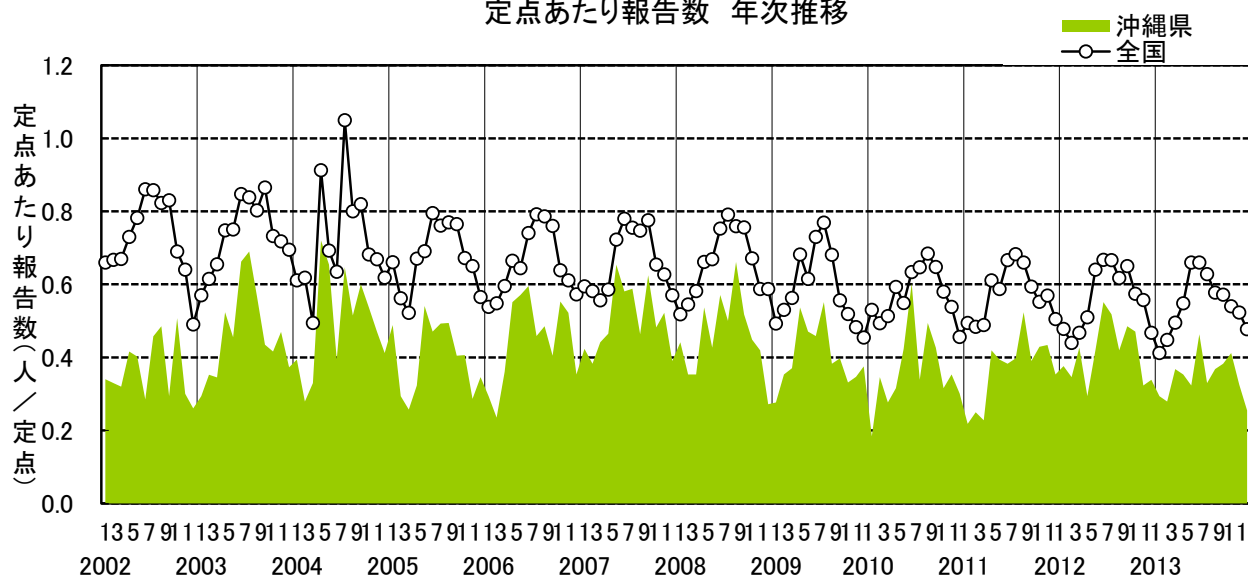
突発性発疹は、乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好である。原因ウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6あるいは7であることが多い。

2013年県内の患者報告数は610人、定点あたり17.97人であり、前年比0.83と減少した。年齢階級別の患者報告数は、1歳以下が最も多く全体の約90%を占めていた。

突発性発疹 過去5年の流行時期の比較



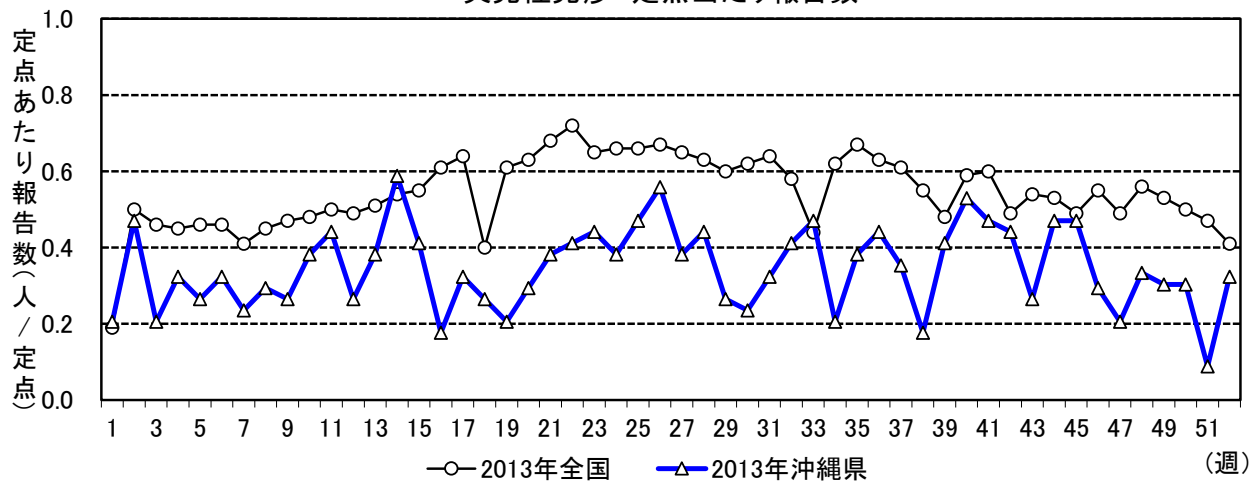
定点あたり報告数 年次推移



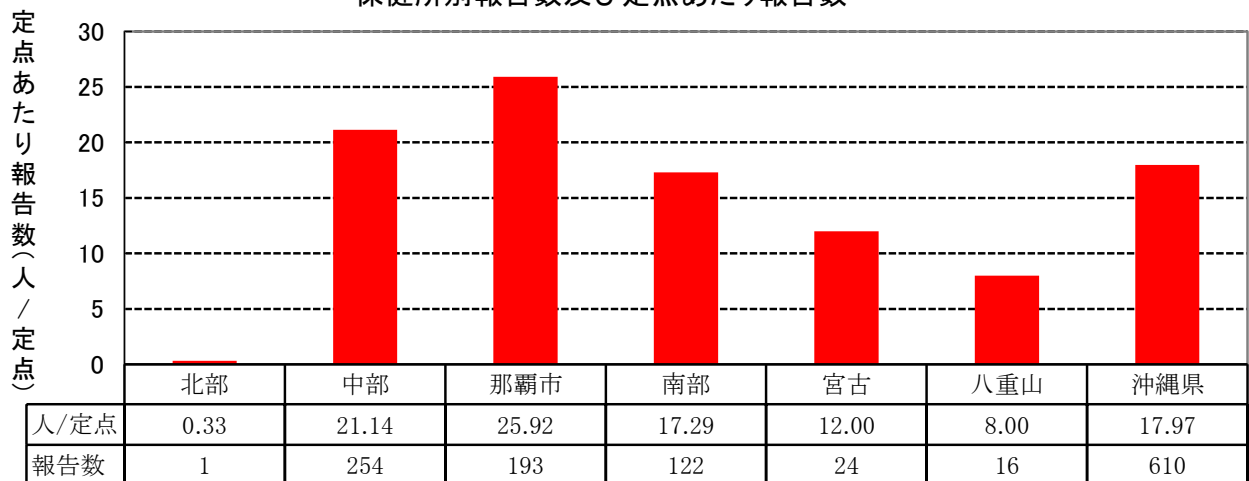
シーズン別の報告数合計: 突発性発疹

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
673	722	648	654	732	610

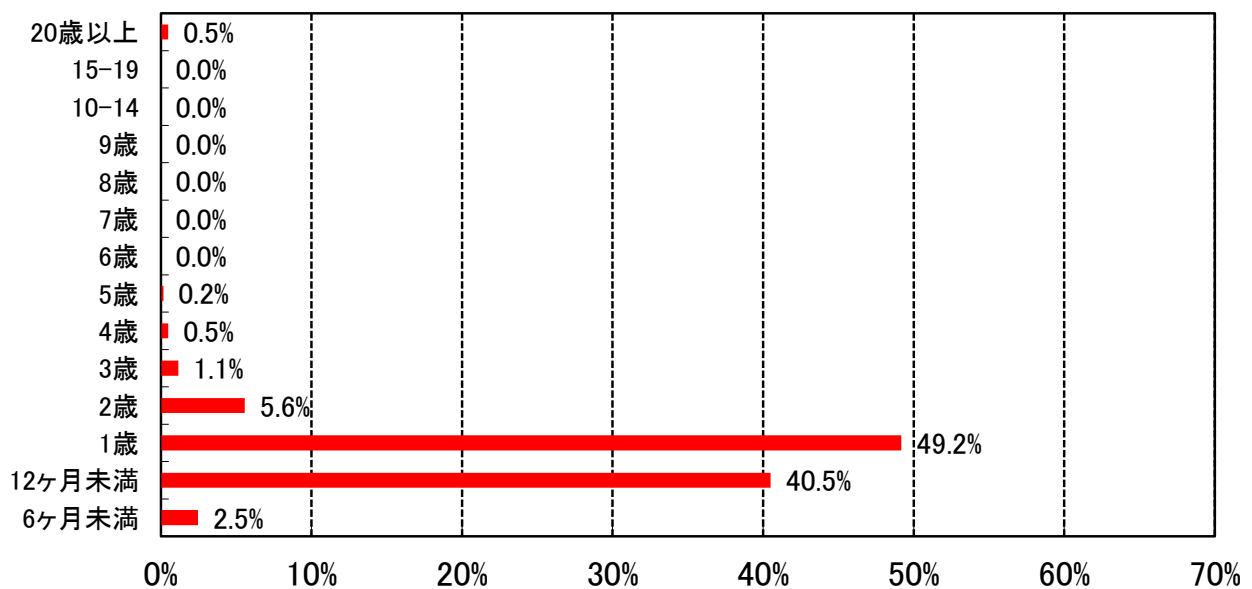
突発性発疹 定点当たり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)

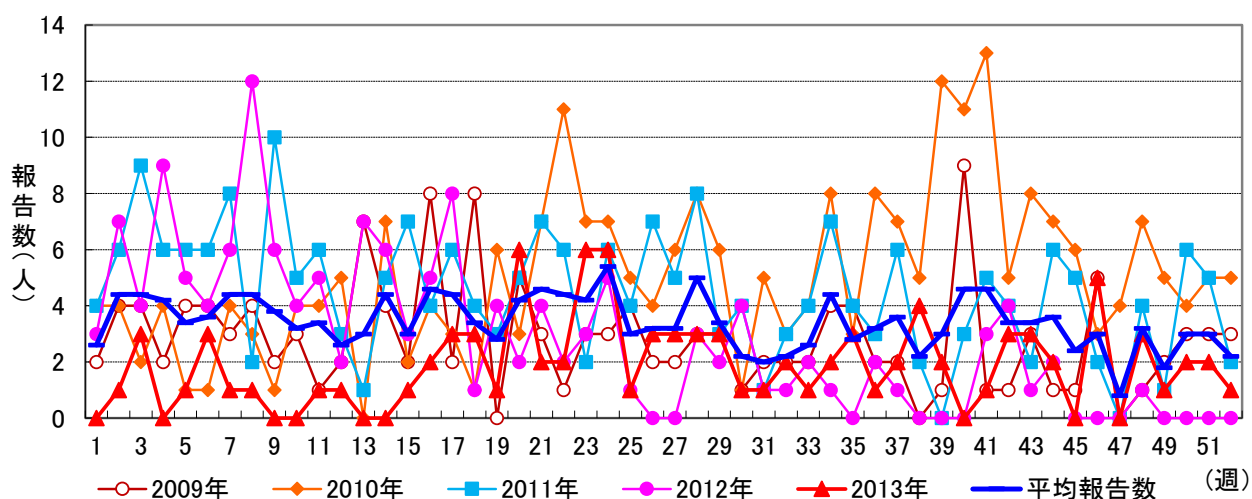


百日咳

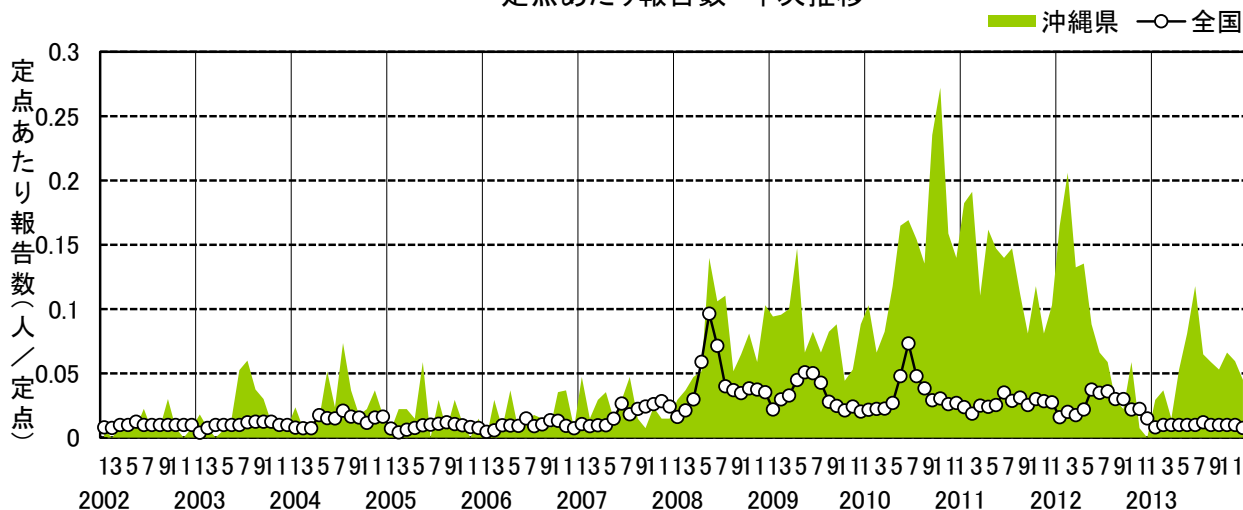
百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症である。母親からの免疫（経胎盤移行抗体）が期待できないため、乳児期早期から罹患し、1歳以下の乳児、ことに生後6カ月以下では死に至る危険性も高い。

2013年県内での患者報告数は99人、定点あたり2.92人であった。小児に多い疾患であるが、県内及び全国ともに20歳以上の占める割合が高かった（沖縄県：68.7%、全国：30.2%）。百日せきワクチンによる免疫効果は5～10年程度と見積もられており、ワクチン既接種の成人も百日咳に対する感受性者である。成人が感染した場合、症状が軽いため本人が気づかないうちに乳幼児への感染源となることを考慮する必要がある。

百日咳 過去5年の流行時期の比較



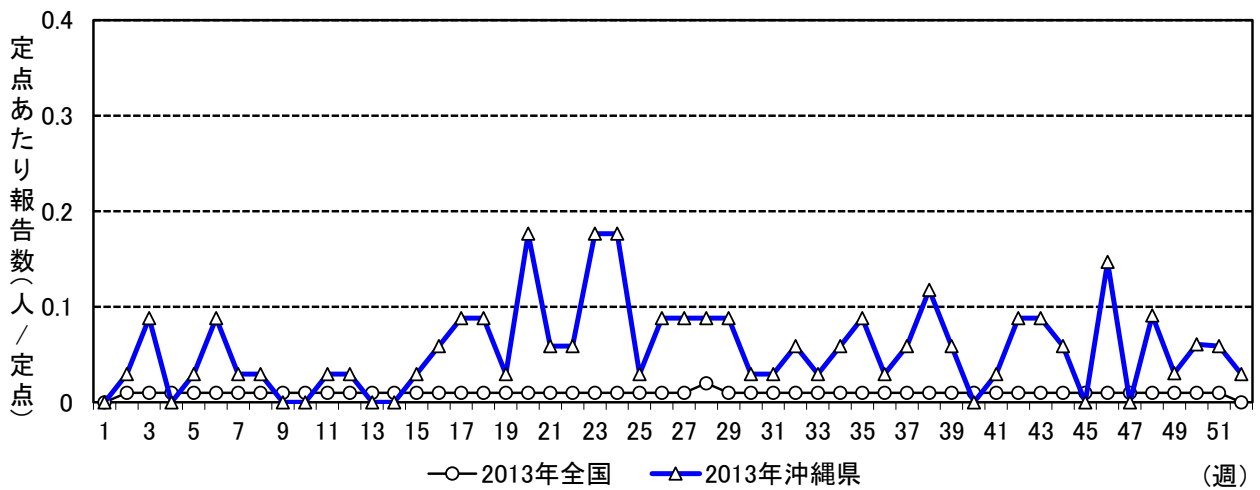
定点あたり報告数 年次推移



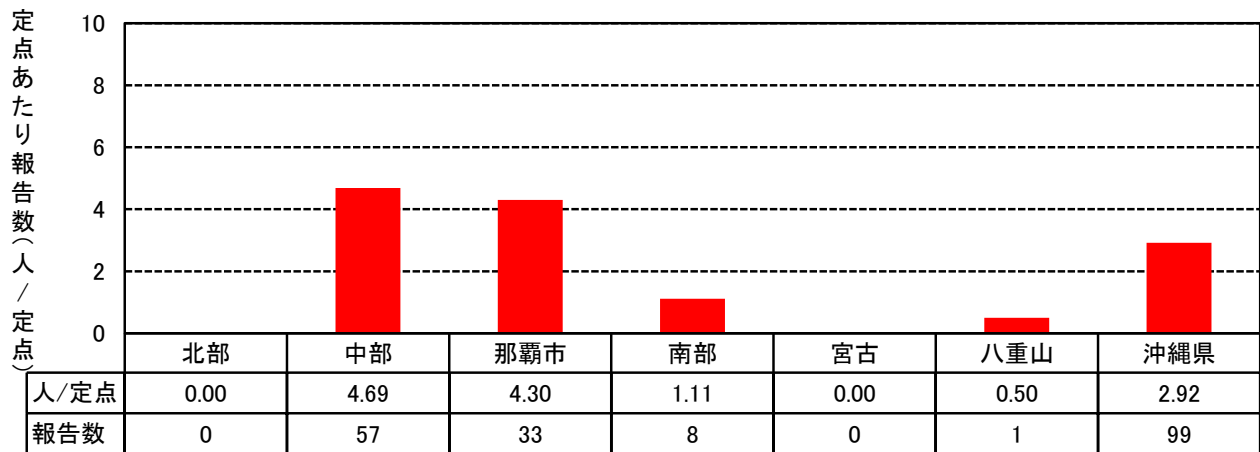
シーズン別の報告数合計：百日咳

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
178	151	263	233	146	99

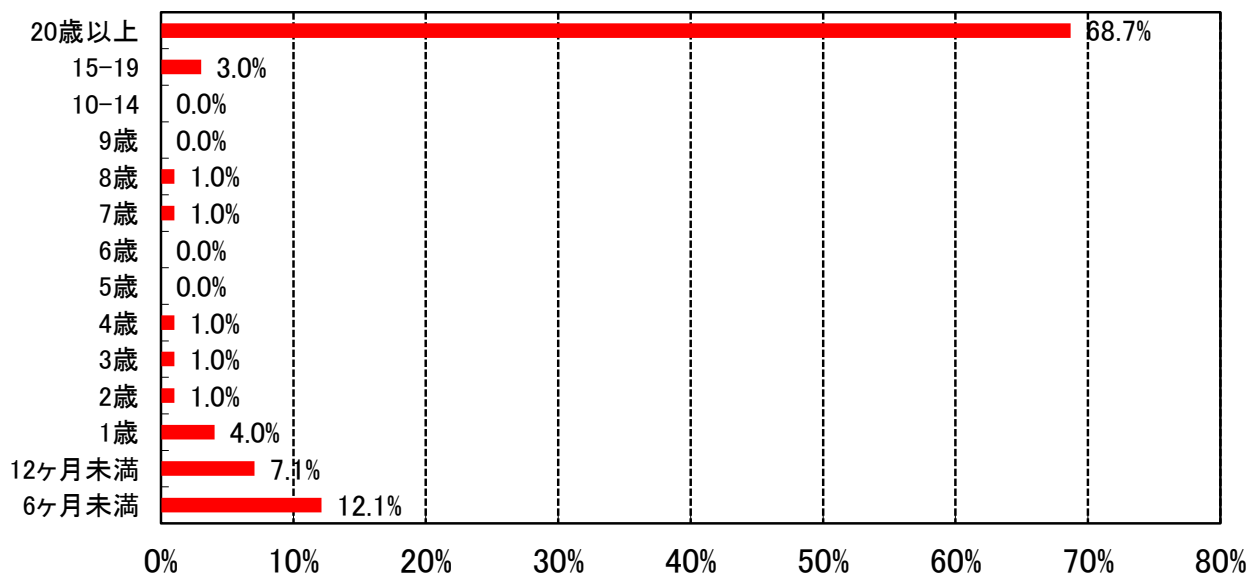
百日咳 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合：沖縄県

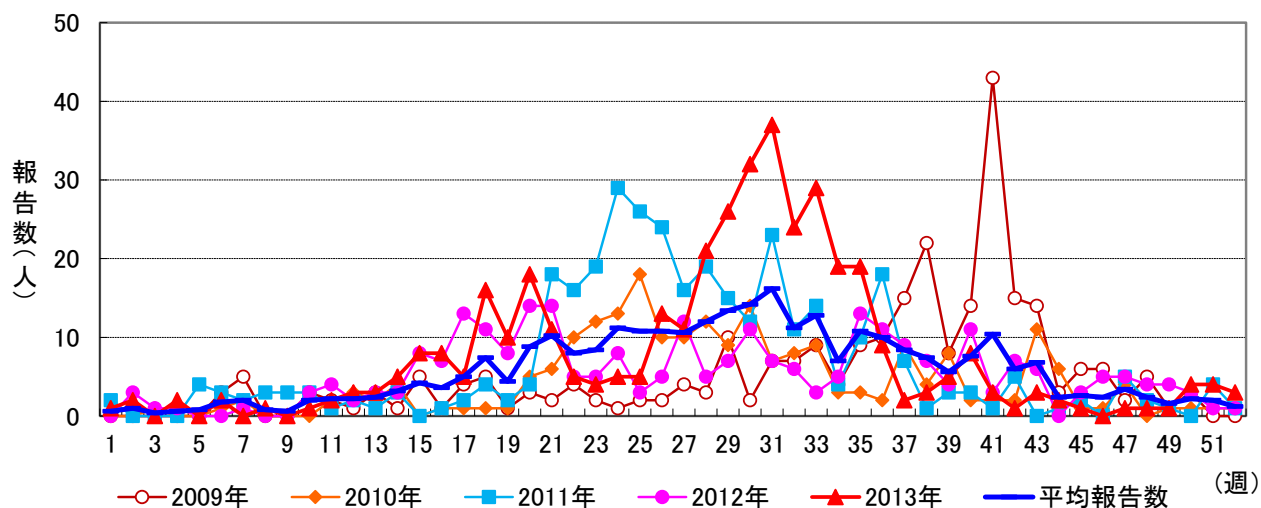


ヘルパンギーナ

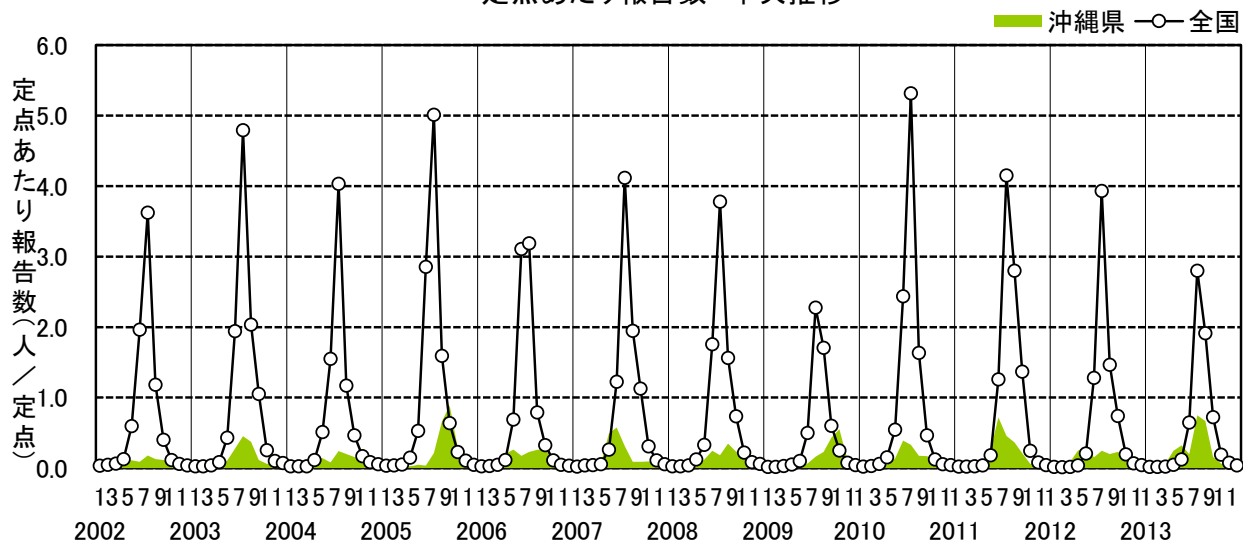
ヘルパンギーナは、エンテロウイルス属、特にA群コクサッキーウイルスを主原因とする感染症である。発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する夏かぜの代表的疾患である。

2013年県内の患者報告数は399人、定点あたり11.74人であり、前年比1.45と増加した。県全体で警報レベルに達する時期はなかった。年齢階級別では、1歳の患者報告数が最も多く全体の34.6%を占めていた。

ヘルパンギーナ 過去5年の流行時期の比較



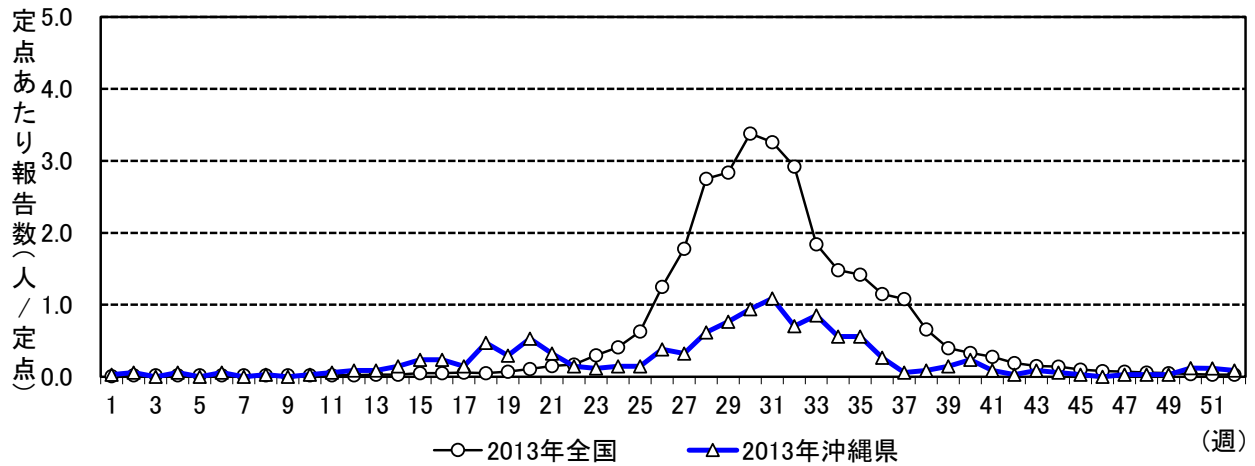
定点あたり報告数 年次推移



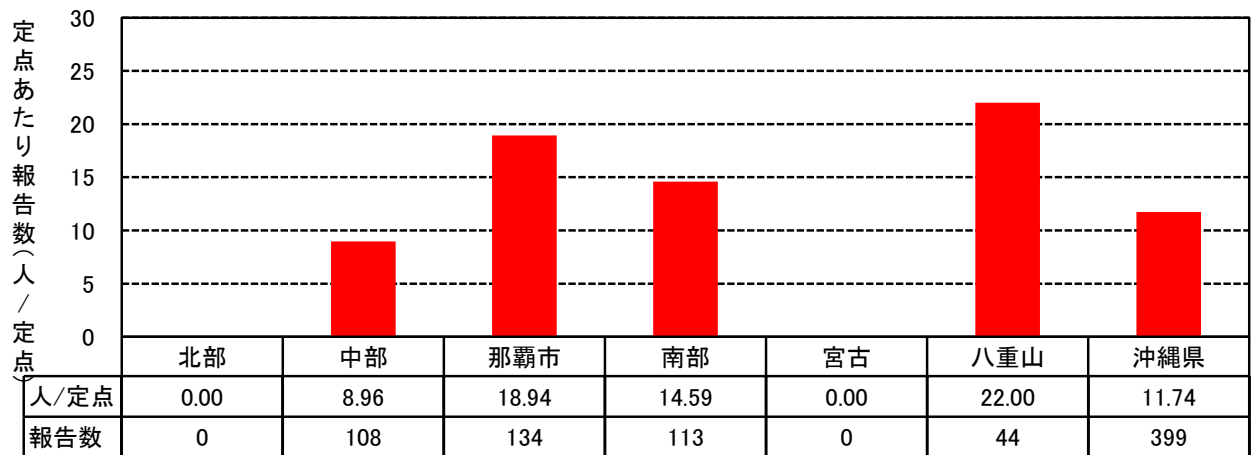
シーズン別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
304	272	224	350	275	399

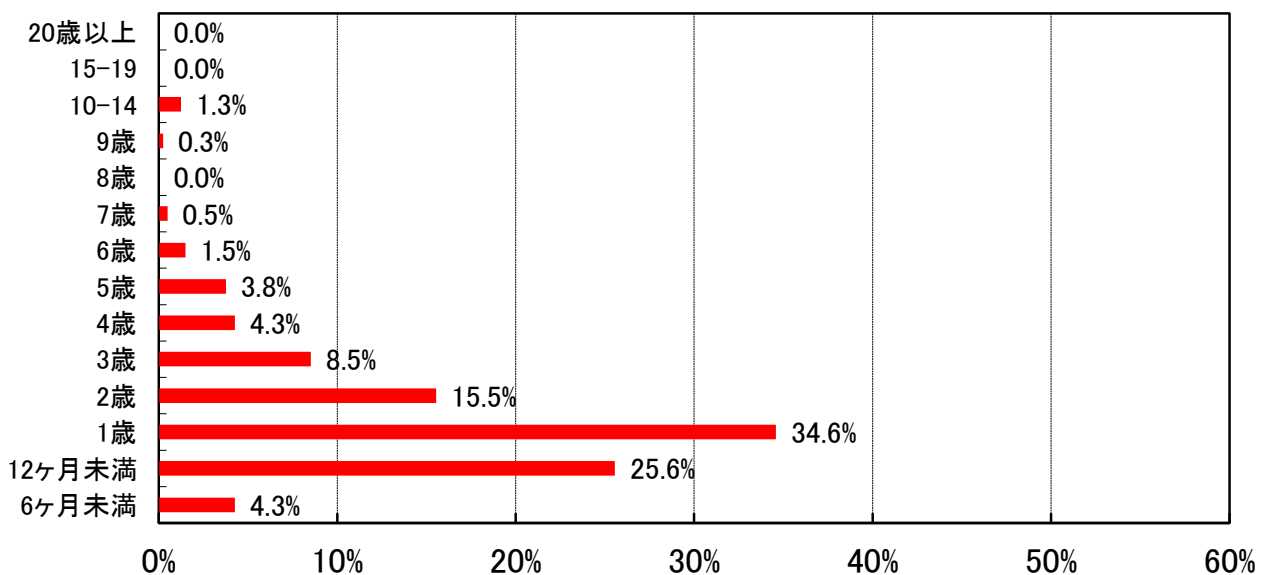
ヘルパンギーナ 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数

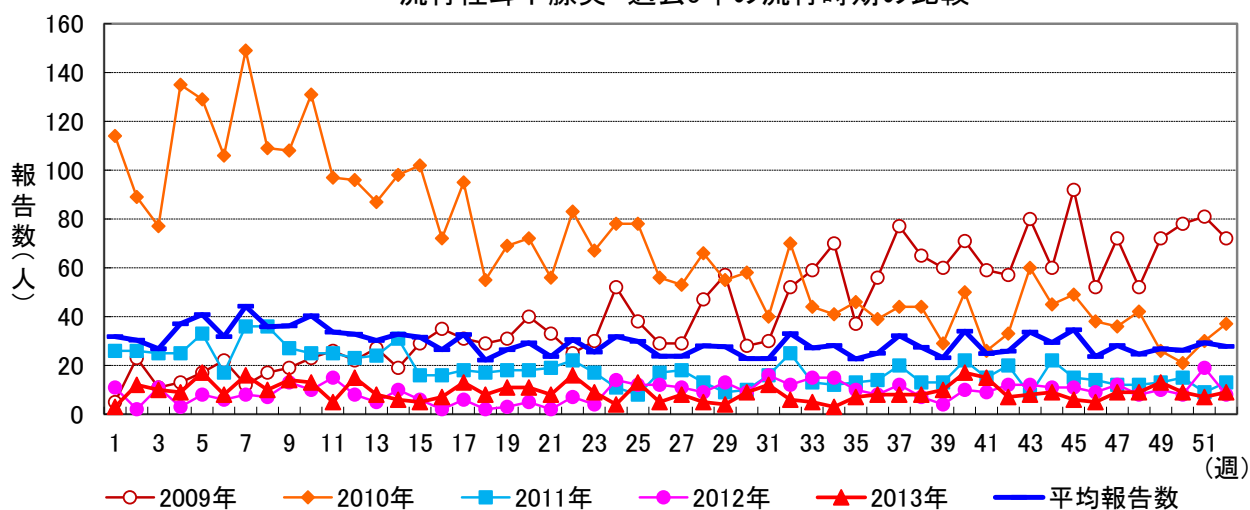


年齢階級別割合（沖縄県）

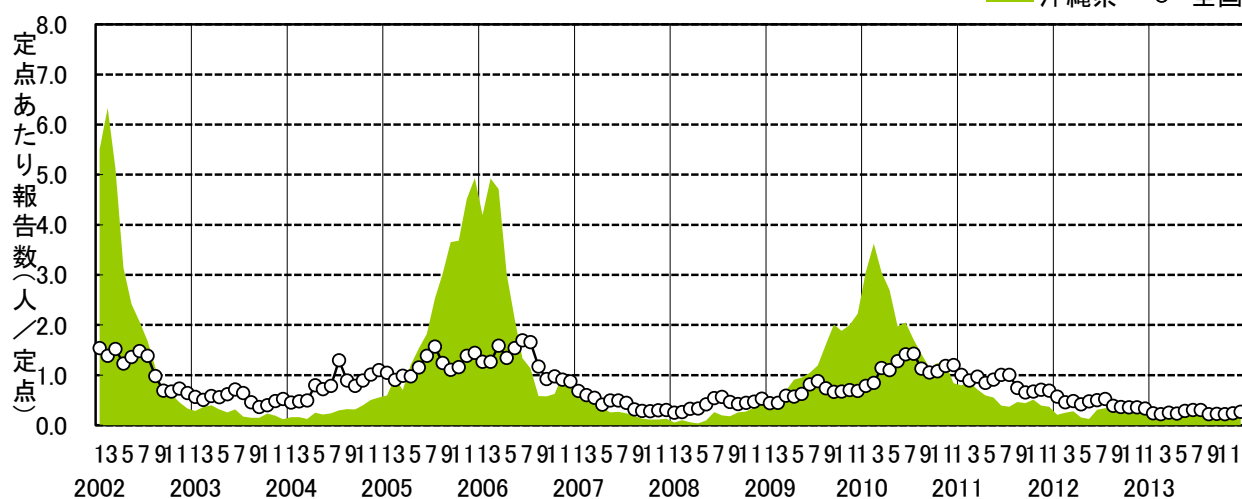


流行性耳下腺炎は、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするムンプスウイルスによる感染症である。本疾患は全国でも毎年、3～4年周期での患者増加がみられており、本県でも概ね4年周期で増加が認められている。

流行性耳下腺炎 過去5年の流行時期の比較

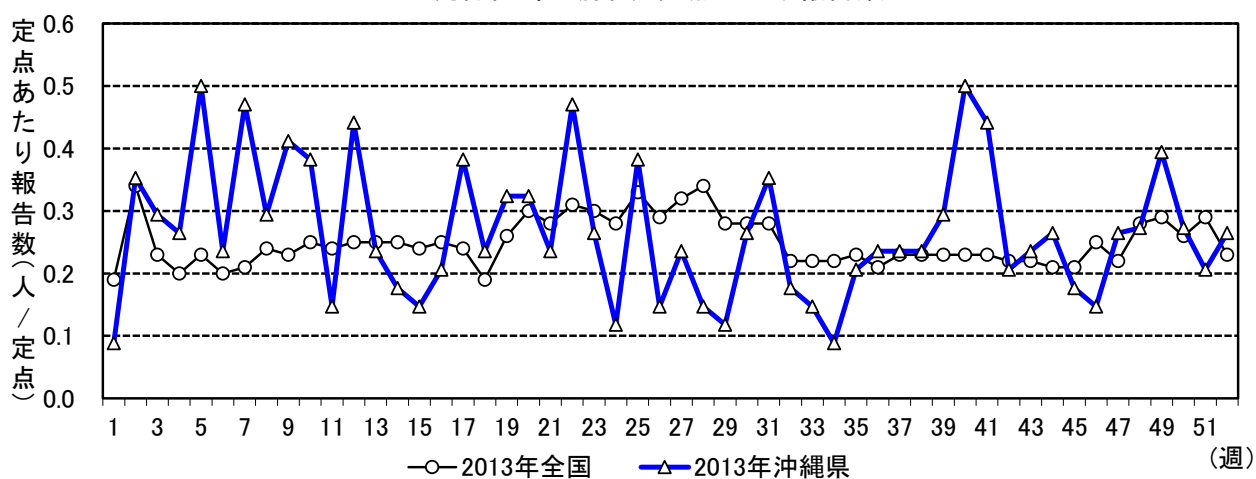


■ 沖縄県 一〇 全国

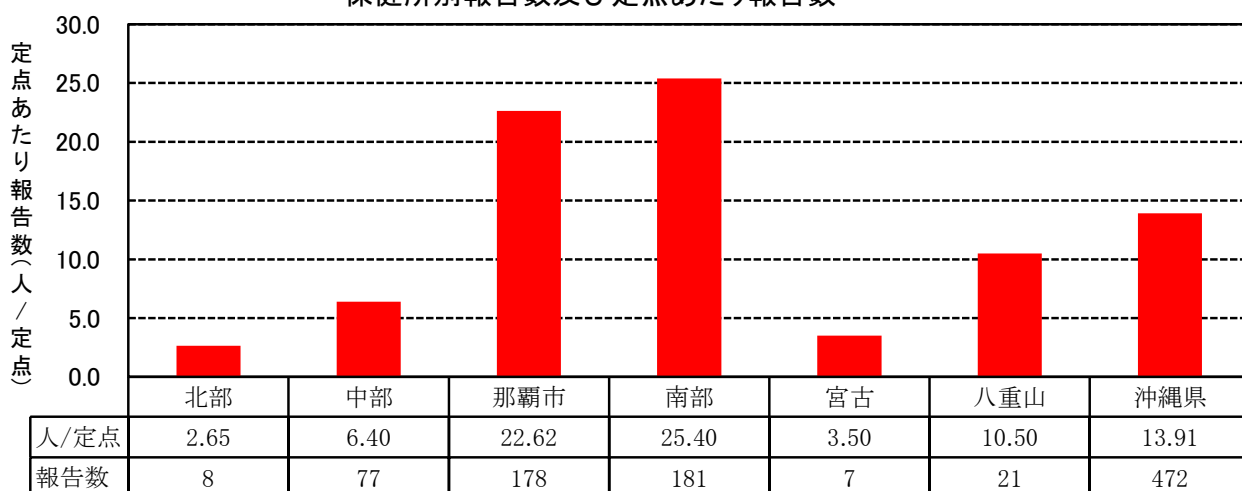


平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1,545	2295	3530	955	472	472

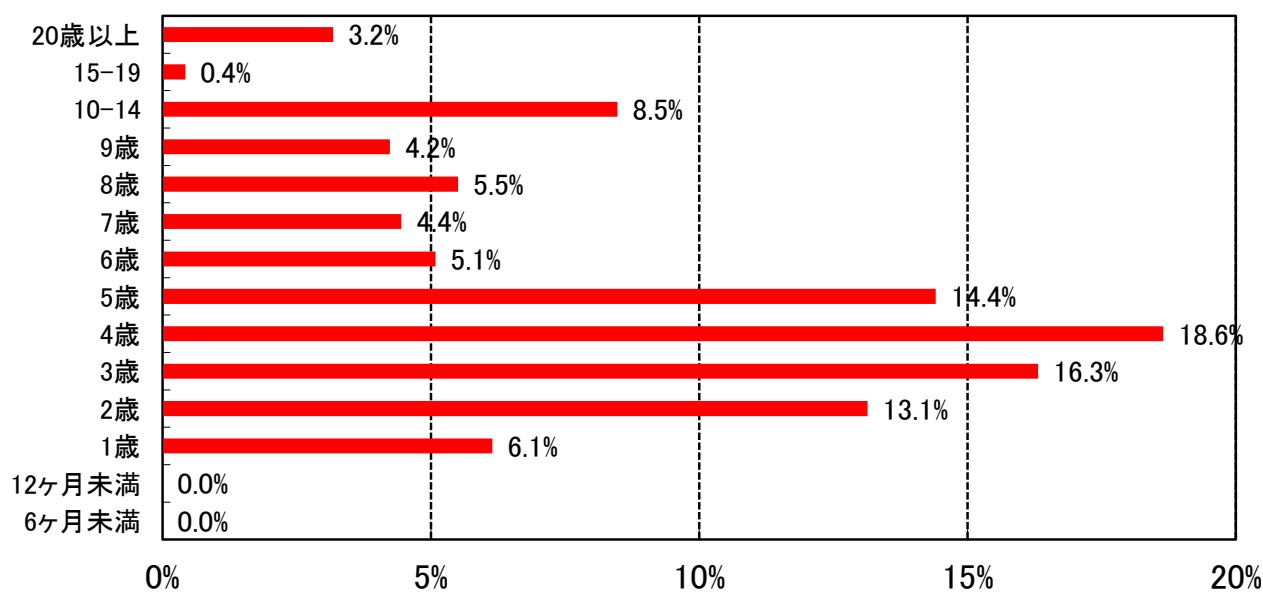
流行性耳下腺炎 定点あたり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)



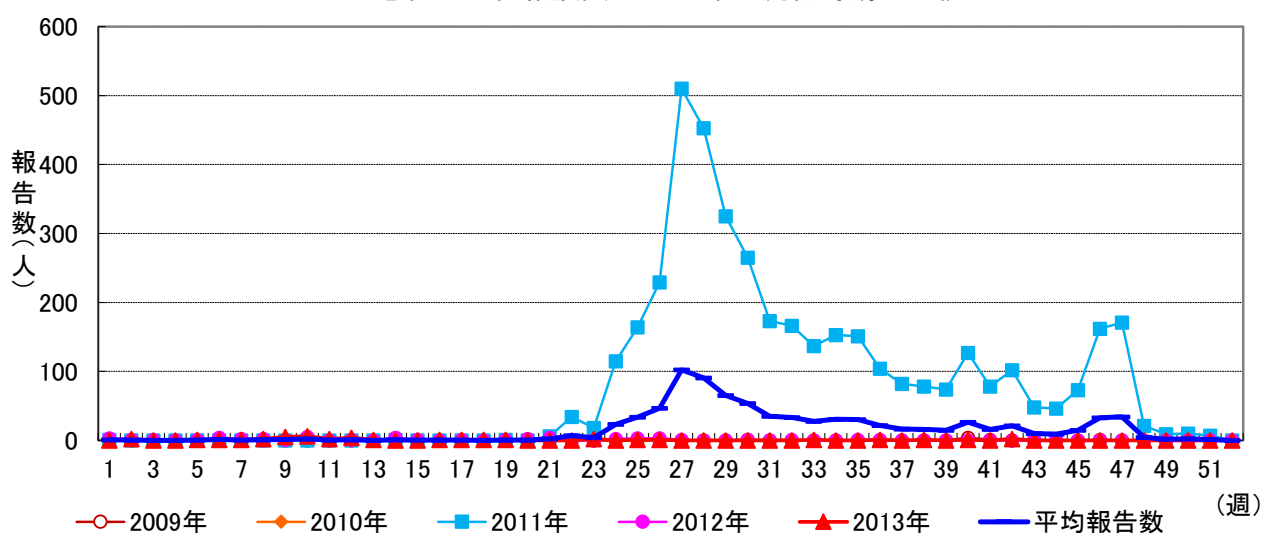
(眼科定点)

急性出血性結膜炎

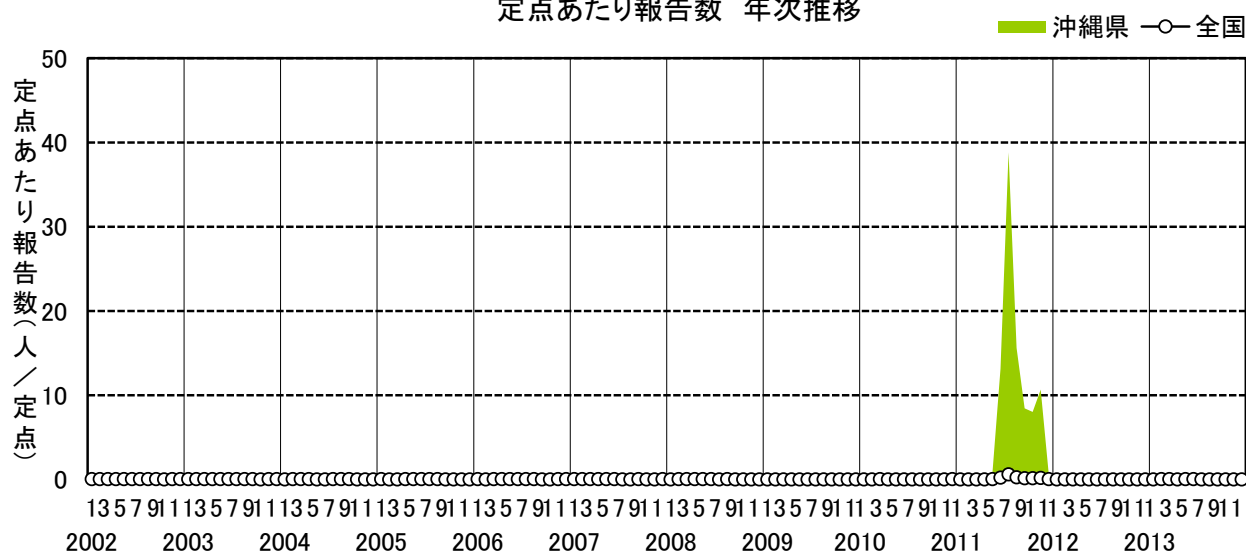
急性出血性結膜炎（AHC）は、エンテロウイルス70型（EV70）とコクサッキーウイルスA24変異型（CA24v）を主原因とする激しい出血症状を伴う結膜炎である。

2013年県内の患者報告数は39人、定点当たり3.90人であり、前年比0.81と微少した。

急性出血性結膜炎 過去5年の流行時期の比較

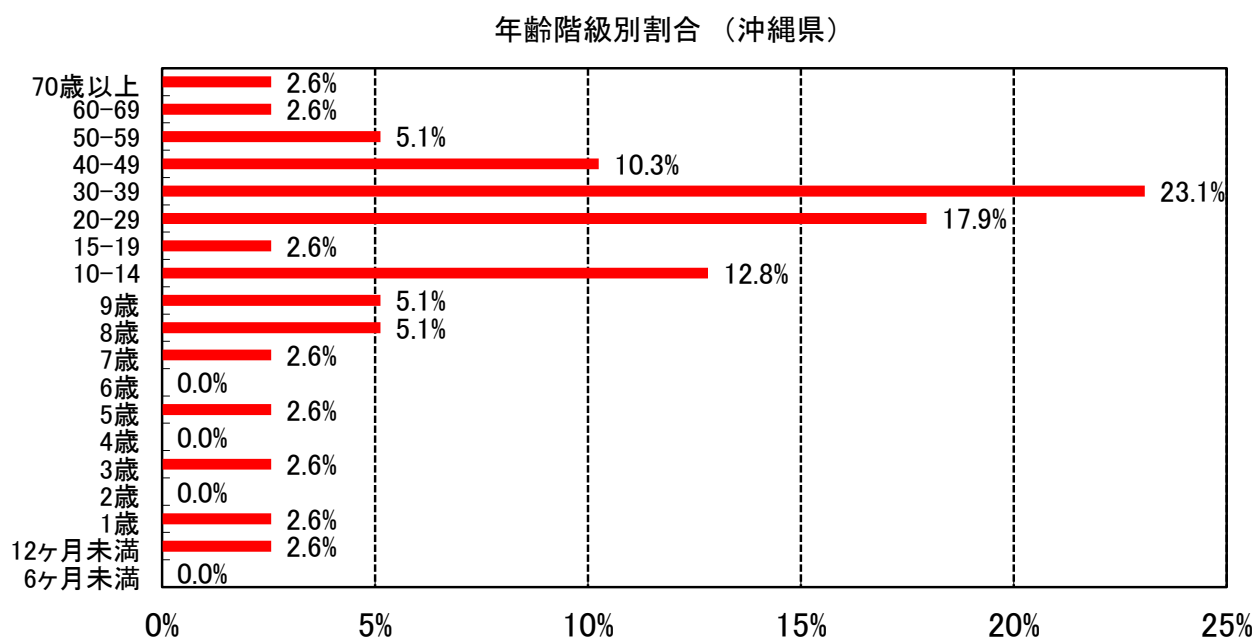
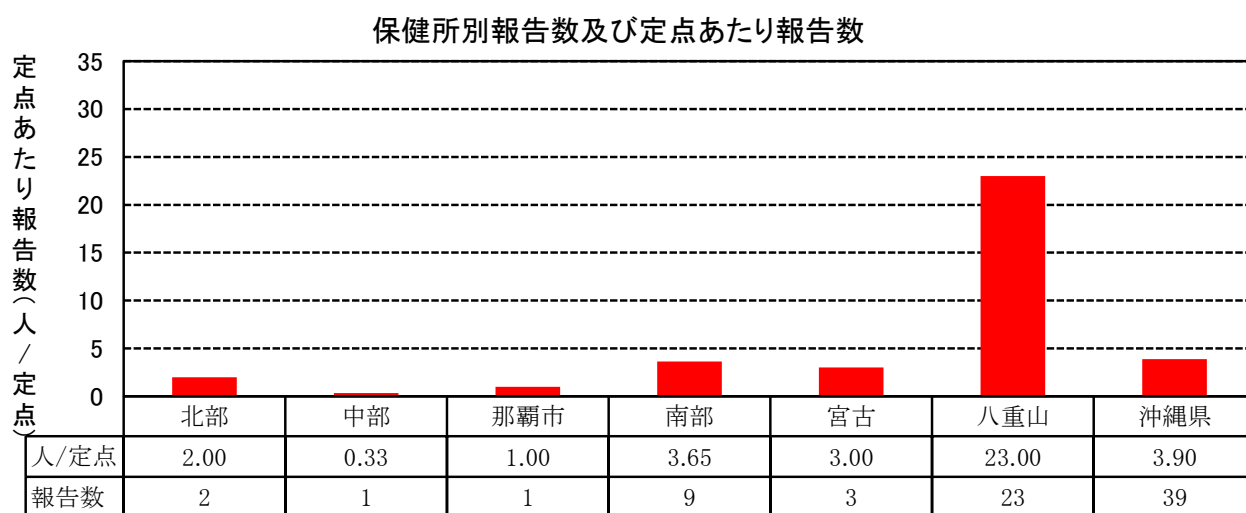
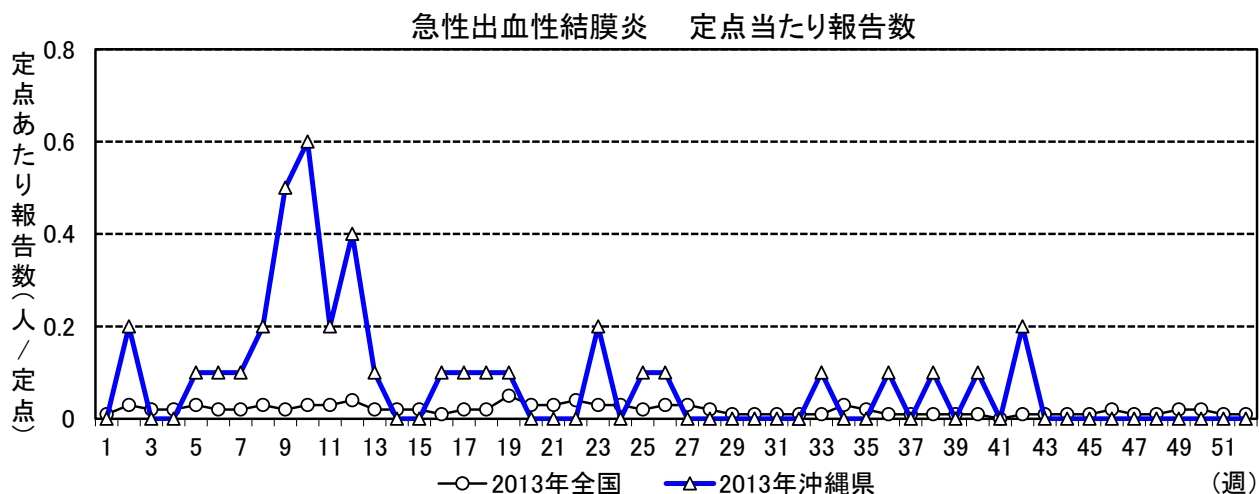


定点あたり報告数 年次推移



シーズン別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
839	9	6	4094	48	39

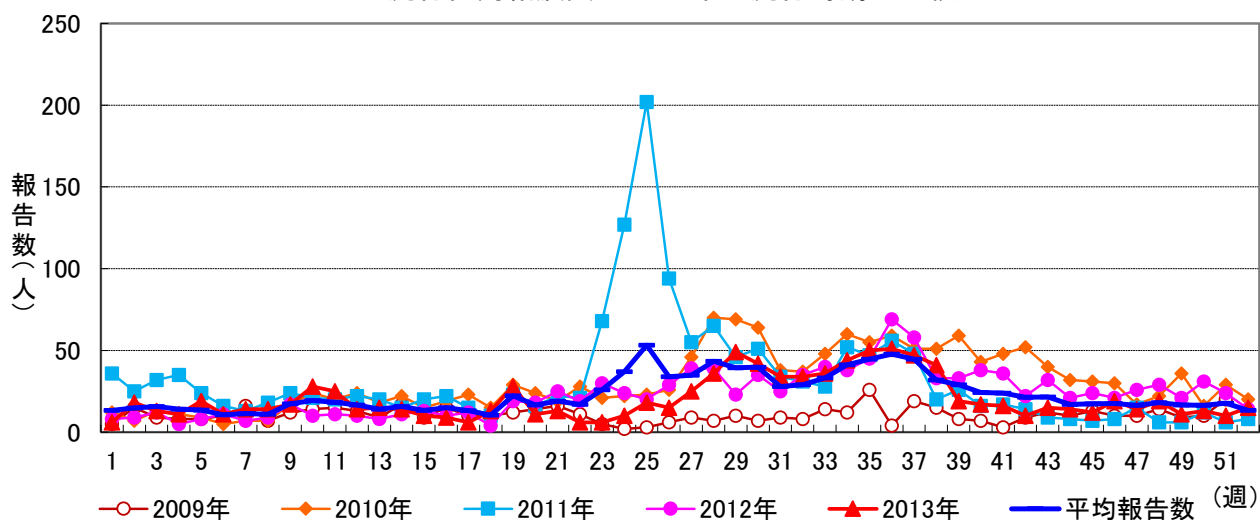


流行性角結膜炎

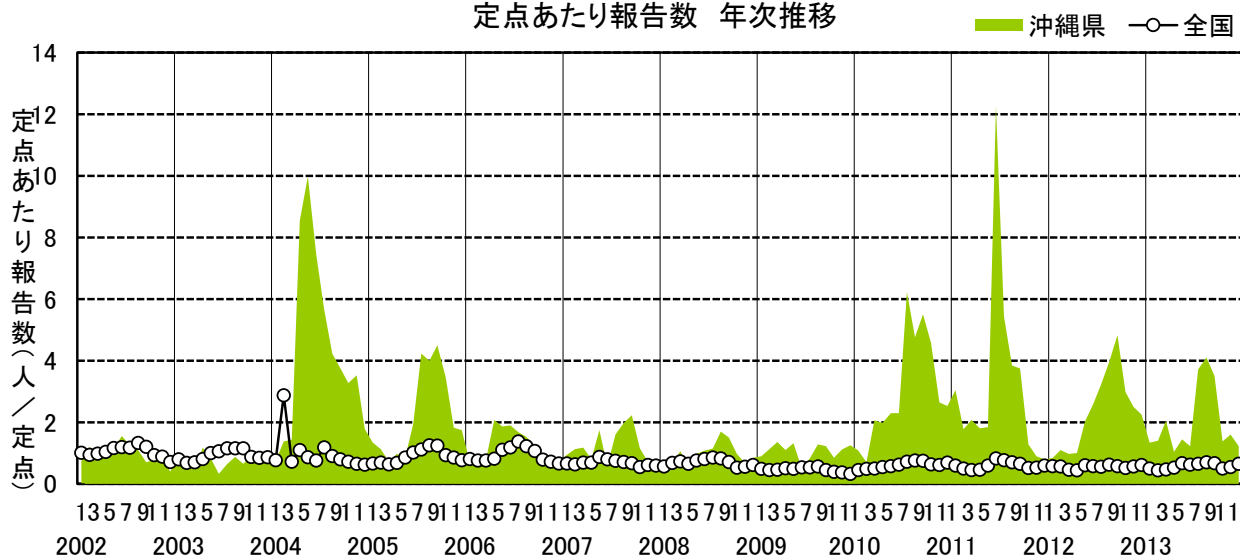
流行性角結膜炎（EKF）は、D群のアデノウイルス8、19、37型等を原因ウイルスとし、流涙（なみだ目）・充血・眼脂（めやに）を主症状とする。家庭内、職場、病院などの人が濃密に接触する場所で流行しやすいとされている。

2013年県内の患者報告数は1,057人、定点あたり105.70人であり、前年比0.87と減少した。八重山保健所管内では第10週～第15週（3～4月）にかけて、北部保健所管内では第28週～第36週（7月～9月）にかけて警報レベルが続いた。年齢階級別では乳児から高齢者まで幅広く報告され、そのうち30代が最も多く全体の19.7%を占めていた。

流行性角結膜炎 過去5年の流行時期の比較

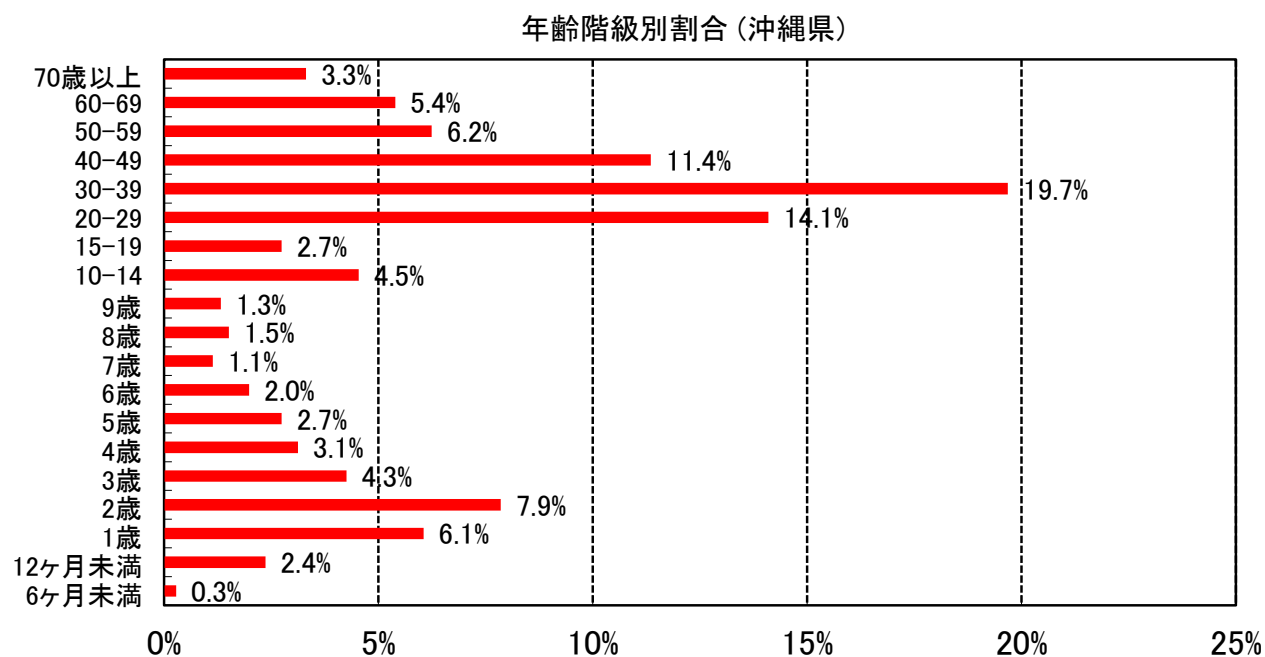
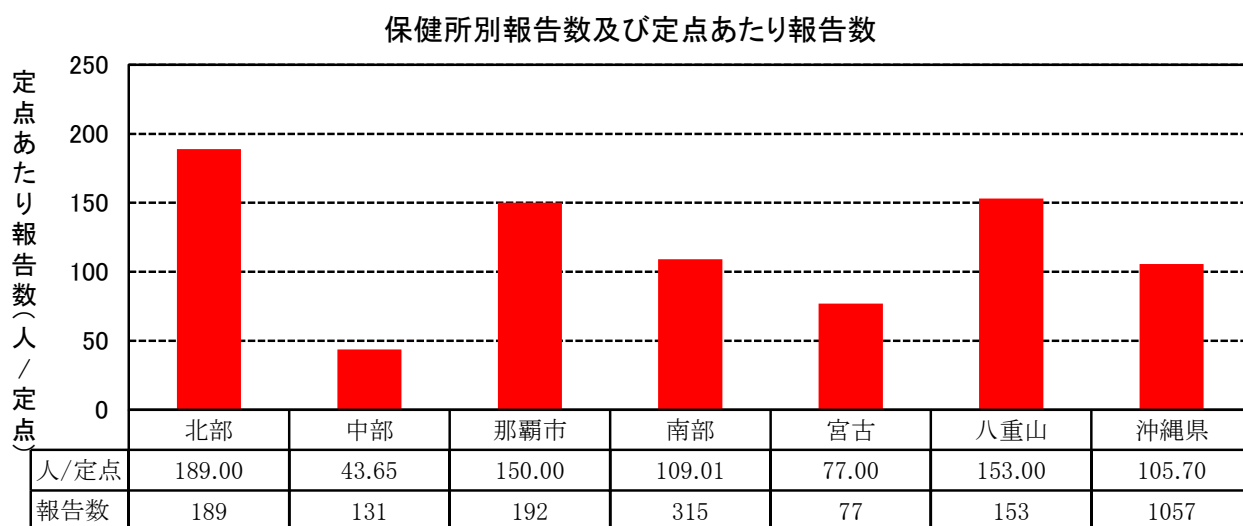
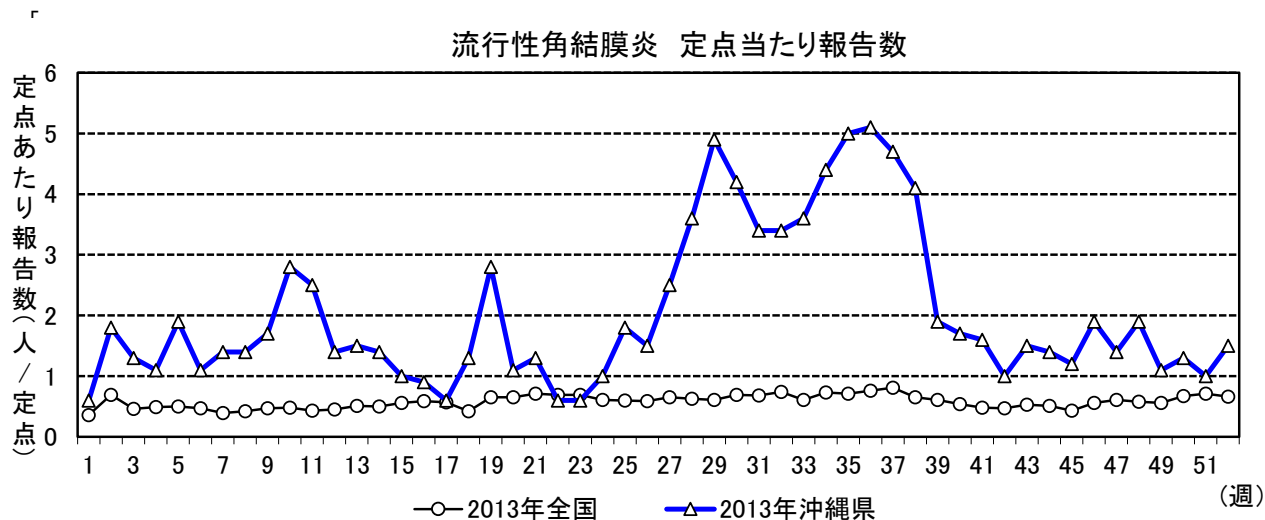


定点あたり報告数 年次推移



シーズン別の報告数合計：流行性角結膜炎

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1,214	566	1583	1652	1210	1057



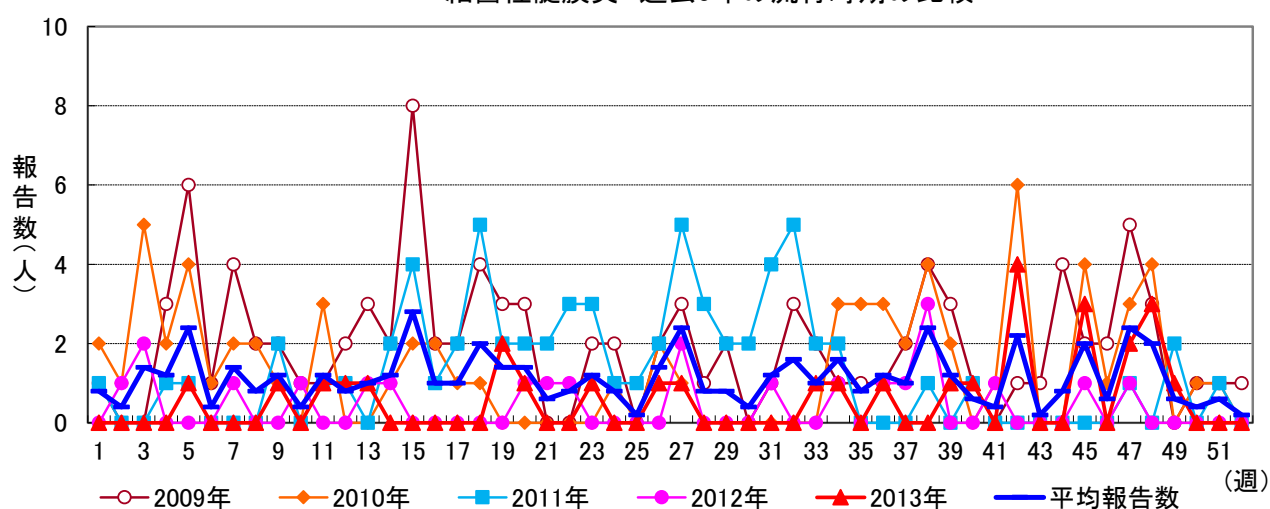
(基幹定点)

細菌性髄膜炎

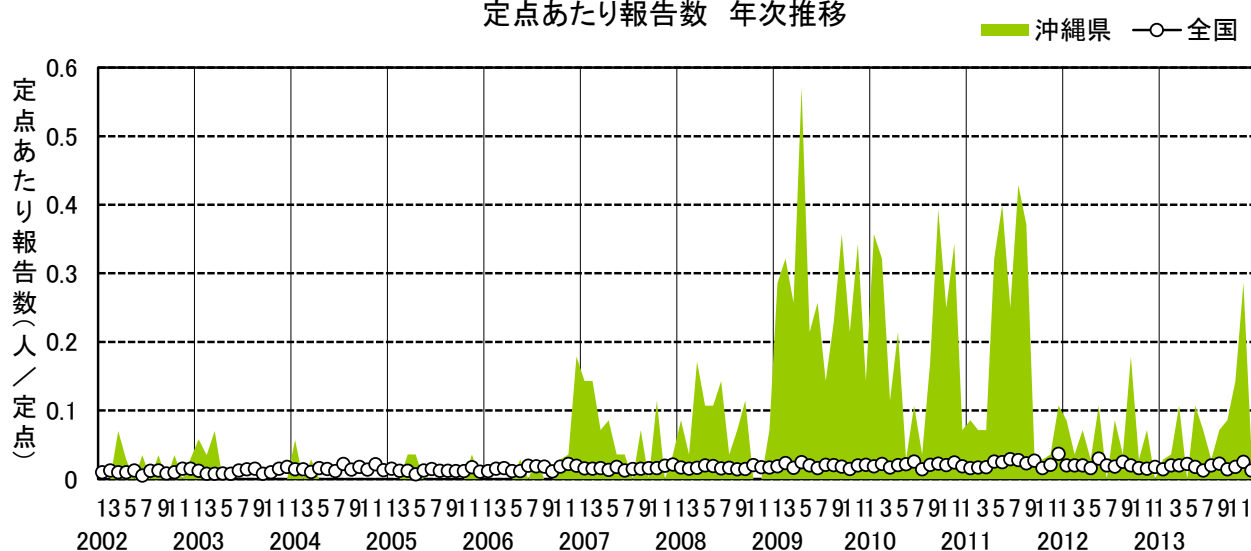
細菌性髄膜炎は、種々の細菌感染による髄膜炎の総称であり、多くは発熱、頭痛、嘔吐を主症状とし、進行すると意識障害や痙攣がみられる。季節性はなく、原因菌はインフルエンザ菌、肺炎球菌が多い。

2013年県内の患者報告数は29人、定点あたり4.14人であった。中部保健所管内の患者報告が全体の約9割を占めていた。

細菌性髄膜炎 過去5年の流行時期の比較

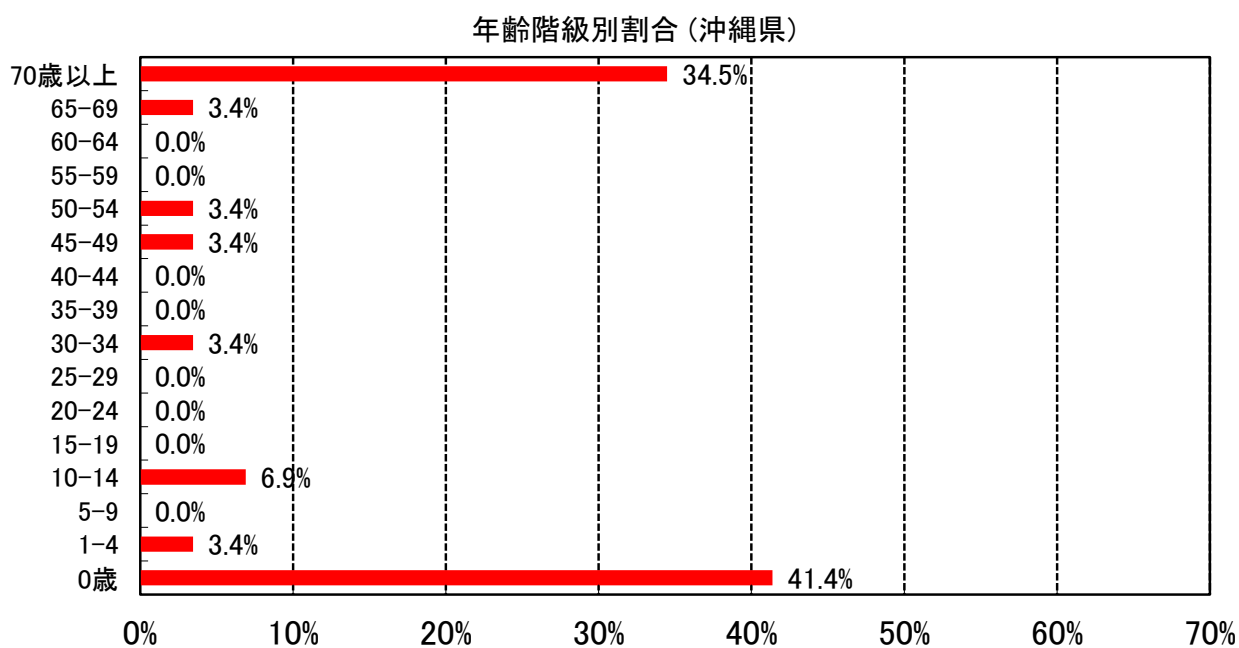
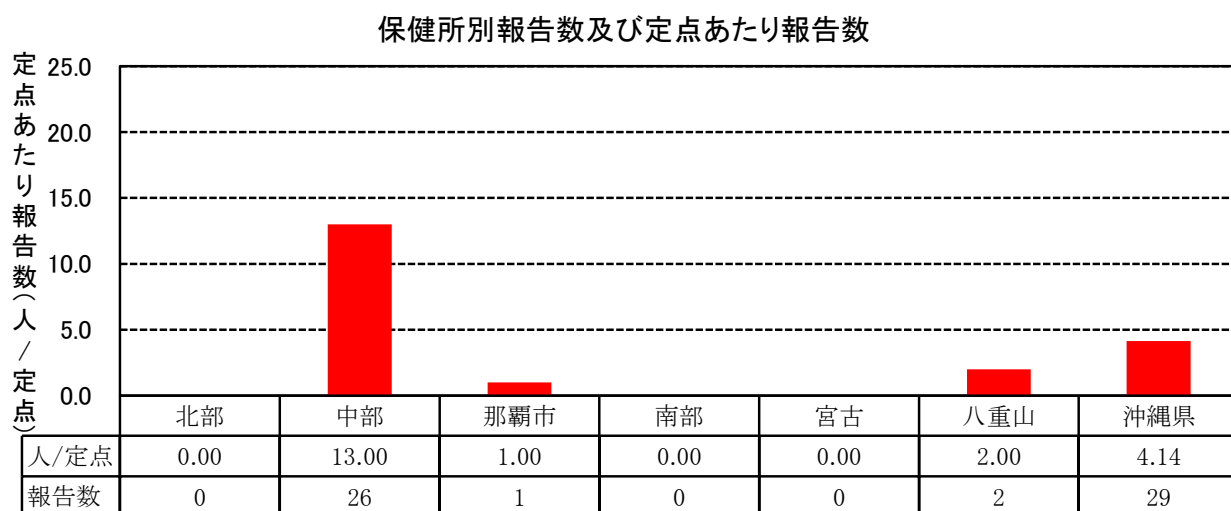
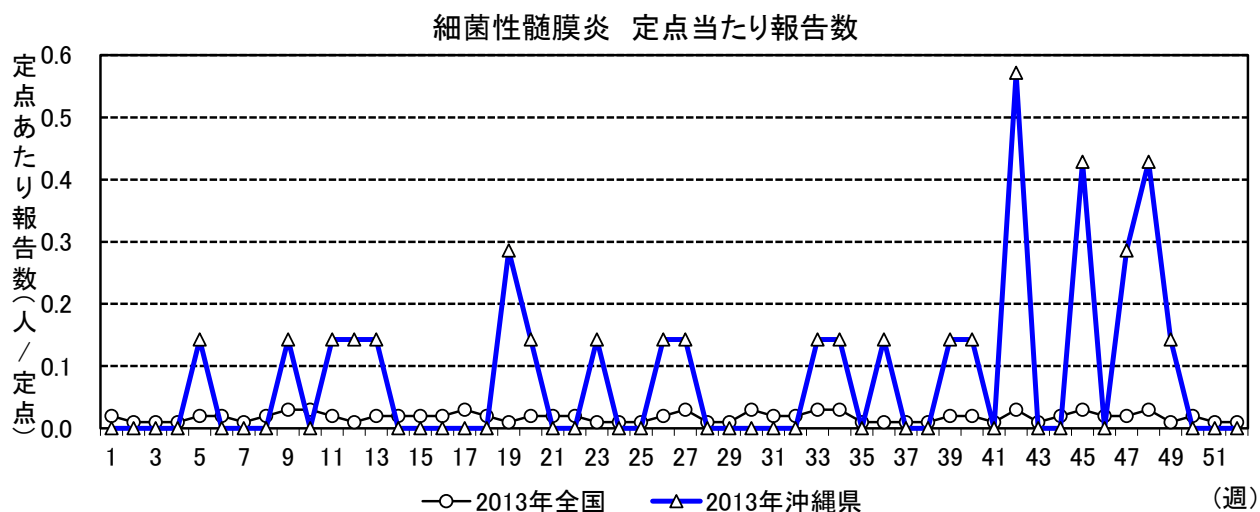


定点あたり報告数 年次推移

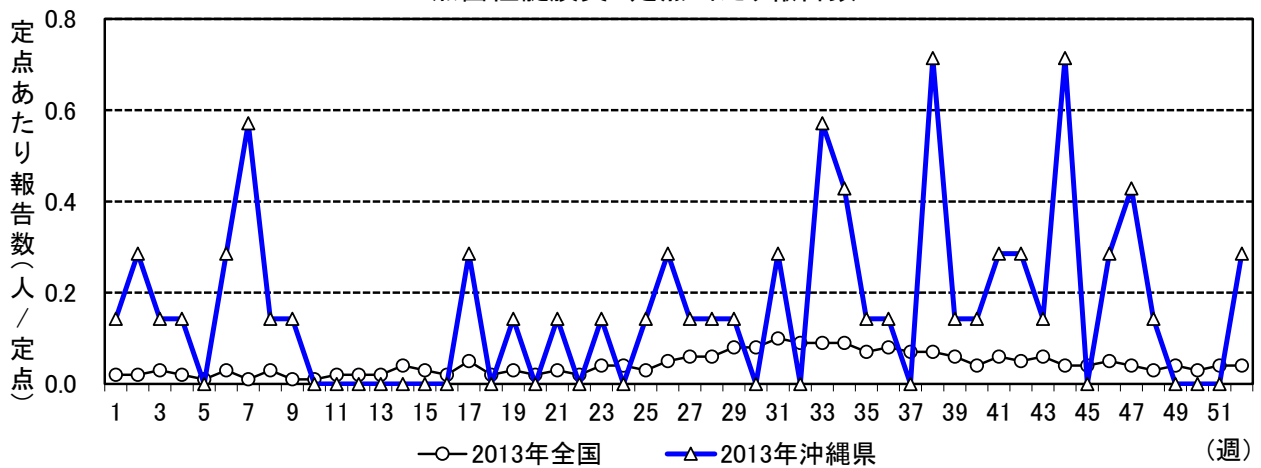


シーズン別の報告数合計: 細菌性髄膜炎

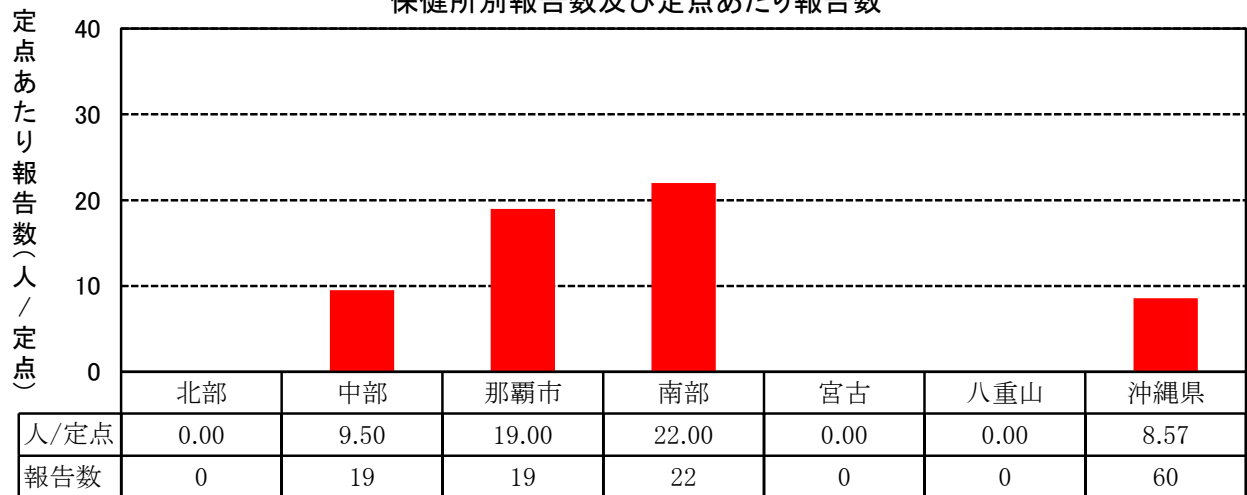
平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
59	103	72	68	22	29



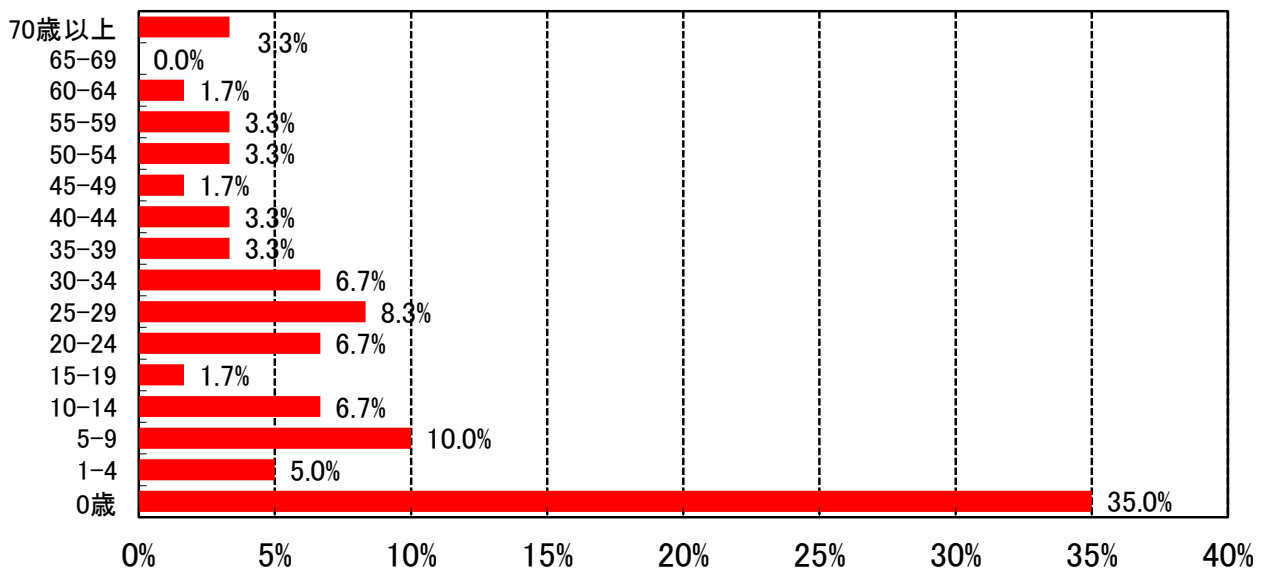
無菌性髄膜炎 定点当たり報告数



保健所別報告数及び定点あたり報告数



年齢階級別割合 (沖縄県)

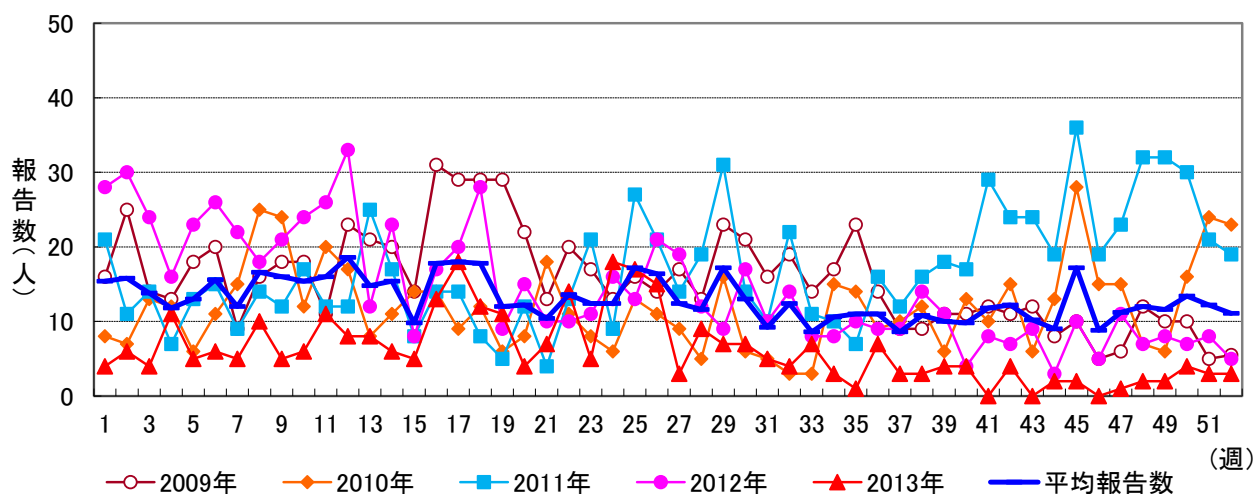


マイコプラズマ肺炎

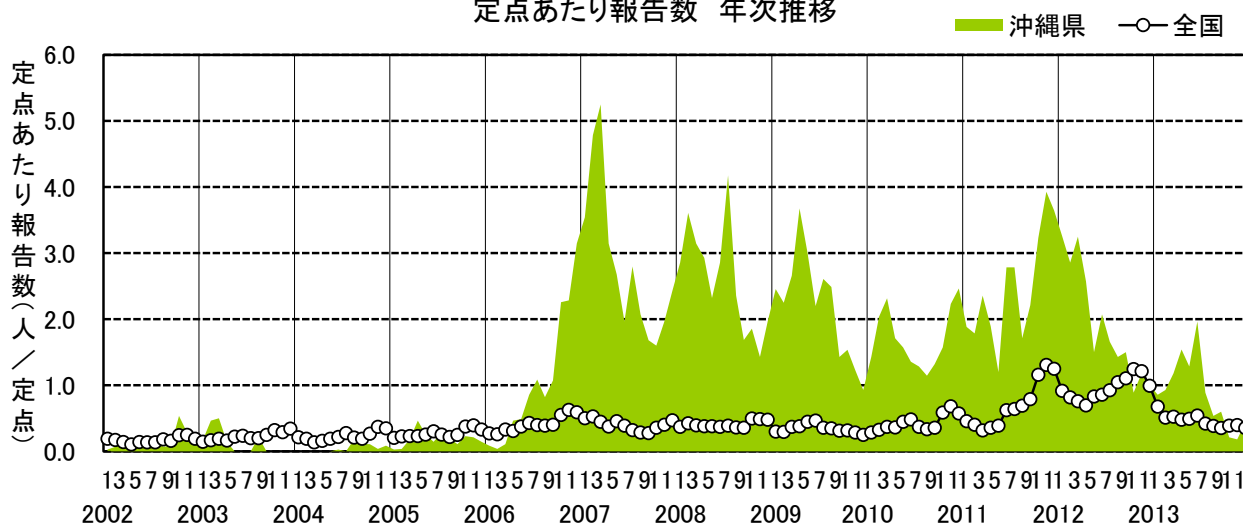
マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによる呼吸器感染症である。晩秋から早春にかけて報告数が多くなり、罹患年齢は幼児期、学童期、青年期が中心である。感染の拡大は通常閉鎖集団などではみられるが、学校などでの短時間での暴露による感染拡大の可能性は高くなく、友人間での濃厚接触によるものとされている。

2013年県内の患者報告数は324人、定点当たり46.29人であり、前年比0.43と減少した。年齢階級別の患者報告数は5歳未満が最も多く、全体の約50%を占めていた。

マイコプラズマ肺炎 過去5年の流行時期の比較



定点あたり報告数 年次推移



シーズン別の報告数合計: マイコプラズマ肺炎

平均報告数	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
678	818	623	880	746	324

